

平成29年度

シ ラ バ ス

桐生大学 医療保健学部

看護学科

講義コード	10020001
講義名	心理学
(副題)	
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	木曜日
代表時限	2 時限
区分	学部共通科目
必修/選択	選択
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 亀岡 聖朗	指定なし

授業の概要

ものを見聞きすること、覚えること、考えること、泣いたり笑ったりすることなど、私たちが意識するとしなやかにかかわらず、人のあらゆる活動に心はかかわっている。心理学は、私たちのそうした心のはたらきを実証的に明らかにすることを目的とした科学である。看護職をめざすものとして、人の心の多様なはたらきについて学修することは、人間理解の一環にもなる。本講義はそうした観点から、人の心の多様なはたらきがどのように明らかにされてきたかについて取り上げる。授業は講義形式で行うが、テーマによって視聴覚にうったえる試みもする予定である。

教育目標

人の心のはたらきについて広く知識を獲得し、人（患者）を理解する基本的態度を修得することを目標とする。

到達目標

1. 知覚・記憶・学習・発達・性格・感情と欲求・適応機制などにかかわる専門用語の意味を理解する。
2. 知覚・記憶・学習・発達・性格・感情と欲求・適応機制などにかかわる心理学理論について理解する。
3. 日常的な出来事を心理学の理論に沿って理解する。
4. 人の心の全般的なしくみについて理解する。

授業計画

	主題	授業内容	備考
第1回	オリエンテーション 心理学で取り扱う問題	オリエンテーション（授業の進め方、成績評価など） 講義で取り上げる内容、患者心理のメカニズム	第10章
第2回	感覚・知覚の心理学	心と身体の世界 ～外界を捉えるしくみ、知覚の特徴（視覚を中心に）、知覚のズレ	第1章
第3回	認知の心理学①	心と行動の形成① ～ものを覚える／忘れるしくみ、記憶の錯誤	第2章
第4回	認知の心理学②	心と行動の形成② ～注意と思考、人の認知的特性からみた医療事故予防	第2章

第5回	学習の心理学 ①	心と行動の形成③ ～新しい行動を身につけるしくみ（条件づけ理論と認知理論）	第2章
第6回	学習の心理学 ②	心と行動の形成④ ～動機づけ理論、動機づけを高めるためには	第2章
第7回	社会的関係の心理学①	対人関係① ～対人認知の諸相	第7章
第8回	社会的関係の心理学②	対人関係② ～話を聞くこと：ノンバーバルコミュニケーションの重要性	第7章
第9回	発達心理学①	心と行動の発達① ～生涯発達の視点、人間発達のしくみ、人生初期の発達	第3章
第10回	発達心理学②	心と行動の発達② ～発達の理論（フロイト、エリクソン、ピアジェを中心に）	第3章
第11回	個人差の心理学①	心の個性と深層 ～個性を反映するもの（知能と性格）、性格の理論、性格形成の要因	第4章
第12回	個人差の心理学①	医療に役立つ心理テスト ～心理テスト（心理検査）の種類（知能検査、性格検査、発達検査）	第8章
第13回	臨床心理学①	心の適応と障害 ～感情の種類、感情の表出、欲求と適応機制	第5章
第14回	臨床心理学②	心と身体心理臨床 ～ストレスと代表的な精神疾患（不安障害、気分障害、統合失調症を中心に）	第6章
第15回	臨床心理学③ まとめ	医療に役立つ心理臨床 ～ストレスへの対処法、カウンセリング理論（精神分析理論、学習理論、自己理論を中心に）	第9章

教科書

藤田主一・山崎晴美編『新 医療と看護のための心理学』福村出版

参考書

適宜紹介する。

成績評価

単位認定60点以上。筆記試験90%、レポート・課題等10%

授業時間外の学習

各回の主題に該当する教科書の章に目を通すことが予習となります。配布資料・ノートのまとめを復習として勧めます。

履修のポイント

授業への積極的な取り組みを期待します。

オフィス・アワー

毎週水曜もしくは木曜の昼休み（12：30～13：20）、11号館第8研究室。
あるいは、講義終了前後などに、適宜受け付けます。

講義コード	10030001
講義名	教育原論
(副題)	【教職必修】
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	4 時限
区分	学部共通科目
必修/選択	選択
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 山本 裕詞	指定なし

授業の概要

人間が必要としてきた「教育」について原理的な理解に努めます。特に、教育のパラドックスを深く自覚することにより、自己の教育に関わる体験や社会事象としての教育問題を相対化し、批判する力を高めていきます。

教育目標

- ①「教育」の基本的事項を原理的に理解する。
- ②先人の教育実践と教育思想の変遷を理解する。
- ③現実の教育事象を「教育のパラドックス」の視点から分析し考察する。

到達目標

一般到達目標：教育のパラドックスを理解した上で、次世代育成の教育的環境について、自己の見解を示すことができる。

教職を目指す者の目標：上記一般到達目標に加え、教育を受ける側から教育をする側に立場を変えるにあたっての留意点について、自己の見解を示すことができる。

授業計画

	主題	授業内容
第1回	オリエンテーション	・受講上の注意と評価方法 ・二つの教育モデルから考える教育目的の性質
第2回	教育的な行為とは何か	・「個性」と「一般性」の関係について ・教育者の「願い」と教育を受ける者の「自主性」
第3回	素質と環境	・「生得説」と「環境説」 ・「素質と環境の関係」と教育政策
第4回	教育の場	・生存権と教育を受ける権利 ・家庭、学校、社会の教育と生涯学習
第5回	西洋の教育 1	・アテネ、スパルタの教育とソクラテス ・プラトン、アリストテレス、古代ローマの教育
第6回	西洋の教育 2	・中世からルネサンス期にかけての教育 ・様々な「平等」の誕生と教育
第7回	西洋の教育 3	・実質陶冶と形式陶冶 ・自然主義の教育

第8回	西洋の教育 4	・近代公教育思想 ・生活主義の教育 ・経験主義と社会主義の教育
第9回	日本の教育 1	・江戸時代の教育観と「学制序文」にみる明治維新 ・教育目的をめぐる対立と「教育勅語」体制
第10回	日本の教育 2	・大正新教育運動の意義と限界 ・憲法教育基本法体制と「政治と教育」の間
第11回	日本の教育 3	・教育基本法の全部改正 ・教育改革の動向
第12回	日本の教育 4	・教育委員会に託された理想と現実 ・新しい地方教育行政の可能性とリスク
第13回	学校教育における異職種連携	・養護教諭と栄養教諭 ・カウンセラーとソーシャルワーカー
第14回	不登校と教育保障	・フリースクールと公教育 ・自己責任論と発達保障論
第15回	特別支援教育の意義 授業のまとめ	・「障害」の多義性と権力性 ・特殊教育から特別支援教育へ ・「合理的配慮」とは何か ・まとめとテスト

教科書

使用しません。

参考書

牛渡 淳著『改訂 教育学原論 教育の本質と目的』中央法規 2008年
熊谷一乗著『新・人間性と教育（第三版）』学文社 2009年
沼野一男・他著『教育の原理 第四版』学文社 2010年
勝野正章・庄井良信著『問いからはじめる教育学』有斐閣 2015年

成績評価

授業中に実施する確認テストと、授業期間の中盤で課すレポートの提出によって全体の50%を評価します。残りの50%は、授業最終日に行う「まとめテスト」（ノート・プリント持込可）によって評価します。なお、授業の欠席、遅刻、早退等は、それぞれ減点とします。詳細については授業初回のオリエンテーションで説明します。以上を総合して60点以上で単位認定します。

授業時間外の学習

授業期間の中盤で課す予定のレポートは、自学による情報収集が必要なものになります。また、授業の後は、ノートを整理しながら復習することが必要となります。随時、関連図書等を紹介するので、「教育」に対する自らの関心を深めていってください。

履修のポイント

「教育」についての原理的理解を深めるべく、学んだ原理を様々な教育事象に結びつけて考察することが重要です。

オフィス・アワー

授業の前後で質問に応じますが、その他、必要に応じて互いの都合の良い時間を個別に設定します。ご相談ください。

講義コード	10040001
講義名	法学
(副題)	
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	2 時限
区分	学部共通科目
必修/選択	選択
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 松原 直樹	指定なし

授業の概要

社会において、生活を営み、職業に従事する場合、少なからず法が関わってくる。特に、保健医療に関する分野は、他の職業領域と比較して、国による規制および国によるサービスが実施されることが圧倒的に多い。そのため、保健医療の従事者は法令により、その業務を行わなければならない。また、最近では、法的紛争に巻き込まれるケースは以前と比較して、格段に増加してきている。本講座では、日常生活や職場において必要とされる最低限の法的ことがらについて学習し、生活者として、また職業人として必要不可欠な法に関する知識を身につける。

教育目標

社会人として必要な法知識を身につけることができるよう、特に日常的な社会生活に関連する分野について、学修させる。また、医療者として不可欠な法知識・法感覚を身につけられるように、具体例を多く学修させる。

到達目標

法とは何か、また法令の基本構造、法令の読み方を理解する。また、日常生活に関わりのある法令を理解する。さらに、医療者として理解しておく必要のある具体的法令のうちのいくつかを読んで、理解できるようにする。

授業計画

	主題	授業内容	備考
第1回	法を学ぶことの意義	私たちが生活している中で、法がどのようにかかわっているのか、具体的な場面を通して、理解していく。	
第2回	法の体系、法の種類(1)	「法」には、いくつかの種類がある。その種類とそれぞれの関係について学習し、それらが具体的な場面において、どのような役割を果たしていくのか、理解する。	
第3回	法の種類	「法」の具体的種類である「法律」「政令」「省令」「条例」がどのように形作られていくのかについて、理解する。	

	類(2)		
第4回	条文のしくみ(1)	法令は、条文という形で、一般的な文章とは異なる形式で存在している。医療保健関係の具体的な法令を利用して、条文の法令全体の構造、規定の意味等について理解する。また、法令用語についても基本的なものについて理解する。	
第5回	条文のしくみ(2)	「法」の多くは、時間がたつと改正される。ここでは、法令の改正について学習する。改正の仕方はどのようなものであり、また改正後に条文がどのようなになるのか、医療保健関係の具体的な法令を利用して、学習する。	
第6回	法の適用プロセス	「法」は、われわれの生活のさまざまな場面で適用されている。日常生活、行政との関係、裁判などの具体的場面での適用プロセスを学習する。さらに、新しい「法」が、私たちの生活にどのような影響を与えるのか、具体的に検討する。	☆レポート1 「身近なニュースを法学的に検討する」
第7回	消費と法(1)	日常生活の財産に関わる法的ことがらの中で、特に消費者として関わる法について学習する。具体的に、「売買」についての法規定を日常生活の場面に即して理解する。	
第8回	消費と法(2)	前回につづき、消費者として関わる法について学習する。具体的に、「契約」についての法規定を日常生活の場面に即して理解する。	★確認テスト1「法学の基礎」
第9回	家族と法(1)	家族について規定している法を学習する。具体的には、結婚・離婚に関する法規定について理解する。	
第10回	家族と法(2)	前回につづき、家族について規定している法を学習する。具体的には、親子関係、相続に関する法規定について理解する。	
第11回	職場と法(1)	労働者の権利を中心に学習する。労働条件の最低基準を定めた労働基準法を中心に、男女雇用機会均等法などの諸法令について、理解する。	
第12回	職場と法(2)	医療保健の専門職として守るべき法令について、学習する。また、労働者として、守るべき法令その他のルールについても学習する。	☆レポート2 「医療保健に関わる法的問題について」
第13回	職場と法(3)	現代の労働環境において、大きな問題となっている「過労死」、「ブラックバイト」などへの労働者の対処法を学習する。	
第14回	情報化社会と法(1)	情報化の進展によって、利便性が向上する一方で、さまざまなトラブルが発生している。情報のやりとりに関する法令、法的トラブルの危険性について、学習する。	
第15回	情報化社会と法(2)全体まとめ	情報に関する具体的な法的トラブルについて学習する。また、最近の法的問題について、これまで学習したテーマと関連させて学習する。	★確認テスト2「民事法、労働法、全体のまとめ」
第16回			
第17回			
第18回			

使用しない
参考書
『ポケット六法』 山下友信・山口厚 編集代表 （有斐閣）
成績評価
平常点（授業への参加度・学習態度・授業内課題等） [20%] 、レポート [40%] 、確認テスト [40%] を総合して評価。総合点60点以上で単位認定する。
授業時間外の学習
次回の授業についての資料を読んでおくこと。授業終了後は、授業で説明された部分をハンドアウト等で復習しておく。レポート・確認テストについて、準備しておく。
履修のポイント
具体的な医療・福祉関係法令を学習する前提となることからに関する授業なので、よく理解しておくこと。
オフィス・アワー
月・火・木曜日, 11時～15時（授業時間以外）, 11号館3階第11研究室

講義コード	10050001
講義名	日本国憲法
(副題)	【教職必修】
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	2 時限
区分	基礎科目
必修/選択	選択
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 松原 直樹	指定なし

授業の概要

マスメディアでは、原発再稼働、安保法制、天皇退位、テロ対策法などの是非について、国民の間でも意見の分かれる問題がたくさん取り上げられている。また、地方の衰退や社会保障費の増大と税など、国の課題は山積している。そんな中、選挙権年齢が18歳以上に引き下げられ、昨年の夏から、大学生は全員が選挙権を有することになった。本講座においては、私たちの生活や安全に大きな関わりをもつ国の基本法である日本国憲法を素材に、私たちの生活を考えていく予定である。憲法の基本原理とその根底に流れる思想を学習した後、われわれの生活に深く関わりのある現代的なトピックを取り上げ、できる限りくらしとの関わりに留意しながら、主権者としての判断能力を身につけられるよう、学習していく。

教育目標

社会人として必要な憲法の知識を身につけることができるようにする。また、教職課程履修者については、教員として必要な最低限の憲法に関する知識、人権感覚を身につけることができるようにする。

到達目標

憲法の基本的構造を理解する。憲法とわたしたちの日常生活との関係を理解できる。どのような基本的人権がどういう目的でどのように保障されているかを理解できる。現在の日本の統治構造について学習し、人権保障との関係を理解する。

授業計画

	主題	授業内容	備考
第1回	憲法の意味	現在、日本国憲法に関してどのような問題が生じているのかについて学習した後、憲法とはどのような法かを学習する。立憲主義についても学習する。	
第2回	日本国憲法の誕生	日本国憲法の制定過程について、第二次大戦後からGHQによる憲法案の提示、国会での審議等について、VTRに沿って学習する。	
第3回	日本国憲法の基本	日本国憲法の基本原理である「国民主権」について、規定と意味について学習する。さらに、「基本的人権の尊重」に関する規定とその概要について学習する。	

	原理(1)		
第4回	日本国憲法の基本原理(2)	日本国憲法の基本原理である「平和主義」について、規定内容を学習し、さらに日本の防衛政策の現状、安保関連法制との関係について、学習する。	
第5回	法の下の平等	憲法が保障している法の下の平等の意義・内容について学習する。現実には生じている平等をめぐる問題について、判例を素材として検討する。	
第6回	精神的自由(1)	信教の自由を中心に学習する。なぜ認められる必要があるのか、その歴史的沿革、内容について学習する。	☆レポート1 「基本的人権に関わるニュースについて」提出
第7回	精神的自由(2)	政教分離原則について学習し、信教の自由に関する判例と政教分離に関する判例を素材として、学習する。さらに、表現の自由の意義について、学習する。	
第8回	精神的自由(3)	表現の自由について、その内容について、学習する。また、プライバシー権との関係についても学習する。さらに、表現の自由・プライバシー権をめぐる判例を検討する。	★確認テスト1 「日本国憲法の成立と基本原理、平等、自由権(1)」実施
第9回	法定手続きの保障 人身の自由	憲法が保障する「人身の自由」について学習した後、刑法との関係について理解する。また、犯罪と刑罰制度の概要を学習し、特に死刑制度について、その現状とそれに対する議論を検討する。	
第10回	社会権	社会権と区分される人権について学習した後、「生存権」「教育を受ける権利」、「労働基本権」等についてその概要を学習する。	
第11回	立法	国会のさまざまな権能、国権における地位について概観する。衆議院と参議院の関係、国会の意思決定過程、具体的な役割について学習する。さらに、選挙制度についても、学習する。	
第12回	行政	内閣の地位・役割について、学習する。「議院内閣制」の内容とメリット、内閣総理大臣の選出方法、国務大臣の任免、さらに内閣の具体的な役割、意思決定の方法等について、主に学習する。	☆レポート2 「統治機構(政治のしくみ)の課題について」提出
第13回	司法	裁判のしくみについて、概要を学習した後、刑事裁判で取り入れられている裁判員制度について、VTRに沿って学習する。	
第14回	天皇・地方自治・憲法改正	憲法が規定する「象徴天皇」の地位・権能、またそれを規定している皇室典範について、学習する。また、地方自治に関する来っていないようにについて学習し、さらに、憲法改正の手段、憲法改正に関する各政党・学界・国民の考え方について理解する。	

第15回	全体のまとめ	全体をまとめ、憲法を取り巻く状況とその課題について検討する。	★確認テスト2 「自由権(2)、社会系、統治機構」実施
第16回			
第17回			

教科書

『目で見える憲法』 初宿正典・大沢秀介・他 編著（有斐閣）

参考書

『ポケット六法』 菅野和男・江頭憲治郎・他 編（有斐閣）

成績評価

平常点（授業への参加度・学習態度・授業内課題等）〔20%〕、レポート〔40%〕、確認テスト〔40%〕を総合して評価。総合点60点以上で単位認定する。

授業時間外の学習

次回の授業についての資料を読んでおくこと。授業終了後は、授業で説明された部分をハンドアウト等で復習しておく。レポート・確認テストについて、準備しておく。

履修のポイント

教員免許を取得しようとする学生は、必ず履修すること。

オフィス・アワー

月・火・木曜日，11時～15時（授業時間以外），11号館3階第11研究室

講義コード	10060001
講義名	国際文化論
(副題)	
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	3 時限
区分	学部共通科目
必修/選択	選択
学年	4学年

担当教員

職種	氏名	所属
教 員	◎ 篠原 貴子	指定なし

授業の概要

グローバル化は、政治、経済、文化、歴史を含め、人々を取り巻く社会を大きく変容させた。本講義では、近代以降を中心として、社会学の視点から歴史や文化について学ぶ。

教育目標

幅広い視野に立って、歴史や文化あるいは現代の問題を理解する。

到達目標

世界の歴史や文化への興味・関心を高め、国際的な課題に対する認識を深めることを目標とする。

授業計画

	主題	授業内容
第1回	イントロダクション	国際文化論の課題
第2回	近代と国家Ⅰ	近代社会の誕生と成立
第3回	近代と国家Ⅱ	近代人の精神とSFの世界
第4回	四大文明	文明の探求と世紀末の発見
第5回	観光の近代Ⅰ	欧米のツーリズム
第6回	観光の近代Ⅱ	日本のツーリズム
第7回	文化人類学	オリエンタリズム
第8回	移民の世紀Ⅰ	アメリカ移民の歴史
第9回	移民の世紀Ⅱ	移民と文化
第10回	歴史と文学	マイノリティの生きる世界
第11回	現代の課題Ⅰ	ジェンダーと政治
第12回	現代の課題Ⅱ	シティズンシップ論
第13回	歴史と記憶Ⅰ	戦争の世紀と人々の語り
第14回	歴史と記憶Ⅱ	歴史の見方
第15回	まとめ	他者への理解

教科書
必要な資料は随時配布
参考書
授業時に随時紹介
成績評価
単位認定60点以上。授業態度や試験結果で総合評価する。
授業時間外の学習
授業内容に関して、意欲的に学習する。
オフィス・アワー
授業日の授業開始前もしくは終了後に教室等で相談に応じます。

講義コード	10070001
講義名	家族関係論
(副題)	
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	2 時限
区分	学部共通科目
必修/選択	選択
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 篠原 貴子	指定なし

授業の概要

本講義は、近代以降の家族をめぐる問題に関して、社会学や歴史学をはじめ多様な学問領域の視点を踏まえ、教育やジェンダーの視点を用いて歴史的に読み解くことを前提とする。また、現代の家族が抱える問題に着目し、家族を支援する諸制度も扱う。

教育目標

家族の概念や歴史にに関して学び、近代以降の展開を捉える。

到達目標

家族のあり方に関して、新たな視点と問題意識をもつことを目的とする。

授業計画

	主題	授業内容
第1回	イントロダクション	家族への着目
第2回	家族の歴史	近代社会と家族
第3回	家族研究の展開	家族研究の主題と方法
第4回	生命の誕生と家族	子どもの誕生と家族の役割
第5回	戦前日本の家族Ⅰ	近代国家における家族
第6回	戦後日本の家族Ⅱ	大衆化と女性の社会進出
第7回	女性の役割	女性のライフコース
第8回	家族イメージ	メディアにおける家族・女性像
第9回	結婚観	恋愛結婚の誕生、未婚化・晩婚化
第10回	家族の変容	セクシャリティの問題
第11回	現代の家族Ⅰ	家族が抱える子の問題（不登校、ひきこもり、児童虐待など）
第12回	現代の家族Ⅱ	夫婦関係の問題
第13回	家族と制度	育児支援の政策と展開
第14回	家族と地域	孤立する家族

第15回	まとめ	家族の未来
教科書		
必要な資料は随時配布		
参考書		
授業時に随時紹介		
成績評価		
単位認定 60 点以上。授業態度や試験結果で総合評価する。		
授業時間外の学習		
授業内容に関して、意欲的に学習する。		
オフィス・アワー		
授業日の、授業開始前もしくは終了後に教室等で相談に応じます。		

講義コード	10080001
講義名	スポーツ科学Ⅰ（Aクラス）
(副題)	【教職必修】
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	前期
講義区分	実験・実習
基準単位数	1
代表曜日	金曜日
代表時限	3時限
区分	学部共通科目
必修/選択	選択
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 高見 達也	指定なし

授業の概要

身体活動の必要性を理解し、身体の健全な維持などの合理的な方法を学ぶ。すなわち、スポーツを通しそれぞれの身体機能の維持あるいは向上を図るための基礎知識を知る。レクリエーションは精神的なストレスの解消ばかりでなく身体的な健康の維持にも重要である。レクリエーション理論について幅広く学ぶと共に、生涯に渡りレクリエーションとしてのスポーツを実践していく能力を高める。さらに実際のレクリエーションの計画・実施を行い、その効果の判定方法などについて学ぶ。

教育目標

自己身体運動の理解と分析

到達目標

レクリエーションの概念の理解
身体機能の維持・向上を図るための方法論の習得

授業計画

	主題	授業内容	備考
第1回	オリエンテーション	授業概要、諸注意、体力と身体機能について	運動着(ジャージ・スウェット等)、体育館シューズを用意してください。
第2回	メディカルチェック	スポーツの意識調査、スポーツ経験調査、ストレッチ	運動着(ジャージ・スウェット等)、体育館シューズを用意してください。
第3回	コミュニケーション・ワーク	①ホスピタリティ・トレーニング ②アイスブレイキング	運動着(ジャージ・スウェット等)、体育館シューズを用意してください。
第4回	球技	レクリエーションバレーボールの実践(基礎練習①)	運動着(ジャージ・スウェット等)、体育館シューズを用意してください。
第5回	球技	レクリエーションバレーボールの実践(基礎練習②)	運動着(ジャージ・スウェット等)、体育館シューズを用意してください。
第6回	球技	レクリエーションバレーボールの実践(基礎練習③)	運動着(ジャージ・スウェット等)、体育館シューズを用意してください。
		レクリエーションバレー	運動着(ジャージ・スウェット等)、体

第7回	球技	ボールの実践(基礎練習④)	育館シューズを用意してください。
第8回	球技	レクリエーションバレー ボールの実践(戦術①)	運動着(ジャージ・スウェット等)、体 育館シューズを用意してください。
第9回	球技	レクリエーションバレー ボールの実践(戦術②)	運動着(ジャージ・スウェット等)、体 育館シューズを用意してください。
第10回	球技	レクリエーションバレー ボールの実践(ゲーム①)	運動着(ジャージ・スウェット等)、体 育館シューズを用意してください。
第11回	球技	レクリエーションバレー ボールの実践(ゲーム②)	運動着(ジャージ・スウェット等)、体 育館シューズを用意してください。
第12回	球技	レクリエーションバレー ボールの実践(ゲーム③)	運動着(ジャージ・スウェット等)、体 育館シューズを用意してください。
第13回	球技	レクリエーションバレー ボールの実践(ゲーム④)	運動着(ジャージ・スウェット等)、体 育館シューズを用意してください。
第14回	レクリエー ション	レクリエーションスポーツ の実践	運動着(ジャージ・スウェット等)、体 育館シューズを用意してください。
第15回	レクリエー ション	指導方法、レクリエーショ ンプログラム作成、実践	運動着(ジャージ・スウェット等)、体 育館シューズを用意してください。

教科書

教科書は使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

成績評価

単位認定60点以上 【実技試験60%、授業内確認テスト20%、授業内の安全性（ルール等の厳守）20%】

授業時間外の学習

レクリエーションの意義について事前に学習すること。
バレーボールの基本的なルールや技能について学習をすること。

オフィス・アワー

授業日の授業開始もしくは授業終了後に体育館等で相談に応じます。

講義コード	10080002
講義名	スポーツ科学Ⅰ（Bクラス）
(副題)	【教職必修】
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	前期
講義区分	実験・実習
基準単位数	1
代表曜日	金曜日
代表時限	3時限
区分	学部共通科目
必修/選択	選択
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 高見 達也	指定なし

授業の概要

身体活動の必要性を理解し、身体の健全な維持などの合理的な方法を学ぶ。すなわち、スポーツを通しそれぞれの身体機能の維持あるいは向上を図るための基礎知識を知る。レクリエーションは精神的なストレスの解消ばかりでなく身体的な健康の維持にも重要である。レクリエーション理論について幅広く学ぶと共に、生涯に渡りレクリエーションとしてのスポーツを実践していく能力を高める。さらに実際のレクリエーションの計画・実施を行い、その効果の判定方法などについて学ぶ。

教育目標

自己身体運動の理解と分析

到達目標

レクリエーションの概念の理解
身体機能の維持・向上を図るための方法論の習得

授業計画

	主題	授業内容	備考
第1回	オリエンテーション	授業概要、諸注意、体力と身体機能について	運動着(ジャージ・スウェット等)、体育館シューズを用意してください。
第2回	メディカルチェック	スポーツの意識調査、スポーツ経験調査、ストレッチ	運動着(ジャージ・スウェット等)、体育館シューズを用意してください。
第3回	コミュニケーション・ワーク	①ホスピタリティ・トレーニング ②アイスブレイキング	運動着(ジャージ・スウェット等)、体育館シューズを用意してください。
第4回	球技	レクリエーションバレーボールの実践(基礎練習①)	運動着(ジャージ・スウェット等)、体育館シューズを用意してください。
第5回	球技	レクリエーションバレーボールの実践(基礎練習②)	運動着(ジャージ・スウェット等)、体育館シューズを用意してください。
第6回	球技	レクリエーションバレーボールの実践(基礎練習③)	運動着(ジャージ・スウェット等)、体育館シューズを用意してください。
		レクリエーションバレー	運動着(ジャージ・スウェット等)、体

第7回	球技	ボールの実践(基礎練習④)	育館シューズを用意してください。
第8回	球技	レクリエーションバレー ボールの実践(戦術①)	運動着(ジャージ・スウェット等)、体 育館シューズを用意してください。
第9回	球技	レクリエーションバレー ボールの実践(戦術②)	運動着(ジャージ・スウェット等)、体 育館シューズを用意してください。
第10回	球技	レクリエーションバレー ボールの実践(ゲーム①)	運動着(ジャージ・スウェット等)、体 育館シューズを用意してください。
第11回	球技	レクリエーションバレー ボールの実践(ゲーム②)	運動着(ジャージ・スウェット等)、体 育館シューズを用意してください。
第12回	球技	レクリエーションバレー ボールの実践(ゲーム③)	運動着(ジャージ・スウェット等)、体 育館シューズを用意してください。
第13回	球技	レクリエーションバレー ボールの実践(ゲーム④)	運動着(ジャージ・スウェット等)、体 育館シューズを用意してください。
第14回	レクリエー ション	レクリエーションスポーツ の実践	運動着(ジャージ・スウェット等)、体 育館シューズを用意してください。
第15回	レクリエー ション	指導方法、レクリエーショ ンプログラム作成、実践	運動着(ジャージ・スウェット等)、体 育館シューズを用意してください。

教科書

教科書は使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

成績評価

単位認定60点以上 【実技試験60%、授業内確認テスト20%、授業内の安全性（ルール等の厳守）20%】

授業時間外の学習

レクリエーションの意義について事前に学習すること。
バレーボールの基本的なルールや技能について学習をすること。

オフィス・アワー

授業日の授業開始もしくは授業終了後に体育館等で相談に応じます。

講義コード	10090001
講義名	スポーツ科学Ⅱ
(副題)	【教職必修】
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	前期
講義区分	実験・実習
基準単位数	1
代表曜日	月曜日
代表時限	1 時限
区分	学部共通科目
必修/選択	選択
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 高見 達也	指定なし

授業の概要

運動は健康で生き生きと過ごすために欠かせない大切な要素の一つである。生涯を通じて運動に親しみ実践していけるかどうかは青年期の取り組み如何による。基礎的な体力づくりのためのトレーニング方法の理論を学び、また運動実践能力を高めていく。更に、スポーツ活動を通じて心身を鍛え、スポーツコミュニケーションの追及、スポーツ実践による自己確認、技術の習熟による興味の拡大、スポーツ文化の理解を深める。

教育目標

自己身体運動の理解と分析

到達目標

基本トレーニングの方法論の習得。
グループワークにより、練習計画をたてるとともに、より高い技術の習得をめざす。

授業計画

	主題	授業内容	備考
第1回	オリエンテーション	授業概要、諸注意、運動の原理・原則について	運動着(ジャージ・スウェット等)、体育館シューズを用意してください。
第2回	総合運動能力測定	運動能力測定の方法と実施	運動着(ジャージ・スウェット等)、体育館シューズを用意してください。
第3回	総合運動能力測定	運動能力測定の実施 測定結果発表	運動着(ジャージ・スウェット等)、体育館シューズを用意してください。
第4回	運動処方・トレーニング方法	運動能力測定結果に基づき、運動の種類・強さ・持続時間・頻度を示し、運動時の注意点を明確にする。	運動着(ジャージ・スウェット等)、体育館シューズを用意してください。
第5回	球技Ⅰ	バドミントンの実践(基礎練習①)	運動着(ジャージ・スウェット等)、体育館シューズを用意してください。

第6回	球技Ⅰ	バドミントンの実践(基礎練習②)	運動着(ジャージ・スウェット等)、体育館シューズを用意してください。
第7回	球技Ⅰ	バドミントンの実践(ゲーム①)	運動着(ジャージ・スウェット等)、体育館シューズを用意してください。
第8回	球技Ⅰ	バドミントンの実践(ゲーム②)	運動着(ジャージ・スウェット等)、体育館シューズを用意してください。
第9回	球技Ⅰ	バドミントンの実践(ゲーム③)	運動着(ジャージ・スウェット等)、体育館シューズを用意してください。
第10回	球技Ⅱ	バスケットボールの実践(基礎練習)	運動着(ジャージ・スウェット等)、体育館シューズを用意してください。
第11回	球技Ⅱ	バスケットボールの実践(基礎練習・ゲーム①)	運動着(ジャージ・スウェット等)、体育館シューズを用意してください。
第12回	球技Ⅱ	バスケットボールの実践(ゲーム②)	運動着(ジャージ・スウェット等)、体育館シューズを用意してください。
第13回	球技Ⅱ	バスケットボールの実践(ゲーム③)	運動着(ジャージ・スウェット等)、体育館シューズを用意してください。
第14回	球技Ⅱ	バスケットボールの実践(ゲーム④)	運動着(ジャージ・スウェット等)、体育館シューズを用意してください。
第15回	有酸素トレーニングの実践	上肢・下肢のトレーニング(エアロビクス、サーキットトレーニング)	運動着(ジャージ・スウェット等)、体育館シューズを用意してください。

教科書

教科書は使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

成績評価

単位認定60点以上 【実技試験60%、授業内確認テスト20%、授業内の安全性（ルール等の厳守）20%】

授業時間外の学習

基本的なルールについて学習をし、体力・技術の弱点を克服するように努めること。

オフィス・アワー

授業日の授業開始もしくは授業終了後に体育館等で相談に応じます。

講義コード	10100001
講義名	環境論
(副題)	
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	後期（重複②）
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	3 時限
区分	学部共通科目
必修/選択	選択
学年	4学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 園田 陽一	指定なし

授業の概要

環境問題は社会、経済、健康、自然環境への影響は多岐にわたります。過去の社会は、環境保護、自然保護のように環境を人間活動から保護することが目的でした。しかし、これからの社会は、環境共生型社会であり、持続可能な社会が求められています。私たちは、地球の生物多様性を基盤とし、それらを消費して生きています。生物多様性は、地球の気象調節から国土や都市の基盤であり、農林水産業、観光業など自然を利用するものだけでなく、多くの社会経済の基盤となる重要な要素です。本授業では、身近な環境問題を生物多様性の観点から概観し、持続可能な地域社会の在り方について講義します。

教育目標

私たちの生活基盤となる生物多様性と環境問題を理解し、社会に出た際に社会的責任（CSR）などの活動への参画や協働について自ら考える力を身につける。

到達目標

環境観が養われているかどうかを論述で問う。産業活動や人間活動による環境の改変が生物多様性にどのような影響を与えるのかを判断できる知識を持っているかどうかを評価し、その内容が大学生としての素養を備えているかどうかを判断材料とする。

授業計画

	主題	授業内容	備考
第1回	ガイダンスと環境問題	本授業の目的や到達目標と成績評価の方法についてのガイダンスと環境問題について概説します。	アンケートを行います。
第2回	生物多様性と持続可能な利用	なぜ、生物多様性なのか。生態系サービスとなぜ持続可能な利用が必要なのかについて理解する。	
第3回	生態系サービスとは	地球と自然環境、生態系の構成要素とその役割を理解します。	
第4回	生物多様性への劣化	人間活動と生物多様性の危機、生態系サービスの劣化、公害問題等について理解します。	
第5回	都市化と環境問題	グローバルな人口増加と都市の集中がもたらす環境問題を理解します。	
	地球温暖化と都市	地球温暖化とヒートアイランド現象の違いについて	

第6回	のヒートアイランド現象	て概説し、その影響がもたらす気候変化のメカニズムを理解します。	
第7回	グローバルな地球環境の変化	オゾン層の破壊、砂漠化、酸性雨、森林減少などグローバルな地球環境の変化について理解します。	
第8回	環境をめぐる世界的な動き	地球環境問題を解決するための世界的な動向、日本の取り組みについて理解します。	レポート課題を出します。
第9回	わが国の環境に関わる法律	日本の環境施策について理解します。	
第10回	環境アセスメントとミティゲーション	開発行為に対して、公害や自然環境の破壊を未然に防ぐ法的措置とその代替技術について理解する。	
第11回	カーボンオフセットと生物多様性オフセット	二酸化炭素排出量削減の取り組みや同様のオフセット制度の仕組みを理解する。	
第12回	生物多様性地域戦略とは	わが国の生物多様性基本法、生物多様性国家戦略に基づいた生物多様性地域戦略について理解します。	
第13回	環境への関心を高める取り組み	環境共生型まちづくりや、エコツーリズムなど環境へ関心をもつための仕組みづくりや取り組みについて紹介します。	
第14回	環境教育とESD	環境教育や持続可能な開発のための教育についてふれ、次世代の子供たちの教育について考えます。	
第15回	企業の社会的責任と自然資本	現代企業の社会的責任としての自然環境保全から自然資本としての積極的な活用へ、企業の取り組みについて理解します。	

教科書

東京商工会議所編著 ECO検定（環境社会検定試験）公式テキスト 日本能率マネジメントセンター

参考書

必要なとき講義中に提示する

成績評価

単位認定：60点以上

レポートの提出(20%)、期末試験(80%)をもとに総合的に評価する。

授業時間外の学習

環境問題に関するニュースやウェブ、新聞記事等に目を通しておくとい。

履修のポイント

レポートの提出を求めることがある。

オフィス・アワー

授業日の、授業開始前もしくは終了後に教室等で相談に応じます。

講義コード	10110001
講義名	人間発達学
(副題)	
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	4 時限
区分	学部共通科目
必修/選択	選択
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 亀岡 聖朗	指定なし

授業の概要

人の発達過程を理解するには、乳幼児期、青年期を経て、成人期、高齢期にいたる生涯発達の視点を取り入れることが必要とされてきている。この科目では、とくに心の発達に焦点をあてて、人が生涯にわたってどのような発達的変遷をたどるのかについて理解を深めることを授業のねらいとする。授業は講義形式で行うが、視聴覚にうったえる試みもする予定である。また、授業の中で小テスト・小レポートを課すことがある。

教育目標

人の発達の特殊性や人の生涯にわたる発達過程と各過程の特徴、発達理論を通した発達のしくみについて理解を深めることを目的とする。

到達目標

1. 人間発達学で使用されるさまざまな専門用語への馴染みを深め、その意味を理解する。
2. 人の生涯にわたる発達過程と各過程の特徴について理解する。
3. 日常的に見られる行動を、主に人間発達学の考え方に沿って理解・説明することができる。
4. 人の心を中心とした発達の全般的なしくみについて理解する。

授業計画

	主題	授業内容	備考
第1回	オリエンテーション 人間発達学で学ぶこと	講義の概要 人間発達学の定義、人間発達学の意義	
第2回	発達の諸相	人間発達の共通性、発達に影響する要因、発達理論の変遷	
第3回	発達の理論①	ピアジェ、ボウルヴィの発達理論～認知発達、アタッチメントの発達	
第4回	発達の理論②	ハヴィガースト、フロイトの発達理論～発達課題、心理・性的発達段階論	
第5回	発達の理論③	エリクソン、レヴィンソンの発達理論～心理・社会的発達段階論、成人の発達理論	
	人のライフサイクル	乳幼児期(1)～心と身体の特徴、発達の評価、発達検	小テスト

第6回	ルと発達①	査	ト① (予定)
第7回	人のライフサイクルと発達②	乳幼児期(2)～発達にかかわる健康上の問題	
第8回	人のライフサイクルと発達③	児童期～心と身体の特徴、自己概念の発達	
第9回	人のライフサイクルと発達④	青年期(1)～青年期の入口としての思春期の特徴、思春期の発達にかかわる問題	小テスト② (予定)
第10回	人のライフサイクルと発達⑤	青年期(2)～アイデンティティの獲得、発達にかかわる社会化の問題	実習① (予定)
第11回	人のライフサイクルと発達⑥	青年期(3)～発達にかかわる健康上の問題	実習② (予定)
第12回	人のライフサイクルと発達⑦	成人期～心と身体の特徴、ストレスや生活習慣病への対処	
第13回	人のライフサイクルと発達⑧	高齢期(1)～心と身体の特徴、加齢に伴う心身の変化	
第14回	人のライフサイクルと発達⑨	高齢期(2)～認知症の特徴と認知症予防	小テスト③ (予定)
第15回	人のライフサイクルと発達⑩ まとめ	高齢期(3)～高齢者の健康や幸福感を理解する視点：サクセスフルエイジング 講義のまとめ	

教科書

特に指定しない。

参考書

授業中に適宜紹介しますが、『看護のための人間発達学 第5版』（舟橋なをみ他著 医学書院）を挙げておきます。

成績評価

単位認定60点以上
筆記試験80%、レポート・課題を含め20%で評価

授業時間外の学習

各回の主題に該当する1年次前期科目の「心理学」の講義資料の見直しを予習として勧めます。本講義の配布資料・ノートのとまとめと小テストの見直しを復習として勧めます。

履修のポイント

授業への積極的な取り組みを期待します。

オフィス・アワー

毎週水曜もしくは木曜の昼休み（12：30～13：20）、11号館第8研究室。
あるいは、講義終了前後などに、適宜受け付けます。

講義コード	10120001
講義名	物理学
(副題)	
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	1 時限
区分	学部共通科目
必修/選択	選択
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 樺沢 龍次郎	指定なし

授業の概要

看護や栄養の専門分野を学習するうえで、「物理学」は重要な役割をもっています。本授業では、物理学の基礎知識や数値処理の方法、さらには、物理学の原理・原則を理解し、医療技術や臨床現場での応用まで発展させて学習します。専門科目を理解するための導入・基礎科目として、高等学校で物理を履修していなくても、十分理解できる内容と構成になっています。(教科書の内容をベースにして、物理学の基礎をまじえながら応用・事例の解説をする)

教育目標

看護教育や栄養教育に必要な物理学的内容を、医療・看護・食と健康の現場との関連性を考慮していく

到達目標

- ・物理学の基礎「原理・原則」を理解する
- ・看護・栄養分野への物理学の応用を理解する
- ・基礎から専門分野への発展・応用ができるようにする

授業計画

	主題	授業内容
第1回	物理学と人体の関わり	・物理量と単位系 ・物理量の測定 ・物理学と医療機器
第2回	人体の力学	・人体のてこ ・垂直跳び ・歩行と振り子 ・医療機器と力学
第3回	流体と人体① (静止流体)	・大気圧と静水圧 ・圧力計 ・弾性薄膜 ・表面張力 ・陰圧 ・肺泡と表面張力
第4回	流体と人体② (運動流体)	・心臓と血液の流れ ・血圧の変化 ・血圧測定
第5回	流体と人体③ (流体と医療)	・気体を流す場合 ・液体を流す場合 (点滴装置の原理)
第6回	熱と体温① (熱と温度)	・温度と温度計 ・熱と比熱 ・融解と蒸発 ・熱と仕事 (エネルギー)
第7回	熱と体温② (体温調節)	・体温と温度調節 ・体内で発生する熱 ・身体からの放熱

		・生理的体温調節機構 ・物理的放熱機構
第8回	熱と体温③（体温測定）	・平衡温 ・水銀温度計 ・電子体温計 ・耳式体温計 ・サーモグラフィー
第9回	音と光と人体①（音波）	・音の性質 ・耳の構造 ・聴覚 ・音波の医療への応用
第10回	音と光と人体②（光波）	・反射と屈折 ・スペクトル ・レンズとメガネ ・光の医療への応用
第11回	電気と磁気の世界①（基礎知識）	・電流、電圧、電気抵抗 ・直流と交流 ・電力と熱
第12回	電気と磁気の世界②（生体と電気）	・生体における静電気現象 ・心臓の刺激伝導系 ・医療における主な応用機器
第13回	原子と放射線①（基礎知識）	・原子の構造と原子核 ・原子の定常状態 ・放射線と性質
第14回	原子と放射線②（医学における放射線）	・放射線の基礎知識 ・放射線による障害とその防護
第15回	原子と放射線③（医療への応用機器）	・医療における放射線の応用 ・X線CT ・MRI装置 ・ポジトロンCT装置

教科書

特に使用しません。

成績評価

単位認定 60点以上。（筆記試験80% 平常点：受講態度等）

授業時間外の学習

新聞や雑誌・書籍等を通して、科学技術と人間及び医療保健について考えるようにする。

履修のポイント

医療に関する種々の事象・応用が、どのようなしくみで成り立っているのかを考えながら履修すること。

オフィス・アワー

水曜日、木曜日（11：00～16：00）

講義コード	10130001
講義名	生物学
(副題)	
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	3 時限
区分	学部共通科目
必修/選択	選択
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 荒井 勝己	指定なし

授業の概要

看護師になるために学ぶ教科目の中で、生物学が関与する内容は非常に多い。高校時代に「生物」を履修してこなかった学生にも解りやすく、今後の授業で障害とならないよう、特に私たちヒトに関する内容（細胞、遺伝、免疫など）を中心に講義する。また最新のバイオテクノロジーやバイオサイエンスの情報なども織り込んでいく。

教育目標

看護師として必要な生物学の基礎を習得させる。

到達目標

生命の基本単位である“細胞”に共通の基本構造および機能を踏まえ、細胞の発生・遺伝・進化のしくみについて学ぶ。またこれらを通じて、私たちの生体内で起こる様々な生命現象を理解するための基礎を身につける。

授業計画

	主題	授業内容
第1回	生物学の基本	進化論の登場、地球上の生物に共通すること、生物体のつくりと階層性など
第2回	細胞のプロフィール	細胞を構成している物質、細胞小器官の構造と機能など
第3回	何が細胞の形や機能を決めているのか	形質を決めているものを求めて、遺伝子としてのDNAなど
第4回	細胞が生きて活動していくために	ATPの産生、代謝経路のネットワークなど
第5回	タンパク質が細胞のさまざまな活動を担う	タンパク質のさまざまな機能
第6回	多細胞生物への道Ⅰ	細胞間の情報交換、ホルモンと受容体で情報を伝えるなど
第7回	多細胞生物への道Ⅱ	DNAの複製、細胞周期と体細胞分裂など
第8回	多細胞生物への道Ⅲ	減数分裂、生殖細胞の形成、受精など
第9回	個体を守る免疫システム	非特異的生体防御機構、特異的生体防御機構、免疫

		機能の制御など
第10回	生きること、死ぬこと	細胞の再生、細胞が死ぬとき、老化・寿命と遺伝子 の関係など
第11回	個体としてのまとまり	内部環境を一定に、制御中枢による情報の処理と調 整、動物の行動など
第12回	生物の進化と多様性	進化と多様性の創出、地球上の生物多様性を守るた めになど
第13回	遺伝とはⅠ	遺伝とは、メンデルの研究と遺伝の法則など
第14回	遺伝とはⅡ	さまざまな遺伝
第15回	遺伝とはⅢ	性と遺伝、性染色体と性の決定、伴性遺伝など

教科書

『基礎から学ぶ 生物学・細胞生物学』第3版 和田 勝著（羊土社）

参考書

单元ごとにプリント教材を配布する。

成績評価

単位認定60点以上 学期末試験100%

授業時間外の学習

单元ごとに復習問題を配付するので、必ず解いて理解を深めること。

履修のポイント

教科書の内容以外の事柄についても取り入れていくので、授業には積極的に参加すること。

オフィス・アワー

授業内容等の質問については、授業終了後、または11号館3F研究室13で随時受け付ける。

講義コード	10140001
講義名	化学
(副題)	
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	3 時限
区分	学部共通科目
必修/選択	選択
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 小林 葉子	指定なし

授業の概要

生体反応を理解するために必要な化学を学ぶ。パーセント濃度やモル濃度、原子の構造、化学結合、化学反応、化学平衡、溶液の性質、酸化と還元など看護師に必要とされる化学の基礎を学習する。

教育目標

生体反応を理解するための化学の基礎知識を身に付ける。次の1)～4)ができるようにする。
 1) パーセント濃度、モル濃度、希釈の計算 2) SI 単位の理解、単位変換
 3) 原子、分子、イオン、化学結合の理解
 4) 酸、塩基、酸化、還元、pHの理解

到達目標

パーセント濃度や希釈の計算、単位変換の問題、および、高校化学基礎レベルの問題で60%以上の正解を上げられるようにする。

授業計画

	主題	授業内容	備考
第1回	化学で使う数字・単位のルール	指数・有効数字、SI単位、単位の変換	
第2回	原子の構造、電子配置	身の回りにある物質の分類、元素、物質を構成している原子とその構造、分子、イオン	
第3回	周期表と元素	原子の構造を中心にして、元素記号、周期表、電子配置	
第4回	化学結合 (1)	イオン結合 および、イオン結合でできた結晶の性質、共有結合	
第5回	化学結合 (2)	共有結合、配位結合および共有結合でできた結晶の性質	
第6回	化学結合 (3)	分子間の結合（水素結合、分子間力）、金属結合、また、これらの結合によってできた物質の性質	
第7回	物質質量	原子量 (mol)、分子量、式量	

第8回	溶液の濃度	パーセント濃度、モル濃度	
第9回	物質の3態	気体、液体、固体の性質	
第10回	酸と塩基	酸性、塩基性、水素イオン指数と水素イオン濃度の関係、緩衝液	
第11回	酸化・還元	酸化、還元、酸化剤、還元剤、イオン化傾向	
第12回	有機化合物の構造	有機化合物の結合	
第13回	計算	単位変換	
第14回	計算	濃度計算	
第15回	まとめ	前期に行った範囲のまとめとして、学習内容の理解を総合的に判定する試験を行う。	電卓、教科書、ノート等持ち込み不可

教科書

アクセスノート化学基礎
コ・メディカル化学

成績評価

授業内の試験等の総合評価：60点以上

授業時間外の学習

予習：「サイエンスビュー化学総合資料」の授業範囲の部分を読む。わからない単語を調べる。
復習：アクセスノート基礎化学を使って、授業で学習した範囲を復習し、理解を確認する。

履修のポイント

2回目以降は、前回の授業範囲のアクセスノート基礎化学（改変する可能性有）の問題の小試験を行う。
自らで学習し、理解するようにする。授業内でわかったつもりになっても、自己学習をすると理解できていないことに気づくことがある。その場合は、教科書を調べ、理解をするようにする。
授業のスライドは配布しない。
学力レベルに合わせ、授業進行速度を変更する。そのため、シラバス通りに進まない場合もある。授業は休まないで出席すること。

オフィス・アワー

質問に来るときは、事前に連絡を取ってください。

講義コード	10150001
講義名	生活とデザイン
(副題)	
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	5 時限
区分	学部共通科目
必修/選択	選択
学年	4学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 松村 誠一	指定なし

授業の概要

現代社会の中で生きている私たちは、多くの優れたデザインに囲まれて生活しており、そこから大きな影響を受けています。文明や文化が開化する以前から、デザインと私たちの生活には密接な関係があり、近代になりグラフィックデザインやインダストリアルデザイン等の分野が確立されました。この授業では、私たちの生活とデザインの関係について考察していきます。 ※本授業では課題提出等により成績評価を行い、定期試験は実施しない。

教育目標

日常生活の中に普通に存在している「デザイン」について、その意味や歴史、価値、可能性等を多角的に学んでいき理解を深めることを目的とする。

到達目標

デザインの意味や価値、可能性をその歴史から考察し、デザインと人間との関係について理解を深めより良い社会生活が営まれることを目標とする。

授業計画

	主題	授業内容
第1回	デザインの歴史①	イギリスの伝統と革新
第2回	デザインの歴史②	アール・ヌーヴォーの世界
第3回	デザインの歴史③	市民生活のグラフィックデザイン
第4回	デザインの歴史④	バウハウスーデザインの実験と総合ー①
第5回	デザインの歴史⑤	バウハウスーデザインの実験と総合ー②
第6回	デザイン実習①	アクリル絵具による色彩表現実習①
第7回	デザイン実習②	アクリル絵具による色彩表現実習②
第8回	デザイン実習③	ロゴデザイン、POP制作①
第9回	デザイン実習④	ロゴデザイン、POP政策②
第10回	デザイン実習⑤	ロゴデザイン、POP制作③
第11回	デザインと人間工学①	人体寸法と設計
第12回	デザインと人間工学②	家具、設備への応用（座る）
第13回	デザインと人間工学③	家具、設備への応用（寝る）

第14回	デザインと人間工学④	家具、設備への応用（立つ）
第15回	デザインと人間工学⑤	錯視効果、空間の心理

教科書

使用しない。

参考書

世界デザイン史（監修・阿部公正）

成績評価

単位認定 60 点以上 課題 100 % 評価

授業時間外の学習

「予習内容」情報収集を行い自分の考えをまとめる。「復習内容」ノートの整理、確認を行う。

履修のポイント

ノート提出を求める場合があり、授業態度や出席状況等も重要視する。

オフィス・アワー

111 研究室で随時行う

講義コード	10160001
講義名	地域社会学
(副題)	
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	3 時限
区分	学部共通科目
必修/選択	選択
学年	4学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 篠原 貴子	指定なし

授業の概要

近代社会は、社会構造や生活様式に大きな変化をもたらした。特に、農村から都市への人口流出や都市化は、コミュニティや個人を取り巻く環境を転換させた。本講義では、都市や農村に関する社会学の展開を中心に学ぶとともに、社会を構成する主要な組織が担う役割や課題を経済や文化の側面から把握する。

教育目標

地域社会学の歴史や課題を理解し、社会的思考を身に付ける。

到達目標

講義内容を踏まえて、地域社会が抱える現代的課題を発見し、読み解く力を培う。

授業計画

	主題	授業内容
第1回	イントロダクション	地域社会学の意義と課題
第2回	都市社会学の系譜	都市社会学の展開
第3回	流動型社会論	近代化論
第4回	現代の都市社会	都市空間と人間形成
第5回	現代の農村社会	高度経済成長と農村社会
第6回	地域権力構造論	地域と政治
第7回	アーバニズムとコミュニティ	町内会の変遷と課題
第8回	アーバニズムとローカリティ	東京の都市空間
第9回	グローバル社会	グローバル化と地域社会の変貌
第10回	エスニック・コミュニティ	エスニック・コミュニティの形成
第11回	社会変動と地域社会の形成	住民生活と行政
第12回	農山村の混住化社会	現代の農村社会
第13回	地域社会の活性化	地域の復興と観光
第14回	コミュニティ形成の課題	新たなコミュニティの創出と地域社会
第15回	まとめ	地域社会学の展望

教科書
必要な資料は随時配布
参考書
鈴木広監修 『地域社会学の現在』 （ミネルヴァ書房）
成績評価
成績評価 60点以上。授業態度や試験結果で総合評価する。
授業時間外の学習
授業内容に関して、意欲的に学習する。
オフィス・アワー
授業日の、授業開始前もしくは終了後に教室等で相談に応じます。

講義コード	10190001
講義名	コミュニケーション論
(副題)	
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	木曜日
代表時限	1 時限
区分	学部共通科目
必修/選択	必修
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 山本 裕詞	指定なし

授業の概要

なぜ、現代においてコミュニケーション能力が求められているのか。そもそも、コミュニケーション能力が高いとは、何を意味しているのか。また、コミュニケーションが上手いかわからない場合があるのはなぜなのか。
人が人として生きていく上でコミュニケーションは欠かせませんが、これを成立させるのは、決して簡単なことではありません。今日の「コミュニケーション」研究の成果を学びながら、多面的に「コミュニケーション」についてグループ討議をすすめ、自他の発表を通して理解を深めていきます。

教育目標

日常的に行われているコミュニケーションの多面性を認識することを通して、不確実性の高まる社会の中でも逞しく生き抜ける確かな認識の獲得を目指します。また、グループ内コミュニケーションを通じた新たな意味の創造可能性を体験的に理解することを通して、主体的に生きることの難しさや喜びを実感することを目指します。

到達目標

1. グループ討議のための机の移動等、授業進行に積極的に協力することで、クラス全体の利益に貢献する。
2. グループ討議に積極的に参加し、また、発表内容のまとめに向けて、グループ内の意見集約に貢献する。
3. コミュニケーションによる社会的な自己形成過程について理解を深める。
4. コミュニケーションが成立する条件と成立しない条件について理解する。
5. コミュニケーションによる意味の創造可能性について、体験的に理解を深める。

授業計画

	主題	授業内容
第1回	1.オリエンテーション 2.コミュニケーション能力	1.授業の進め方 2.コミュニケーションが上手な人、下手な人、両者の決定的な違い。 今日求められているコミュニケーション能力とは何だと考えるか。
第2回	○アイスブレーキング	○自己他者紹介ゲームの効果
第3回	○二重の条件依存性	1. 自己の行動選択の条件

		2. 共有される期待とコミュニケーション
第4回	○アイスブレイキング	○自己開示すごろくの効果と限界
第5回	○社会的な自己形成	1. コミュニケーションにより作られる自分 2. 精神分析理論に見る心の多様性（防衛機制）
第6回	○アイスブレイキング	○心の手紙を通した自己開示
第7回	○多様な自己の在り方	1. 主我と客我の葛藤 2. 交流分析とエゴグラムに見る多様な人格形成
第8回	○アイスブレイキング	○四面鏡による新たな自己認識
第9回	○多様な価値観	○人生で大切なもの
第10回	○共同研究	○題材の決定 ○研究の計画と役割分担
第11回	○共同研究	○研究調査
第12回	○共同研究	○研究調査
第13回	○共同研究	○研究調査・発表準備
第14回	○研究発表	○発表と他者評価
第15回	1. 授業のまとめ 2. テスト	○小論文形式のまとめテスト

教科書

使用しません。

参考書

伊藤公雄編『コミュニケーション社会学入門』世界思想社 2010年、
鈴木健編著『コミュニケーション・スタディーズ入門』大修館書店 2011年、
船津衛著『コミュニケーション・入門（改定版・第2版）』有斐閣アルマ 2012年

成績評価

60点以上の評価で単位認定します。評価の割合は、授業中の活動と毎回提出する確認カードの評価によって70%、授業最終回のまとめの後に実施する小論文試験によって30%で行います。演習形式の授業なので、4 / 5 未満の出席率であると、成績評価の資格を失います（15回中3回の欠席を超えると今年度の成績評価の資格なし）。この他に、遅刻、早退、欠席は減点の対象とします。

授業時間外の学習

第1回～第9回については、復習による振り返り学習を、第10回～第13回については、研究調査や発表資料作成、発表練習のために、グループ共同での自習時間が必要となります。

履修のポイント

主体的な授業参加を意識してください。

オフィス・アワー

授業の前後で質問に応じますが、その他、必要に応じて互いの都合の良い時間を個別に設定します。相談してください。

講義コード	10220001
講義名	実践英会話（Aクラス）
(副題)	【教職必修】
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	月曜日
代表時限	2 時限
区分	学部共通科目
必修/選択	選択
学年	2年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ マチャコン ヘルチエル	指定なし

授業の概要

英語のlistening能力の養成を図りながら、多くの日常英語表現を学び、あらゆる状況に応じてspeaking能力を身に付け、実践的な英語の表現能力の向上を目指す。さらに時事・文化的な表現も学習し、国際社会人として、諸外国の人々との相互理解ができる様にする。授業は英語で行い、オンラインデジタル教材も利用する。

教育目標

Develop better listening and speaking abilities while learning foreign culture.
外国の文化を学びながら、英のlisteningや speaking能力を向上すること。

到達目標

- 1.The students can comprehend and respond to various oral directions and questions.
様々な口頭の指示や質問に対応できるようになる。
2. The students will learn how to interact in everyday situations using English.
日常生活で英語を使用して対話ができるようになる。

授業計画

	主題	授業内容
第1回	オリエンテーション Basic English Review	授業の進め方、オンライン資料の紹介、デジタル録音の仕方 International Englishについて 英語復習：Time, Dates, Months, Numbers, Directions etc.
第2回	The Rules Scene	Asking permission and learning the rules
第3回	The Time Scene & Culture Talk 1	Talking about time and schedules Culture Talk: Gestures and Taboos
第4回	The Polite Request Scene & Idioms	Making polite requests and offers Commonly used Idioms
第5回	Putting Things Away Scene	Asking about location and where things go
第6回	The Location Scene & Idioms	Asking where places are and giving directions Commonly used Idioms
第7回	The Directions Scene	Giving directions about how to get somewhere

第8回	Test The Shopping Scene	Test (理解度テスト) Shopping and asking about preferences
第9回	The Restaurant Scene & Culture Talk 2	Ordering and Serving Food in a restaurant Culture Talk: Strange Foods
第10回	The Complaint Scene	Making and responding to complaints
第11回	The Illness Scene	Describing a medical problem and asking advice
第12回	Practical English & Culture Talk 3	Reporting an Emergency Culture Talk: Superstitious Beliefs
第13回	The "How To" Scene	Asking for instructions and explaining how to do something
第14回	The Getting Things Done Scene	Getting things done that you do not do yourself
第15回	Test Role Playing	Pairwork: Role Playing (ロール・プレイングは必修となります。)

教科書

Performance -Conversation Scenes from Everyday Life
David Harrington and Charles LeBeau

参考書

イギリスのBBC: <http://www.bbc.co.uk/worldservice/learningenglish/>
学習題材を提示する教材

成績評価

単位認定：60点以上

授業への積極性・課題 (25%)、テスト(50%)、Role Playing (25%) で評価する。

*定期試験を実施しない。

授業時間外の学習

授業時間外の学習時間の増大による英語力の向上につながる。配布資料及び教科書の該当箇所を参照し、学習内容に応じた準備学習（予習・復習）を行うこと。

履修のポイント

- ①「基礎英語I、基礎英語II」を履修済みであることが望ましい。
- ②日常生活でよく用いられる英語表現を学び、それらを実践していく。

オフィス・アワー

毎週金曜日 昼休み 研究室：9号館3F 第12研究室（情報環境研究室）
メール：prof.mach.dr@gmail.com

講義コード	10220002
講義名	実践英会話（Bクラス）
(副題)	【教職必修】
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	1 時限
区分	学部共通科目
必修/選択	選択
学年	2年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ マチャコン ヘルチエル	指定なし

授業の概要

英語のlistening能力の養成を図りながら、多くの日常英語表現を学び、あらゆる状況に応じてspeaking能力を身に付け、実践的な英語の表現能力の向上を目指す。さらに時事・文化的な表現も学習し、国際社会人として、諸外国の人々との相互理解ができる様にする。授業は英語で行い、オンラインデジタル教材も利用する。

教育目標

Develop better listening and speaking abilities while learning foreign culture.
外国の文化を学びながら、英のlisteningや speaking能力を向上すること。

到達目標

- 1.The students can comprehend and respond to various oral directions and questions.
様々な口頭の指示や質問に対応できるようになる。
2. The students will learn how to interact in everyday situations using English.
日常生活で英語を使用して対話ができるようになる。

授業計画

	主題	授業内容
第1回	オリエンテーション Basic English Review	授業の進め方、オンライン資料の紹介、デジタル録音の仕方 International Englishについて 英語復習：Time, Dates, Months, Numbers, Directions etc.
第2回	The Rules Scene	Asking permission and learning the rules
第3回	The Time Scene & Culture Talk 1	Talking about time and schedules Culture Talk: Gestures and Taboos
第4回	The Polite Request Scene & Idioms	Making polite requests and offers Commonly used Idioms
第5回	Putting Things Away Scene	Asking about location and where things go
第6回	The Location Scene & Idioms	Asking where places are and giving directions Commonly used Idioms
第7回	The Directions Scene	Giving directions about how to get somewhere

第8回	Test The Shopping Scene	Test (理解度テスト) Shopping and asking about preferences
第9回	The Restaurant Scene & Culture Talk 2	Ordering and Serving Food in a restaurant Culture Talk: Strange Foods
第10回	The Complaint Scene	Making and responding to complaints
第11回	The Illness Scene	Describing a medical problem and asking advice
第12回	Practical English & Culture Talk 3	Reporting an Emergency Culture Talk: Superstitious Beliefs
第13回	The "How To" Scene	Asking for instructions and explaining how to do something
第14回	The Getting Things Done Scene	Getting things done that you do not do yourself
第15回	Test Role Playing	Pairwork: Role Playing (ロール・プレイングは必修となります。)

教科書

Performance -Conversation Scenes from Everyday Life
David Harrington and Charles LeBeau

参考書

イギリスのBBC: <http://www.bbc.co.uk/worldservice/learningenglish/>
学習題材を提示する教材

成績評価

単位認定：60点以上

授業への積極性・課題 (25%)、テスト(50%)、Role Playing (25%) で評価する。

*定期試験を実施しない。

授業時間外の学習

授業時間外の学習時間の増大による英語力の向上につながる。配布資料及び教科書の該当箇所を参照し、学習内容に応じた準備学習（予習・復習）を行うこと。

履修のポイント

- ①「基礎英語I、基礎英語II」を履修済みであることが望ましい。
- ②日常生活でよく用いられる英語表現を学び、それらを実践していく。

オフィス・アワー

毎週金曜日 昼休み 研究室：9号館3F 第12研究室（情報環境研究室）
メール：prof.mach.dr@gmail.com

講義コード	10260001
講義名	スペイン語
(副題)	
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	木曜日
代表時限	5 時限
区分	学部共通科目
必修/選択	選択
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 伊勢島 セリア 明美	指定なし

授業の概要

挨拶、自己紹介など基本会話
基本文法及び練習問題
歌などラテン文化の紹介

教育目標

スペイン語の初級会話の養成を目標とします。
又、スペイン語圏の国々の習慣や文化にも触れたいと思います。

到達目標

初歩的な能力を身に付けると同時に異文化理解を深めることを目標とします。

授業計画

	主題	授業内容
第1回	挨拶と自己紹介	アルファベット、発音、インフォーマルとフォーマルな挨拶
第2回	出身地を尋ねる	動詞ser、疑問文と答え方、単語力UP:国名・国籍・言語
第3回	家族を紹介する	形容詞、所有形容詞、単語力UP:家族
第4回	興味を表す	指示代名詞、不定冠詞、名詞の性
第5回	好みを伝える	間接目的格、定冠詞、動詞-AR、単語力UP:色
第6回	時間の表し方	動詞-ER、再起動詞、数詞その①
第7回	年齢等の表現	動詞tener、動詞-IR、数詞その②
第8回	居場所を尋ねる	動詞estar、前置詞en
第9回	行き先を尋ねる	動詞ir、動詞querer、前置詞a
第10回	予定を伝える	未来形、交通手段、時の表現その①
第11回	比較の表現	現在進行形、優等比較級
第12回	過去の表現	過去形その①、曜日、時の表現その②
第13回	年月日の言い方	助動詞haber、過去形その②、月の名前
第14回	職業・学部を言う	前置詞de、単語力UP:職業・学部
第15回	健康状態を聞く	未来形、直接目的格、単語力UP:症状

教科書
教材プリントを配布します。
参考書
しっかり学ぶスペイン語（ベル出版）、スペイン語会話表現辞典（三修社）
成績評価
単位認定：60点以上 小テスト（50％）会話発表（50％）で100％評価
授業時間外の学習
基本文型の復習を行い、又単語力をつける事が望ましいです。
履修のポイント
学習した文型の応用範囲を広めるのがポイントだと思います。
オフィス・アワー
授業終了後に質問を受け付けます。

講義コード	10270001
講義名	ポルトガル語
(副題)	
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	火曜日
代表時限	5 時限
区分	学部共通科目
必修/選択	選択
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 伊勢島 セリア 明美	指定なし

授業の概要

基本文法を取り上げた後、練習問題を通して学習を確認します。最後に簡単な会話の発表を行って頂きます。

教育目標

ポルトガル語に親しみを感じて頂き、又、異文化に触れることを目的とします。

到達目標

挨拶を初め、初歩の会話を身につけることを目標とします。

授業計画

	主題	授業内容
第1回	Qual é o seu nome?	アルファベット、挨拶、基本構文
第2回	Eu sou japonês.	動詞ser、否定文、疑問文、出身地を表す前置詞de
第3回	Meu pai é professor.	所有形容詞とその変化
第4回	Meu irmão é alto.	形容詞とその変化
第5回	O português é mais difícil do que o japonês?	定冠詞、比較の表現
第6回	Quantos anos você tem?	動詞ter、数詞、名詞の数
第7回	Eu gosto de estudar.	動詞gostar、動詞preferir
第8回	Eu quero um computador preto.	不定冠詞、動詞querer、色の名前
第9回	Meu celular está na bolsa.	動詞estar、場所を表す前置詞em
第10回	Meu amigo vai à biblioteca.	動詞ir、方向を表す前置詞a、交通手段を表す前置詞de
第11回	A que horas você acorda?	ar動詞の現在形、時間の表現
第12回	Ela entende português.	er動詞の現在形、同伴を表す前置詞com
第13回	Eu abro o e-mail todos os dias.	ir動詞の現在形、月の名前
第14回	Ele estudou português.	完全過去形、時を表す前置詞em、曜日の名前

第15回	Escreveremos uma carta.	未来形
教科書		
プリントを配布します。		
参考書		
ニューエクスプレス ブラジル ポルトガル語（香川正子著 白水社）		
成績評価		
単位認定60点以上。小テスト（60％）及びミニ会話の発表（40％）で100％評価		
授業時間外の学習		
プリントを基に、復習を行う事が望ましいです。		
履修のポイント		
練習問題及び会話の発表に積極的に取り組むことです。		
オフィス・アワー		
授業日の授業開始前もしくは終了後に教室で相談に応じます。		

講義コード	10280001
講義名	統計学
(副題)	
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	1 時限
区分	学部共通科目
必修/選択	選択
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 石井 広二	指定なし

授業の概要

統計学は、偶然に起きると思われる事象から得られるデータを、数表化、視覚化したり、数学的道具を用いてより科学的に分析したりして、その集団の特徴や傾向を把握し、その結果を人間の活動や社会生活に広く役立てていくことを目的としている。そのために必要となる統計的手法について、記述統計から推測統計まで演習を通して学ぶ。
また、授業ではグループでの学び合いも取り入れたい。予習・復習ではMoodleを活用する予定である。

教育目標

統計学の概念を理解し、科学的に考え、分析するための基礎的な見方を身につける。

到達目標

- ・統計学の概念を理解する
- ・標本を抽出し、度数分布表が作成できる
- ・データを集計し、各種統計量を求められる
- ・正規分布などの確率分布の特性を理解する
- ・母平均などの推定が行える
- ・統計的仮説検定の考え方を理解し、実際に母平均の検定などが行える

授業計画

	主題	授業内容	備考
第1回	統計学とは (1)	母集団や標本などの統計学の基本概念と数学知識の確認、電卓の使用方法	電卓を持参すること
第2回	統計学とは (2)	標本抽出、度数分布表の作り方 課題	
第3回	標本分布の特性 値 (1)	中心的傾向の特性値 (平均、中央値、最頻値など) の求め方	
第4回	標本分布の特性 値 (2)	変動の特性値 (不偏分散、標準偏差など) の求め方 課題	
第5回	前半のまとめ	確認テスト①	
第6回	確率分布	確率分布の性質について	

第7回	正規分布	正規分布の性質や標準化、標準正規分布表の見方などについて 課題	
第8回	標本平均の分布	統計的有意性（有意水準、信頼係数など）と標本平均の分布、中心極限定理、推定方法の基本的な考え方	
第9回	母平均の推定（1）	正規分布と母平均の推定 課題	
第10回	母平均の推定（2）	t分布 課題	
第11回	母平均の推定（3）	母平均の推定のまとめ	
第12回	仮説検定（1）	統計的仮説検定の考え方（有意水準、有意確率、棄却域、仮説）	
第13回	仮説検定（2）	母平均に関する仮説検定の方法	
第14回	仮説検定（3）	母平均に関する仮説検定のまとめ 課題	
第15回	まとめ	講義のまとめ、確認テスト②	

教科書

「はじめての統計学」鳥居泰彦（日本経済新聞社）

参考書

「ナースのための統計学」高木廣文（医学書院）「完全独習統計学入門」小島寛之（ダイヤモンド社）「マンガでわかるナースの統計学」（オーム社）など

成績評価

単位認定60点以上。課題への取り組み30%、確認テスト70%。

授業時間外の学習

- ・事前に教科書やMoodleにアップされている資料を確認しておくこと
- ・課題については必ず自分の力で解き、疑問点などは質問すること（その際Moodleを積極的に利用すること）

履修のポイント

数学的な理論には深入りせず、なるべく具体例で統計学の考え方を身に付けられるように配慮していく予定であるが、理解のため演習課題は必ず自分で解くこと。講義には電卓『平方根の機能がついたもの！』を持参すること。

オフィス・アワー

月曜日の昼休み。それ以外の曜日・時間については、授業の際に伝える。また、研究室は9号館3階第11研究室。

講義コード	10290001
講義名	情報処理基礎演習（Aクラス）
(副題)	【教職必修】
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	4 時限
区分	学部共通科目
必修/選択	必修
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ マチャコン ヘルチエル	指定なし

授業の概要

我々の生活や仕事が情報化によって変化している。病院では、患者に関する情報がコンピュータによって処理されている。ICT「情報通信技術」時代の要請にそって、情報処理の教育は必要である。ここで、コンピュータやネットワークの利用を通して、情報処理を学ぶ。演習を通して、コンピュータの基本的な操作法を習得する。更に、インターネットに関する知識や技術も習得する。

教育目標

アプリケーションソフト（Office 2016：Word, Excel, PowerPoint）やインターネットに関する知識や技術を習得するとともに、コンピュータリテラシーを向上すること。

到達目標

- ①コンピュータの基本構成を理解の上で基本操作を習得する。
- ②アプリケーションソフトの基本機能を理解し、基本的なスキルを習得する。
- ③インターネットを利用した情報検索や情報発信を学び、インターネットを使いこなす。

授業計画

	主題	授業内容
第1回	オリエンテーション パソコンの基本操作	パソコンの構成とソフトウェア、WindowsOSの基礎知識、基本操作、E-メールのアカウントの設定
第2回	Wordの活用（1）	Wordの基本操作、基本編集
第3回	Wordの活用（2）	文書作成
第4回	Wordの活用（3）	表の作成
第5回	Wordの活用（4）	図形を描く
第6回	Word応用	WORD応用課題
第7回	インターネットの利用	インターネットの概要、Webブラウザと検索、本大学の図書館資料検索（OPAC）
第8回	PowerPointの活用(1)	プレゼンテーションの概要、スライドの作成

第9回	PowerPointの活用(2)	医療学会の発表会で使えるアニメーションの作成
第10回	Excelの活用 (1)	Excelの基本操作 (アンケート用紙の作成)
第11回	Excelの活用 (2)	数値入力と関数とグラフ
第12回	Excelの活用 (3)	アンケートデータの入力と集計
第13回	Excelの活用 (4)	関係を求める (相関係数)
第14回	Excelの実技	実技テスト (Excel)
第15回	情報発言	医療機関における個人情報保護 最終課題：ポスター作成

教科書

医療系のための情報リテラシー ISBN-978-4489022050
松木秀明 (著), 須藤真由美 (著), 松木勇樹 (著) 東京図書

参考書

30時間アカデミック 情報リテラシー Office2016
Windows 10対応 実教出版 ISBN:978-4-407-34023-5
実教出版編集部

成績評価

単位認定 60点以上
課題 (25%)、実技テスト(50%)、最終課題 (25%) で評価する。

*定期試験を実施しない。

授業時間外の学習

上記授業内容については、あらかじめ自己学習しておくことをすすめる。配布資料及び教科書の該当箇所を参照し、学習内容に応じた準備学習（予習・復習）を行うこと。

履修のポイント

- ①授業時間外での活用が必要である。
- ②なるべく多くの例題や演習問題を解いて覚えましょう。

オフィス・アワー

毎週金曜日 昼休み 研究室：9号館3F 第12研究室（情報環境研究室）
メール：prof.mach.dr@gmail.com

講義コード	10290002
講義名	情報処理基礎演習（Bクラス）
(副題)	【教職必修】
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	木曜日
代表時限	4 時限
区分	学部共通科目
必修/選択	必修
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ マチャコン ヘルチエル	指定なし

授業の概要

我々の生活や仕事の情報化によって変化している。病院では、患者に関する情報がコンピュータによって処理されている。ICT「情報通信技術」時代の要請にそって、情報処理の教育は必要である。ここで、コンピュータやネットワークの利用を通して、情報処理を学ぶ。演習を通して、コンピュータの基本的な操作法を習得する。更に、インターネットに関する知識や技術も習得する。

教育目標

アプリケーションソフト（Office 2016：Word, Excel, PowerPoint）やインターネットに関する知識や技術を習得するとともに、コンピュータリテラシーを向上すること。

到達目標

- ①コンピュータの基本構成を理解の上で基本操作を習得する。
- ②アプリケーションソフトの基本機能を理解し、基本的なスキルを習得する。
- ③インターネットを利用した情報検索や情報発信を学び、インターネットを使いこなす。

授業計画

	主題	授業内容
第1回	オリエンテーション パソコンの基本操作	パソコンの構成とソフトウェア、WindowsOSの基礎知識、基本操作、E-メールのアカウントの設定
第2回	Wordの活用（1）	Wordの基本操作、基本編集
第3回	Wordの活用（2）	文書作成
第4回	Wordの活用（3）	表の作成
第5回	Wordの活用（4）	図形を描く
第6回	Word応用	WORD応用課題
第7回	インターネットの利用	インターネットの概要、Webブラウザと検索、本大学の図書館資料検索（OPAC）
第8回	PowerPointの活用(1)	プレゼンテーションの概要、スライドの作成

第9回	PowerPointの活用(2)	医療学会の発表会で使えるアニメーションの作成
第10回	Excelの活用 (1)	Excelの基本操作 (アンケート用紙の作成)
第11回	Excelの活用 (2)	数値入力と関数とグラフ
第12回	Excelの活用 (3)	アンケートデータの入力と集計
第13回	Excelの活用 (4)	関係を求める (相関係数)
第14回	Excelの実技	実技テスト (Excel)
第15回	情報発言	医療機関における個人情報保護 最終課題：ポスター作成

教科書

医療系のための情報リテラシー ISBN-978-4489022050
松木秀明 (著), 須藤真由美 (著), 松木勇樹 (著) 東京図書

参考書

30時間アカデミック 情報リテラシー Office2016
Windows 10対応 実教出版 ISBN:978-4-407-34023-5
実教出版編集部

成績評価

単位認定 60点以上
課題 (25%)、実技テスト(50%)、最終課題 (25%) で評価する。

* 定期試験を実施しない。

授業時間外の学習

上記授業内容については、あらかじめ自己学習しておくことをすすめる。配布資料及び教科書の該当箇所を参照し、学習内容に応じた準備学習（予習・復習）を行うこと。

履修のポイント

- ① 授業時間外での活用が必要である。
- ② なるべく多くの例題や演習問題を解いて覚えましょう。

オフィス・アワー

毎週金曜日 昼休み 研究室：9号館3F 第12研究室（情報環境研究室）
メール：prof.mach.dr@gmail.com

講義コード	10300001
講義名	情報処理応用演習（Aクラス）
(副題)	【教職必修】
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	月曜日
代表時限	2 時限
区分	学部共通科目
必修/選択	選択
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ マチャコン ヘルチエル	指定なし

授業の概要

「情報処理基礎演習」に引き続き、看護研究や学習において欠かせない情報処理能力を向上させるよう、より応用的な形で情報処理方法を学ぶ。PCとインターネットを活用して、看護医療データの収集や整理、Excelによる統計処理方法を含む、データ・情報の解析方法についての演習を行う。

教育目標

看護分野におけるコンピュータと情報の応用的なスキルを身につける。

到達目標

- ①Excelを利用して、医療・看護データを統計処理スキルを身につける。
- ②オープンデータの活用ができる。
- ③音声ファイル、動画ファイルの編集加工ができる。
- ④画像編集ソフトや医用画像ソフトの簡単な操作ができる。

授業計画

	主題	授業内容
第1回	Excelの復習	Excelの基本操作の複数
第2回	Excel応用(1)	アンケート調査, クロス集計表, ピボットテーブル
第3回	Excel応用(2)	データの種類 度数分布表によるデータのまとめ方（ヒストグラム）
第4回	Excel応用(3)	平均値と標準偏差によるデータのまとめ方 散布図・相関係数によるデータのまとめ方
第5回	Excel応用(4)	回帰直線によるデータのまとめ方 確率分布とその数表の作り方
第6回	Excel応用(5)	リスク比とオッズ比 区間推定によるデータのまとめ方
第7回	Excel応用(6)	仮説の検定によるデータのまとめ方
第8回	Excel応用(7)	重回帰分析によるデータのまとめ方
第9回	Excel応用(8)	演習課題

第10回	Excel応用(実技)	実技テスト (Excel)
第11回	データの可視化 オープンデータの活用	Gapminderの使い方、Motion Chartの作り方
第12回	マルチメディア情報処理 (1)	音声ファイルの編集・加工 (呼吸音)
第13回	マルチメディア情報処理 (2)	動画ファイルの編集・加工
第14回	コンピュータグラフィックス	画像ファイルの編集・加工
第15回	医療情報	DICOM形式医用画像

教科書

よくわかる統計学 看護医療データ編 第2版 東京図書 ISBN-13: 978-4489021916
石村 貞夫 (著), 石村 友二郎 (著), 久保田 基夫 (著)

参考書

- ①医療系のための情報リテラシー ISBN-978-4489022050 東京図書
- ②教育・心理系研究のためのデータ分析入門 第2版 東京図書 ISBN-13: 978-4489022623
- ③参考資料を配布する。

成績評価

単位認定 60点以上
課題 (40%)、実技テスト(60%) で評価する。

*定期試験を実施しない。

授業時間外の学習

上記授業内容については、あらかじめ自己学習しておくことをすすめる。上配布資料及び教科書の該当箇所を参照し、学習内容に応じた準備学習（予習・復習）を行うこと。

履修のポイント

- ①「情報処理基礎演習」と「統計学」を履修済みであることが望ましい。
- ②なるべく多くの例題や演習問題を解いて覚えましょう。

オフィス・アワー

毎週金曜日 昼休み 研究室：9号館3F 第12研究室（情報環境研究室）
メール：prof.mach.dr@gmail.com

講義コード	10300002
講義名	情報処理応用演習（Bクラス）
(副題)	【教職必修】
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	月曜日
代表時限	2 時限
区分	学部共通科目
必修/選択	選択
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ マチャコン ヘルチエル	指定なし

授業の概要

「情報処理基礎演習」に引き続き、看護研究や学習において欠かせない情報処理能力を向上させるよう、より応用的な形で情報処理方法を学ぶ。PCとインターネットを活用して、看護医療データの収集や整理、Excelによる統計処理方法を含む、データ・情報の解析方法についての演習を行う。

教育目標

看護分野におけるコンピュータと情報の応用的なスキルを身につける。

到達目標

- ①Excelを利用して、医療・看護データを統計処理スキルを身につける。
- ②オープンデータの活用ができる。
- ③音声ファイル、動画ファイルの編集加工ができる。
- ④画像編集ソフトや医用画像ソフトの簡単な操作ができる。

授業計画

	主題	授業内容
第1回	Excelの復習	Excelの基本操作の複数
第2回	Excel応用(1)	アンケート調査, クロス集計表, ピボットテーブル
第3回	Excel応用(2)	データの種類 度数分布表によるデータのまとめ方（ヒストグラム）
第4回	Excel応用(3)	平均値と標準偏差によるデータのまとめ方 散布図・相関係数によるデータのまとめ方
第5回	Excel応用(4)	回帰直線によるデータのまとめ方 確率分布とその数表の作り方
第6回	Excel応用(5)	リスク比とオッズ比 区間推定によるデータのまとめ方
第7回	Excel応用(6)	仮説の検定によるデータのまとめ方
第8回	Excel応用(7)	重回帰分析によるデータのまとめ方
第9回	Excel応用(8)	演習課題

第10回	Excel応用(実技)	実技テスト (Excel)
第11回	データの可視化 オープンデータの活用	Gapminderの使い方、Motion Chartの作り方
第12回	マルチメディア情報処理 (1)	音声ファイルの編集・加工 (呼吸音)
第13回	マルチメディア情報処理 (2)	動画ファイルの編集・加工
第14回	コンピュータグラフィックス	画像ファイルの編集・加工
第15回	医療情報	DICOM形式医用画像

教科書

よくわかる統計学 看護医療データ編 第2版 東京図書 ISBN-13: 978-4489021916
石村 貞夫 (著), 石村 友二郎 (著), 久保田 基夫 (著)

参考書

- ①医療系のための情報リテラシー ISBN-978-4489022050 東京図書
- ②教育・心理系研究のためのデータ分析入門 第2版 東京図書 ISBN-13: 978-4489022623
- ③参考資料を配布する。

成績評価

単位認定 60点以上
課題 (40%)、実技テスト(60%) で評価する。

*定期試験を実施しない。

授業時間外の学習

上記授業内容については、あらかじめ自己学習しておくことをすすめる。上配布資料及び教科書の該当箇所を参照し、学習内容に応じた準備学習（予習・復習）を行うこと。

履修のポイント

- ①「情報処理基礎演習」と「統計学」を履修済みであることが望ましい。
- ②なるべく多くの例題や演習問題を解いて覚えましょう。

オフィス・アワー

毎週金曜日 昼休み 研究室：9号館3F 第12研究室（情報環境研究室）
メール：prof.mach.dr@gmail.com

講義コード	10310001
講義名	文献検索とクリティーク
(副題)	
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
区分	学部共通科目
必修/選択	選択
学年	3学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ マチャコン ヘルチエル	指定なし

授業の概要

科学論文の検索方法について理解し、実践し、実際の論文を例にとり、論文の背景や目的、研究方法、結果、考察などの記述の仕方を学ぶ。さらに論文に対する批評的な読解法についても学習する。

教育目標

科学論文の検索方法を習得し、研究種類や研究プロセスの基礎を学ぶ。
さらに研究論文に対する批評的な読解法を学び、文献クリティークの基礎能力を養う。

到達目標

- ① 情報・文献検索ができる。
- ② 論文のクリティークを行うことができる。

授業計画

	主題	授業内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方、文献とは何か 研究の種類、研究論文とは何か
第2回	情報検索	看護とWeb検索・文献検索 (サーチエンジンによる情報・文献検索)
第3回	文献検索 (1)	データベースで調べてみよう (NDL-OPAC (国立国会図書館蔵書検索) 最新看護索引Web
第4回	文献検索 (2)	文献の探し方：国内の電子ジャーナル・データベース 医学中央雑誌Web 版、JDreamII、CiNii
第5回	文献検索 (3) (和文編)	文献の探し方：国内の電子ジャーナル・データベース メディカルオンライン
第6回	文献検索 (4) (欧文編)	文献の探し方：外国の電子ジャーナル・データベース PubMed、Cochrane
第7回	文献検索 (実技)	テスト:文献検索の実技

第8回	科学研究論文のクリティーク 1	クリティークとは何か
第9回	科学研究論文のクリティーク 2	研究における統計学の基本知識の復習
第10回	科学研究論文のクリティーク 3	国内のジャーナルから原著論文(和文)のクリティーク
第11回	科学研究論文のクリティーク 4	外国のジャーナルから原著論文(英文)のクリティーク
第12回	グループワーク 1	文献レビュー・マトリックスの作成 (1) トピックの決定、文献の収集
第13回	グループワーク 2	文献レビュー・マトリックスの作成 (2) 文献の整理
第14回	グループワーク 3	課題のプレゼンテーション・インタビュー (必修)
第15回	グループワーク 4	課題のプレゼンテーション・インタビュー (必修)

教科書

看護師のためのWeb検索・文献検索入門 (JJNスペシャル), 医学書院 ISBN-13: 978-4260019125
佐藤 淑子／和田 佳代子

参考書

1. 看護研究のための文献検索ガイド 第4版 増補版
(日本看護協会出版会) ISBN-13: 978-4818014985
2. 参考資料を配布する。

成績評価

単位認定 60点以上
課題 (20%)、実技テスト (40%)、プレゼンテーション・インタビュー(40%) で評価する。

*定期試験を実施しない。

授業時間外の学習

上記授業内容については、あらかじめ自己学習しておくことをすすめる。配布資料及び教科書の該当箇所を参照し、学習内容に応じた準備学習 (予習・復習) を行うこと。

履修のポイント

- ①「統計学」を履修済みであることが望ましい。
- ②授業時間外での活用が必要である。
- ③多くの研究論文を読むことをすすめる。

オフィス・アワー

毎週金曜日 昼休み 研究室：9号館3F 第12研究室 (情報環境研究室)
メール：prof.mach.dr@gmail.com

講義コード	10320001
講義名	医療保健論
(副題)	
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	月曜日
代表時限	5 時限
区分	専門基礎科目
必修/選択	必修
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 高橋 美砂子	指定なし

授業の概要

地域社会は、保健医療の目的である「健康」に大きな影響力を有する。まず、地域社会のいかなる要因が健康に影響を及ぼすかについて、自分が生活する地域の自然環境、生活環境、政治、風土、特産物等の要因について検討し、それに対する現状の保健福祉施策について学習する。その上で今後の地域社会の住民の健康のために必要な保健医療サービスについて考える。

教育目標

日本の国民健康づくり施策から、身近な地域の健康づくり計画とその背景について、学習する。社会環境の質としてのソーシャルキャピタル、社会とのつながりを考えるネットワーク等をキーワードに地域を構成する人々の健康と医療保健サービスについて学ぶ。

到達目標

1. 日本の健康づくりについて理解できる 2. 地域社会での暮らしと健康の関連が理解できる 3. 健康な生活を送りための社会資源とその活用が理解できる 4. 地域力と健康の関係が理解できる 5. これからの日本や身近な地域の保健医療問題を考えることができる

授業計画

	主題	授業内容	備考
第1回	医療と保健(1)	・ 授業ガイダンス・日本の保健医療福祉の現状について	
第2回	医療と保健(2)	・ 日本の健康づくり政策の変遷と健康日本21(2次)	
第3回	地域と健康(1)	・ 健康寿命と健康格差とは ・ 日常の生活習慣と生活習慣病について	
第4回	地域と健康(2)	・ 群馬県の特徴と健康づくり施策 ・ みどり市の特徴と健康づくり施策	
第5回	地域と健康(3)	・ 健康づくりワークショップ	
第6回	保健医療と社会資源(1)	・ 地域力としてのソーシャルキャピタルと保健、医療、福祉	
第7回	保健医療と社会資源(2)	・ 保健医療の専門職について・地域ケアシステムとネットワーク（チーム連携）のあり方	
第8回	保健医療の今後展望	・ 本講座のポイント、振り返り・自分の考えを述べる（まとめ）レポート（論述試験）	【授業評価】

教科書
授業時に資料を配布します。
参考書
必要時、紹介します。国民衛生の動向、医療福祉総合ガイドブック(医学書院)、社会福祉士シリーズ17保健医療サービス(弘文堂)
成績評価
単位認定は60点以上。試験60%、ワークショップ30%、ノート10%
授業時間外の学習
自分で調べて、考える学習を取り入れます。体験型学習(ワークショップ)もしますので、準備をしてきてください。
履修のポイント
私たちが生活している地域のことをよく知り、自然環境や習慣、世間体など様々な社会資源と、健康・医療問題を関連付けて考えられる、そんな問題提起をしていきます。
オフィス・アワー
研究室の在室時は対応します。(10号館2階研究室1)

講義コード	10330001
講義名	チーム連携論
(副題)	【保健師必修】
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	火曜日
代表時限	5 時限
区分	専門基礎科目
必修/選択	選択
学年	3学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 高橋 美砂子	指定なし
教員	林 圭子	指定なし

授業の概要

今日の医療ニーズの多様化に対応したより良質なサービスを提供するためには、医療・保健・福祉などの多様な専門職による役割と機能の有機的な連携や協働が必要不可欠である。本授業では、チーム医療の意義を理解し、チームアプローチの実際についてグループ討議を通して学習する（オムニバス方式全15回）。

教育目標

早期体験合同実習の振り返り、医療・保健・福祉領域の各専門職種の役割、機能、責任についてさらに学習し、より良質なサービス提供を目指すチーム医療実現のための役割と機能について思考する。

到達目標

1. チーム医療の背景、あり方、倫理といった基本的な知識を習得し、説明できる。
2. 各専門職に対する理解を深めるとともに、チーム構成員の役割、機能、責任を説明できる。
3. 情報の伝達やコミュニケーションの重要性について、異なる専攻学生とのグループワークの中で実践できる。
4. 効果的で円滑なチーム医療を展開する方法についてグループ発表やレポート報告ができる。

授業計画

	主題	授業内容
第1回	チーム医療とは何か(1)	・ 授業オリエンテーション・チーム連携による患者中心の医療目指して
第2回	チーム医療とは何か(1)	・ 早期体験合同実習を振り返ってのグループワーク
第3回	栄養指導とチーム医療	・ 糖尿病療養指導におけるチーム医療 ・ 褥瘡ケアにおけるチーム医療
第4回	チーム医療とは何か(2)	・ チーム医療の志向性による要素分類とそれらの要素の関係性 ・ チーム医療の論理
第5回	チーム医療における患者医療者関係	・ チームの形態別分類、構成員とその役割 ・ 阻害要因と改善に向けてのアプローチ
		・ チーム医療の倫理性

第6回	チーム医療の倫理	・チーム構成員のあり方とコミュニケーション ・チームとインフォームドコンセント
第7回	在宅医療におけるチーム	・在宅におけるチーム医療の実際（福祉や保健との連携）
第8回	高度医療提供とチーム医療	・高度医療提供施設におけるチーム医療 ・高度医療と管理栄養士・看護師の役割拡大
第9回	パスを用いた連携の取り方	・クリティカルパスを用いたチーム医療（病院と地域連携）
第10回	地域ケアにおけるチーム連携	地域ケアにおけるチーム連携
第11回	地域におけるチーム医療の検討(1)	・事例検討グループワーク(オリエンテーション) ・複数の専門領域によるディスカッション
第12回	地域におけるチーム医療の検討(2)	・事例検討グループワーク(オリエンテーション) ・複数の専門領域によるディスカッション
第13回	地域におけるチーム医療の検討(3)	・事例検討グループワーク(オリエンテーション) ・複数の専門領域によるディスカッション
第14回	地域におけるチーム医療の検討(4)	・事例検討グループワーク 発表・チームで協働することからの気づき
第15回	チーム医療の展望	・患者や地域住民中心のチーム医療、福祉をめざして ・情報の共有と医療過誤の低減・生活の質を保障するとは

教科書

指定の教科書はありません。必要時、資料を配布します。

参考書

必要時、紹介します。

成績評価

単位認定は60点以上とする。授業中の発表状況・グループワークの参加状況(60%)、レポート(40%)

授業時間外の学習

グループワークに向けての事前学習と発表にむけての準備が必要である。

履修のポイント

患者や地域住民を中心とした良質な保健医療サービスを提供するためには、チームによる協働は必要不可欠である。

オフィス・アワー

研究室にいる場合、いつでも対応します。

講義コード	10340001
講義名	早期体験合同実習
(副題)	
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	前期
講義区分	実験・実習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
区分	専門基礎科目
必修/選択	必修
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 三木 園生	指定なし

授業の概要

学習初期の時期に対象者の立場から、医療・保健施設の現場を知り、施設を利用している人々と関わることを通して、対象者について理解を深める。また、自己の専攻する専門職の役割について考えることで、今後の学習の動機づけとし、主体的に学ぶための方法を理解する。
看護学科・栄養学科合同実習とすることで、自己理解とともに、専攻の異なる学生間で認識を共有し、チーム連携の重要性を知る機会とする。

教育目標

対象者の立場から、医療・保健施設の現場を知り、施設を利用している人々と関わることを通して、対象者について理解を深める。自己の専攻する専門職の役割について考え、今後の学習の動機づけとする。また、実習を通して学生間で認識を共有する。

到達目標

1. 対象者の立場から、医療施設のサービスを観察する。
2. 看護師および管理栄養士の活動を観察し、その役割を知る。
3. 各専門職の役割を知り、その連携について考える。
4. 今後の学習上の課題を明らかにする。

授業計画

	主題	授業内容	備考
第1回	学内実習 ①	オリエンテーション・事前課題	* 詳細は早期体験合同実習要項参照
第2回	学内実習 ②	グループ別演習	* 詳細は早期体験合同実習要項参照
第3回	臨地実習 ①	対象者の立場から医療施設のサービスを観察する	* 詳細は早期体験合同実習要項参照
第4回	臨地実習 ②	看護師・管理栄養士の活動を知る	* 詳細は早期体験合同実習要項参照
第5回	臨地実習 ③	各専門職の活動を知り、連携について考える	* 詳細は早期体験合同実習要項参照
第6回	学内実習 ③	グループ別演習・実習のまとめ	* 詳細は早期体験合同実習要項参照

教科書
プリント等を配布し、別途指示します。
参考書
鷹野和美編著：チーム医療論、医歯薬出版株式会社
成績評価
単位認定60点以上。実習要項評価表参照
授業時間外の学習
前課題を行ない、臨地実習前のグループワークおよび臨地実習に臨む必要があります。さらに、臨地実習では、日々学んだことを記録し、次の日の学習目標を明確化すること、さらにこの授業で学んだことについてレポート作成します。
履修のポイント
事前学習、グループワーク、臨地実習で構成されています。臨地実習前の事前学習やグループワークが重要です。積極的に各々参加してください。
オフィス・アワー
担当教員の教室前に掲示

講義コード	10350001
講義名	人体の構造と機能Ⅰ
(副題)	【教職必修】
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	1 時限
区分	専門基礎科目
必修/選択	必修
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 煙山 健仁	指定なし

授業の概要

看護にたずさわるには、各種疾患の病態を正しく把握するために非常に多くの知識が必要です。そのためには、正常の体の構造や機能を知ることが大変重要です。骨格、筋肉、各種の臓器、血管系や神経系、さらに感覚器や内分泌腺などが、体のどこに存在し、どのような形をし、それらがどのように統合されているか理解しなければなりません。この様な体の構造に加え、看護では生きた人体を扱わなければならないので、たえず働いている各種の臓器・組織の機能も知る必要があります。例えば血管の中は絶えず血液が流れ、神経も絶えず情報を送っており、さらに目に見えないホルモンなどにより、体の機能が微妙にかつ精巧に調節されています。その結果として生命や健康を維持するうえで重要な体の内部環境が最も好適な条件に保たれています。このように「人体の構造と機能」は人体についての知識の基礎をなすものであり、病気の理解にも看護の実際にも基礎となる学問です。

教育目標

人体の構造と機能において、細胞と組織の基本構造と機能、栄養の消化と吸収、身体の支持と運動、呼吸と血液の働き、血液の循環とその調節、を理解する。

到達目標

人間の日常的活動において、体の中で絶え間なく行われている物質代謝が、具体的にどの臓器組織でどの様に行われているかを理解し、その理解に基づいて人間の日常活動を説明できる。

授業計画

	主題	授業内容
第1回	解剖学・生理学とは	解剖学と生理学の歴史、学問の対象、学習方法
第2回	細胞組織の基礎 1	細胞・組織の構造と機能
第3回	細胞組織の基礎 2	細胞のATP産生、タンパク質の合成
第4回	細胞組織の基礎 3	細胞膜の機能、細胞増殖、組織の種類
第5回	細胞組織の基礎 4	体液とホメオスタシス
第6回	細胞組織の基礎 5	人体の方向、位置を示す用語、人体の区分
第7回	栄養の消化と吸収 1	口、咽頭、食道の構造と機能
第8回	栄養の消化と吸収 2	腹部消化管の構造
第9回	栄養の消化と吸収 3	腹部消化管の機能、排便のメカニズム

第10回	栄養の消化と吸収 4	糖質、タンパク質、脂肪の消化と吸収
第11回	栄養の消化と吸収 5	膵臓、肝臓、胆嚢の構造と機能
第12回	栄養の消化と吸収 6	消化器系のまとめ
第13回	体の支持と運動 1	人体の骨格、骨の連結、骨格筋
第14回	体の支持と運動 2	体幹の骨格と筋
第15回	体の支持と運動 3	上肢の骨格と筋、下肢の骨格と筋、
第16回	体の支持と運動 4	頭頸部の骨格と筋
第17回	体の支持と運動 5	筋の収縮機構
第18回	体の支持と運動 6	骨格・筋系のまとめ
第19回	呼吸と血液のはたらき 1	呼吸器の構造、内呼吸と外呼吸
第20回	呼吸と血液のはたらき 2	呼吸気量、ガス交換、酸素と二酸化炭素の運搬
第21回	呼吸と血液のはたらき 3	呼吸運動の調節、病的呼吸、換気障害
第22回	呼吸と血液のはたらき 4	血液の組成と機能、血球の機能
第23回	呼吸と血液のはたらき 5	血漿タンパク質のはたらき、血液凝固、血液型
第24回	呼吸と血液のはたらき 6	呼吸器系・血液のまとめ
第25回	血液の循環とその調節 1	心臓の位置と構造、心臓の拍出機能
第26回	血液の循環とその調節 2	心電図、血圧、心周期
第27回	血液の循環とその調節 3	血圧の調節、微小循環、浮腫
第28回	血液の循環とその調節 4	チアノーゼ、心不全、高血圧、リンパ循環
第29回	血液の循環とその調節 5	循環器系のまとめ
第30回	まとめ	人体の構造と機能Ⅰのまとめ

教科書

人体の構造と機能（1）解剖生理学、坂井建雄・岡田隆夫 編集、医学書院

参考書

解剖生理学(ナースング・グラフィカ)、林正健二 編集、メディカ出版

成績評価

単位認定60点以上

授業中の小テストやレポート（20%）、学期末テスト（80%）で評価

授業時間外の学習

予習：教科書を読んで分からない内容や用語をノートに書きとめて下さい。

復習：講義内容が理解できたか、予習時の疑問点は解決できたかをノートにまとめて下さい。

質問：講義の疑問点が解決できない場合は、気軽に質問に来て下さい。

履修のポイント

自分だけの学習では正しい知識の理解が難しいので、講義に出席することが大切です。

講義では話を聞くことに集中して下さい。

オフィス・アワー

研究室在室中は、いつでも対応します。

講義コード	10360001
講義名	人体の構造と機能Ⅱ
(副題)	【教職必修】
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	火曜日
代表時限	2 時限
区分	専門基礎科目
必修/選択	必修
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 煙山 健仁	指定なし

授業の概要

看護にたずさわるには、各種疾患の病態を正しく把握するために非常に多くの知識が必要です。そのためには、正常の体の構造や機能を知ることが大変重要です。骨格、筋肉、各種の臓器、血管系や神経系、さらに感覚器や内分泌腺などが、体のどこに存在し、どのような形をし、それらがどのように統合されているか理解しなければなりません。この様な体の構造に加え、看護では生きた人体を扱わなければならないので、たえず働いている各種の臓器・組織の機能も知る必要があります。例えば血管の中は絶えず血液が流れ、神経も絶えず情報を送っており、さらに目に見えないホルモンなどにより、体の機能が微妙にかつ精巧に調節されています。その結果として生命や健康を維持するうえで重要な体の内部環境が最も好適な条件に保たれています。このように「人体の構造と機能」は人体についての知識の基礎をなすものであり、病気の理解にも看護の実際にも基礎となる学問です。

教育目標

人体の構造と機能において、体液の調節と尿の生成、血液の循環とその調節、内臓機能の調節、を理解する。

到達目標

人間の日常的活動において、体の中で絶え間なく行われている物質代謝が、具体的にどの臓器組織でどの様に行われているかを理解し、その理解に基づいて人間の日常活動を説明できる。

授業計画

	主題	授業内容
第1回	体液の調節と尿の生成 1	腎臓の構造、尿生成のメカニズム
第2回	体液の調節と尿の生成 2	傍糸球体装置と血圧、腎クリアランスと糸球体の障害
第3回	体液の調節と尿の生成 3	体液の調節、蓄尿と排尿
第4回	体液の調節と尿の生成 4	水の出納、脱水、電解質異常
第5回	体液の調節と尿の生成 5	酸塩基平衡
第6回	体液の調節と尿の生成 6	腎・泌尿器系のまとめ
第7回	肺循環と体循環 1	肺循環と体循環
第8回	肺循環と体循環 2	体循環の動脈
第9回	肺循環と体循環 3	体循環の静脈

第10回	内臓機能の調節 1	自律神経系の構造と機能
第11回	内臓機能の調節 2	ホルモンの分類と受容体、下垂体、甲状腺
第12回	内臓機能の調節 3	副甲状腺、膵臓、性腺、その他のホルモン
第13回	内臓機能の調節 4	糖代謝代謝、カルシウム代謝、ストレス、血圧
第14回	内臓機能の調節 5	自律神経系・内分泌系のまとめ
第15回	まとめ	人体の構造と機能IIのまとめ

教科書

人体の構造と機能（1）解剖生理学、坂井建雄・岡田隆夫 編集、医学書院

参考書

解剖生理学(ナースング・グラフィカ)、林正健二 編集、メディカ出版

成績評価

単位認定60点以上

授業中の小テストやレポート（20％）、学期末テスト（80％）で評価

授業時間外の学習

予習：教科書を読んで分からない内容や用語をノートに書きとめて下さい。

復習：講義内容が理解できたか、予習時の疑問点は解決できたかをノートにまとめて下さい。

質問：講義の疑問点が解決できない場合は、気軽に質問に来て下さい。

履修のポイント

自分だけの学習では正しい知識の理解が難しいので、講義に出席することが大切です。

講義では話を聞くことに集中して下さい。

オフィス・アワー

研究室在室中は、いつでも対応します。

講義コード	10370001
講義名	人体の構造と機能Ⅲ
(副題)	【教職必修】
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	月曜日
代表時限	3 時限
区分	専門基礎科目
必修/選択	必修
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 煙山 健仁	指定なし

授業の概要

看護にたずさわるには、各種疾患の病態を正しく把握するために非常に多くの知識が必要です。そのためには、正常の体の構造や機能を知ることが大変重要です。骨格、筋肉、各種の臓器、血管系や神経系、さらに感覚器や内分泌腺などが、体のどこに存在し、どのような形をし、それらがどのように統合されているか理解しなければなりません。この様な体の構造に加え、看護では生きた人体を扱わなければならないので、たえず働いている各種の臓器・組織の機能も知る必要があります。例えば血管の中は絶えず血液が流れ、神経も絶えず情報を送っており、さらに目に見えないホルモンなどにより、体の機能が微妙にかつ精巧に調節されています。その結果として生命や健康を維持するうえで重要な体の内部環境が最も好適な条件に保たれています。このように「人体の構造と機能」は人体についての知識の基礎をなすものであり、病気の理解にも看護の実際にも基礎となる学問です。

教育目標

人体の構造と機能において、神経系の構造と機能、感覚器の構造と機能、生殖・発生・老化のメカニズム、を理解する。

到達目標

人間の日常的活動において、体の中で絶え間なく行われている物質代謝が、具体的にどの臓器組織でどの様に行われているかを理解し、その理解に基づいて人間の日常活動を説明できる。

授業計画

	主題	授業内容
第1回	情報の受容と処理 1	神経系の構造と機能、脊髄の構造と機能
第2回	情報の受容と処理 2	脳の構造と機能
第3回	情報の受容と処理 3	脊髄神経と脳神経
第4回	情報の受容と処理 4	脳の高次機能、中枢神経系の障害
第5回	情報の受容と処理 5	運動機能と下行伝導路、感覚機能と上行伝導路
第6回	情報の受容と処理 6	神経系のまとめ
第7回	感覚器の構造と機能 1	眼の構造と機能、耳の構造と機能
第8回	感覚器の構造と機能 2	味覚、嗅覚、痛覚
第9回	外部環境からの防御 1	皮膚の構造と機能

第10回	外部環境からの防御 2	生体の防御機構と関連臓器
第11回	外部環境からの防御 3	体温とその調節、高体温と低体温
第12回	生殖、発生と老化の仕組み 1	男性生殖器、女性生殖器と性周期
第13回	生殖、発生と老化の仕組み 2	受精と胎児の発生
第14回	生殖、発生と老化の仕組み 3	胎児の血液循環、成長と老化
第15回	まとめ	人体の構造と機能Ⅲのまとめ

教科書

人体の構造と機能（1）解剖生理学、坂井建雄・岡田隆夫 編集、医学書院

参考書

解剖生理学(ナースング・グラフィカ)、林正健二 編集、メディカ出版

成績評価

単位認定60点以上

授業中の小テストやレポート（20%）、学期末テスト（80%）で評価

授業時間外の学習

予習：教科書を読んで分からない内容や用語をノートに書きとめて下さい。

復習：講義内容が理解できたか、予習時の疑問点は解決できたかをノートにまとめて下さい。

質問：講義の疑問点が解決できない場合は、気軽に質問に来て下さい。

履修のポイント

自分だけの学習では正しい知識の理解が難しいので、講義に出席することが大切です。

講義では話を聞くことに集中して下さい。

オフィス・アワー

研究室在室中は、いつでも対応します。

講義コード	10380001
講義名	人体の生化学
(副題)	
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	火曜日
代表時限	1 時限
区分	専門基礎科目
必修/選択	必修
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 榮 昭博	指定なし

授業の概要

生体を構成する成分・分子理解しするために、糖、脂質、タンパク質についてその化学を学びさらに消化吸収・代謝・排泄を学ぶ。また、代謝などを調節する内分泌や遺伝子とその働きも学ぶ。

教育目標

人体の構造と機能、特に各栄養素の働きを生化学的に理解することを目的としている。

到達目標

生体を構成する分子の構造・機能を理解する。また、各分子の代謝を理解する。さらに遺伝子・遺伝情報発現に関することを理解する。

授業計画

	主題	授業内容
第1回	生化学の概要	化学の基礎と生化学を概説しする。また、国家試験における生化学の概要についても解説する
第2回	糖質の構造と性質	糖の化学、単糖・少糖・多糖の種類、特にグルコースの構造を理解し、糖の化学的性質との関連をみる。
第3回	脂質の構造と性質	脂質の分類と定義、脂肪、複合脂質、ステロイドについて学ぶ。
第4回	脂質の構造と性質（2）	コレステロール・リポタンパク質について学ぶ。
第5回	蛋白質の構造と性質	アミノ酸およびペプチドの構造と性質について学ぶ。
第6回	核酸	塩基、ヌクレオシドとヌクレオチド、DNAとRNAの構造と機能について学ぶ。
第7回	水とミネラル	水の機能と役割、ミネラルの機能について学ぶ。
第8回	ビタミン（1）	脂溶性ビタミンを中心にその種類と生理作用について学ぶ。
第9回	ビタミン（2）	主に水溶性ビタミンの種類と生理作用について学ぶ。
第10回	ホルモンと生理活性物質Ⅰ	ホルモンの定義、ホルモンの種類、作用を学ぶ。

第11回	ホルモンと生理 活性物質Ⅱ	前回に続きホルモンを学び、サイトカインについても学ぶ。また、内分泌疾患の一部を学ぶ。
第12回	糖代謝	グリコーゲンおよびグルコース代謝（解糖・TCAサイクル）などについて学ぶ。
第13回	脂質代謝	脂質の消化吸収、脂肪酸・脂質の生体内の動向および代謝について学ぶ。
第14回	蛋白質代謝	蛋白質の消化吸収・アミノ酸の代謝について学ぶ。
第15回	遺伝情報とその 発現	遺伝子による複製・転写・翻訳および蛋白質合成について学ぶ。

教科書

『系統看護学講座 専門基礎2 人体の構造と機能[2] 生化学』医学書院

成績評価

単位認定60点以上。定期試験100%とする。

授業時間外の学習

事前の学習と授業終了後に、講義ノートを作成すること。両方併せて週4時間以上学習すること

履修のポイント

化学の知識を必要とするので化学（特に有機化学）を復習しておくことが望ましい。

オフィス・アワー

授業開講日の12:30～13:20に11号館3階第14研究室で行う。ただし、この時間帯以外でも講義・会議・出張等の校務がない場合行うことができることがある。

講義コード	10410001
講義名	疾病の成り立ち
(副題)	
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	火曜日
代表時限	2 時限
区分	専門基礎科目
必修/選択	必修
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 岡安 勲	指定なし

授業の概要

疾病の成り立ち（病理学Pathology）とは病気の本質について理解・研究する医学の一分野であり、病気の過程、つまり病気の原因、発生の仕組み、経過、転帰といった一連の過程を調べる事により、病気の本態を研究する学問です。したがって、病理学は解剖学、細胞・分子生物学、生理学、生化学などの基礎の上に存在し、他方では臨床医学と密接な関係を持っています。この意味で病理学は医学の一分野と言うより、総合医学とみなすべきであり、臨床医学における診断や治療のみならず、看護学の実践も病理学を基礎として行われています。つまり、皆さんが今後、看護学を学び、実践していく上で大変重要であり、基礎となる学問です。双方向の授業を目指して、あらかじめ分担を決めて（アンダーラインのついた項目）、学生の皆さんにも説明してもらいます。質疑応答を行い、active learningを支援します。

教育目標

先天性異常、細胞障害と組織修復、循環障害、炎症、感染症、免疫異常、腫瘍の発生原因・発生のメカニズムと経過を理解し、説明できる。
さらに各臓器の主要疾患の成り立ちを理解する。
これらを自分の知識とすることによって、臨床科目への導入とする。

到達目標

病気の過程、つまり病気の原因、発生の仕組み、経過、転帰といった一連の病気の過程を病理総論的に理解し、看護の実践に必要な基礎知識として理解する。さらにこれらを自分で説明できる。
各臓器の主要疾患の成り立ちを理解して、これを自ら説明できる。

授業計画

	主題	授業内容
第1回	病理学の概要	病理学の歴史、病理学の概要、看護と病理学、病気の原因、医療における病理学の役割
第2回	細胞、組織の障害と修復	細胞・組織の損傷と適応、組織の修復と創傷治癒
第3回	循環障害	浮腫、充血とうっ血、出血、血栓、塞栓症、虚血と梗塞、側副循環、ショック、高血圧症、DIC
第4回	炎症と免疫、移植と再生医療－1	炎症とその分離（炎症とは、炎症の各型）、免疫と免疫不全
	炎症と免疫、移植と再生	

第5回	医療－2	アレルギーと自己免疫疾患、移植と再生医療
第6回	感染症	感染と宿主の防御機構、主な病原体と感染症（性感染症含む）、感染症の治療と予防
第7回	代謝障害	脂質代謝障害、タンパク代謝障害、糖尿病、その他（痛風、黄疸、結石）
第8回	老化と死	個体の老化と老年症候群、加齢に伴う諸臓器の変化、個体の死と終末期医療
第9回	先天異常と遺伝子異常	遺伝の生物学、先天異常、遺伝子の異常と疾患、先天異常・遺伝子異常の診断と治療
第10回	腫瘍 1	腫瘍の定義と分類、悪性腫瘍の広がりと影響、腫瘍の発生病理
第11回	腫瘍 2	腫瘍の診断と治療、腫瘍の統計（疫学）
第12回	循環器系・血液造血系の疾患	虚血性心疾患、不整脈、左心不全、動脈瘤、貧血、白血病、悪性リンパ腫
第13回	呼吸器系・消化器系の疾患	肺炎、慢性閉塞性肺疾患、胃・十二指腸潰瘍、炎症性腸疾患、肝炎、肝硬変、悪性腫瘍
第14回	腎・泌尿器、生殖器系、乳腺、内分泌系の疾患	腎炎、腎不全、腎尿路系・婦人科系・男性生殖器系・乳腺・内分泌系腫瘍の特徴
第15回	脳神経・運動器系の疾患	脳血管障害、アルツハイマー病、パーキンソン病、脳腫瘍、骨粗鬆症、変形性骨関節症、病理診断の実際

教科書

大橋 健一・他『＜系統看護学講座 専門基礎分野＞疾病のなりたちと回復の促進[1]病理学』（医学書院）

参考書

医療系の病理学教科書ないしは参考書。臓器別の臨床系教科書ないしは参考書。
（例）ロビンズ&コトラン 鷹橋浩幸、羽野 寛、白石泰三、福田国彦監訳「病理学アトラス」エルゼビア・ジャパン

成績評価

中間期と学期末試験として、2回記述試験を行う。合計100点満点中60点以上を合格とする。但し、試験問題の難易度により、平均点や標準偏差値を考えて評価する。学生発表も考慮する。

授業時間外の学習

授業時間だけで、理解するのは難しいので、予習復習が大切です。特に、毎回授業の内容を理解できるまで復習することで、次の授業内容のスムーズな理解につながります。

履修のポイント

自分で教科書を読むだけでは、なかなか正しい理解が得られないので、毎回授業に出席することが大切です。また、復習はきちんとしましょう。また、興味のある箇所を自分で読み込んでいくと、理解が深まり、楽しくなります。

オフィス・アワー

月・火・金曜日のお昼休み(12:40-14:00)。教員居室ないしは控え室。

講義コード	10420001
講義名	感染と防御
(副題)	【教職必修】
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	木曜日
代表時限	2 時限
区分	専門基礎科目
必修/選択	必修
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 煙山 健仁	指定なし

授業の概要

微生物としての細菌、真菌、原虫、ウイルスなどについて、その一般的性状と、各種微生物によって引き起こされる代表的な感染症について分りやすく講義する。また、感染防御の基礎となる免疫機構について概説するとともに、感染予防のための滅菌、消毒、予防接種や、感染症治療のための化学療法剤などについても概要を講義する。

教育目標

病原微生物の種類と特徴、感染症とはどのようなものか、感染症予防などの事項を礎的知識として理解する。

到達目標

病原微生物の種類と特徴、感染症とはどのようなものかを理解し、実際の看護に役立つ感染症予防方法についての知識を深める。

授業計画

	主題	授業内容
第1回	微生物と人間	微生物とはなにか、微生物の発見と歩み、細菌の形態と構造
第2回	細菌、真菌の性質	細菌の増殖、遺伝、病原性、真菌の形態と構造
第3回	原虫、ウイルスの性質	原虫の特徴と基本構造、ウイルスの特徴、構造、分類、増殖
第4回	感染症とは	感染症の概念、感染のメカニズム、感染の予防
第5回	感染の予防、診断、治療	消毒と滅菌、病原体の検出、化学療法、薬剤耐性菌、院内感染
第6回	免疫 1	免疫とは、免疫に関与する細胞と組織、細胞性免疫と液性免疫
第7回	免疫 2	抗体の構造と機能、抗体産生、補体
第8回	免疫 3	抗原抗体反応、T細胞の分化と成熟、抗原認識
第9回	免疫 4	サイトカイン、アレルギー、MHCと移植
第10回	細菌感染症 1	グラム陽性球菌、グラム陰性桿菌と球菌の各感染症

第11回	細菌感染症 2	グラム陽性桿菌、らせん菌、抗酸菌、嫌気性菌の各感染症
第12回	リケッチア、クラミジア、真菌 原虫感染症	マイコプラズマ、リケッチア、クラミジア、真菌 原虫感染症
第13回	ウイルス感染症 1	胎児、小児のウイルス感染症、持続感染するウ イルス
第14回	ウイルス感染症 2	肝炎ウイルス感染症、HIV感染症など
第15回	ウイルス感染症 3	腫瘍ウイルス

教科書

微生物学、西條政幸 著、サイオ出版

参考書

レビューブック、岡庭豊 編集、メディクメディア

成績評価

単位認定60点以上

授業中の小テストやレポート（20%）、学期末テスト（80%）で評価

授業時間外の学習

予習：教科書を読んで分からない内容や用語をノートに書きとめて下さい。

復習：講義内容が理解できたか、予習時の疑問点は解決できたかをノートにまとめて下さい。

質問：講義の疑問点が解決できない場合は、気軽に質問に来て下さい。

履修のポイント

自分だけの学習では正しい知識の理解が難しいので、講義に出席することが大切です。

講義では話を聞くことに集中して下さい。

オフィス・アワー

研究室在室中は、いつでも対応します。

講義コード	10430001
講義名	臨床検査
(副題)	
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	金曜日
代表時限	3 時限
区分	専門基礎科目
必修/選択	必修
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 立崎 國男	指定なし

授業の概要

病気に悩む人々やその他の人々の健康を増進するには、各種の医療専門職が理念及び知識を共有し対応することが重用である。例えば、医療現場では臨床討論（カンファレンス）が行われ、医療専門職が話し合って患者個々に最適の医療を行う計画が立てられる。こうした討論をスムーズに行うには医療専門職すべてが共通の言語を使って患者の治療方針、治療効果、などについて話し合わなくてはならない。その共通言語の一つが臨床検査であることを理解していく。

教育目標

臨床検査の基礎知識を学習することを目的とする。

到達目標

授業（後期）では系統看護学講座 別巻 臨床検査 第7版（医学書院）を15回にわたり授業を行い、授業終了時に単位認定筆記試験を実施し、成績評価が合格点に達した場合に単位を与える。合格点に達しない場合は再試験を行い評価を行う。

授業計画

	主題	授業内容
第1回	「臨床検査の基礎」①	臨床検査の役割・種類・目的について
第2回	「臨床検査の基礎」②	臨床検査の評価・変動・測定誤差
第3回	臨床検査の流れと看護師の役割①	検査の流れ・準備・説明と注意
第4回	臨床検査の流れと看護師の役割②	検体の採取法・保存・移送法・危険とその防止・簡易迅速検査の実施・介助・検査結果の取り扱い
第5回	「各論」一般検査	尿検査・便検査・体内貯留液・髄液・間接液他
第6回	血液検査①	血液検査・出血凝固・溶血性貧血の検査・骨髓検査
第7回	血液検査②	血液一般検査の概要について (各血球成分・白血球分類・凝固因子について)

第8回	臨床化学検査 ①	血清酵素の検査・糖代謝の検査・脂質代謝の検査・胆汁排泄関連物質の検査・窒素化合物の検査
第9回	臨床化学検査 ②	骨代謝関連物質の検査・腎機能の検査・水電解質の検査・血液ガス分析・鉄代謝関連物質・銅代謝関連物質検査・ビタミンの検査・血中薬物濃度の検査
第10回	免疫・血清検査 ①	炎症マーカー・液性免疫・細胞性免疫・自己抗体・アレルギー検査
第11回	免疫・血清検査 ②	免疫学的妊娠反応・腫瘍マーカー・輸血
第12回	内分泌学的検査	下垂体前葉ホルモン・下垂体後葉ホルモン・甲状腺ホルモン
第13回	微生物検査	感染症の診断と検査・各種病原体と検査
第14回	病理検査・生体検査	生理検査・画像検査・細胞診・病理組織検査・剖検診断
第15回	臨床検査総括・試験	総括・試験

教科書

『系統看護学講座 別巻 臨床検査』 第7版（医学書院） 2014,1,15発行 ISBN 978-4-260-01803-6

成績評価

単位認定60点以上

オフィス・アワー

(授業日のみ)授業前もしくは終了後に質問等に応じます。

講義コード	10440001
講義名	栄養学
(副題)	【教職必修】
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	2 時限
区分	専門基礎科目
必修/選択	必修
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 榮 昭博	指定なし
教員	吉村 英悟	指定なし

授業の概要

身体の成長発達や生命維持に必要な各種栄養素の代謝、生体エネルギー源としての栄養素と生体機能との関連について学ぶ。さらにこれらの知識に基づき、各対象者に適した栄養アセスメント、栄養ケアの方法について習得する。

教育目標

栄養学の知識を習得し、演習を通して栄養マネジメントについて学ぶ

到達目標

栄養学の知識を習得し、食と健康の関連を理解する。さらに演習を通して対象者に適した栄養マネジメントの実践能力を取得する。

授業計画

	主題	授業内容	備考
第1回	栄養学を学ぶということ	栄養と栄養素、栄養学の歴史、人間栄養学等について学ぶ	榮担当
第2回	看護と栄養	食事における看護師の役割、経口摂取と栄養補給、食欲を低下させる原因他について学習する。	榮担当
第3回	栄養素のはたらき（1）	糖、脂質の栄養について学習する	榮担当
第4回	栄養素のはたらき（2）	たんぱく質の栄養について学習する	榮担当
第5回	栄養素のはたらき（3）	ビタミンについて学習する。	榮担当
			榮

第6回	栄養素のはたらき（４）	ミネラルについて学習する。	担当
第7回	栄養素の消化吸収	消化器・消化の過程および吸収について学ぶ	榮担当
第8回	エネルギー代謝	エネルギーの出納、呼吸商、エネルギー代謝の測定法、エネルギー消費量、安静時代謝量、基礎代謝量、活動時の代謝量について学習する	榮担当
第9回	食物繊維と水	食物繊維の機能、水の機能について学ぶ	榮担当
第10回	栄養状態の判定と評価（１）	栄養アセスメント、栄養状態の評価判定法	榮担当
第11回	栄養状態の判定と評価（１）	臨床検査データに基づく評価判定	榮担当
第12回	日本人の食事摂取基準	日本人の食事摂取基準と各食品の栄養素について学ぶ	吉村担当
第13回	ライフステージと栄養（１）	成長期の栄養管理について	吉村担当
第14回	ライフステージと栄養（２）	妊娠期・授乳期の生理的特徴と栄養管理について	吉村担当
第15回	ライフステージと栄養（３）	高齢期の生理的特徴と栄養管理について	吉村担当

教科書

『系統看護学講座 専門基礎 3 人体の構造と機能[3] 栄養学』医学書院

成績評価

60点以上で単位認定。
定期試験 100% 第3回～15回の各担当の分野について問題を作成する。

授業時間外の学習

事前の学習と授業終了後に、講義ノートを作成すること。両方併せて週4時間以上学習すること

履修のポイント

生化学を復習しておくことが望ましい

オフィス・アワー

授業開講日の 12:30～13:20 に 11号館 3階第14研究室で行う。ただし、この時間帯以外でも講義・会議・出張等の校務がない場合行うことができることがある。

講義コード	10450001
講義名	食品学
(副題)	【教職必修】
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	月曜日
代表時限	5 時限
区分	専門基礎科目
必修/選択	選択
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 荒井 勝己	指定なし

授業の概要

食品に含まれる個々の成分の特徴を把握しておくことは、食品自体を理解するためだけではなく、栄養学的あるいは生理学的な視点から食生活を考えていくためにもたいへん重要である。本講義では看護学科の学生（養護教諭資格取得を目指している学生）にとって知っておく必要のある基礎的な知識や最新の食に関わるニュースをわかりやすく解説していく。

教育目標

看護師・養護教諭として必要な“食品”や“栄養”に関する基礎知識を理解・習得することを目的とする。

到達目標

“食品とは何か”を理解するために、食品中に含まれている主要成分のそれぞれの科学的な特徴を理解し、食品成分に関する知識を習得する。食品の機能性や食品表示や規格、食品加工・貯蔵技術などについて理解する。

授業計画

	主題	授業内容
第1回	食品の種類と分類	食品とは、食品の特性、食品の分類など
第2回	食品の成分Ⅰ 水分・炭水化物	水分（食品中の水の状態、水分活性など）・炭水化物（単糖類、二糖類、多糖類、食物繊維など）
第3回	食品の成分Ⅱ 脂質	脂質の働き、分類（脂肪酸、リン脂質、コレステロール）、油脂の化学的特性など
第4回	食品の成分Ⅲ たんぱく質	アミノ酸・たんぱく質の構造・種類・働きなど
第5回	食品の成分Ⅳ ビタミン・ミネラル	ビタミン（ビタミンの分類と働きについて）・ミネラル（ミネラルの種類および生理作用について）
第6回	食品のおいしさにかかわる要因と成分	色、味、香り、テクスチャー（物性）など
第7回	食品の機能性	食品の機能、栄養強調表示と健康強調表示、保健機能食品、特別用途食品、「いわゆる健康食品」の概略
第8回	食品の表示と規格	国内規格、国際規格、品質規格制度の歴史、期限表示、成分表示など

教科書
『身近な食品学 第2版』豊沢 功・能岡 浄・阿倍史子共著（化学同人）
参考書
单元ごとにプリント教材を配布する。
成績評価
単位認定60点以上 学期末試験 100%
授業時間外の学習
单元ごとに復習問題を配付するので、必ず解いて理解を深めること。
履修のポイント
教科書の内容以外の事柄についても取り入れていくので、授業には積極的に参加すること。
オフィス・アワー
授業内容等の質問については、授業終了後、または11号館3F研究室13で随時受け付ける。

講義コード	10460001
講義名	臨床薬理学
(副題)	【教職必修】
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	火曜日
代表時限	3 時限
区分	専門基礎科目
必修/選択	必修
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 煙山 健仁	指定なし

授業の概要

疾患の治療において薬は重要な位置を占めている。薬は疾患の原因を取り除くために使用されることが多いので、疾患の原因を理解しながら、投薬される医薬品の薬理作用について学習する。講義では代表的な疾患に対する治療薬について、作用と副作用（有害反応）および禁忌事項を習得する。生理学と医薬品との薬理作用の関係を中心に講義する。

教育目標

薬物治療を行うために、必要な臨床薬理学の基礎知識を習得し、臨地実習や将来臨床の現場で役立つようにする。

到達目標

疾患に対する代表的な薬物の薬品名、その薬理作用および副作用（有害反応）等を理解できるようにする。また、病院で処方された医薬品やドラッグストア等で売られている医薬品がどのような症状に効くのかを説明できるようにする。

授業計画

	主題	授業内容
第1回	医薬品の総論	医薬品の総論（定義、エラーの予防）
第2回	薬の作用・自律神経	医薬品の作用機序、自律神経
第3回	抗炎症薬	アレルギーと炎症時に使用する医薬品
第4回	血液・輸液	貧血、輸血と輸液に使う医薬品
第5回	循環器疾患で使用する医薬品	降圧剤、狭心症・心筋梗塞心不全に使用する医薬品、利尿薬など
第6回	呼吸器疾患で使用する医薬品	気管支喘息など
第7回	消化器疾患で使用する医薬品 1	消化性潰瘍治療薬、健胃薬、制吐薬、瀉下薬
第8回	消化器疾患で使用する医薬品 2	止瀉薬、肝疾患、その他の消化器疾患に対する医薬品
第9回	内分泌・代謝疾患で使用する医薬品 1	糖尿病、痛風
第10回	内分泌・代謝疾患で使用する医薬品 2	脂質異常症、ホルモン薬

第11回	中枢神経系の異常に対して使用する医薬品 1	パーキンソン病に対する医薬品、抗不安薬、睡眠薬
第12回	中枢神経系の異常に対して使用する医薬品 2	向精神病薬、抗うつ薬、抗てんかん薬、麻酔
第13回	抗菌薬	抗生物質、抗ウィルス薬など
第14回	抗がん薬	様々な抗がん薬
第15回	特殊な薬	散瞳薬・縮瞳薬、緑内障治療薬、解毒薬、消毒薬

教科書

イラストでまなぶ薬理学、田中越郎 著、医学書院

成績評価

単位認定60点以上

授業中の小テストやレポート（20%）、期末試験（80%）で評価

授業時間外の学習

予習：教科書を読んで分からない内容や用語をノートに書きとめて下さい。

復習：講義内容が理解できたか、予習時の疑問点は解決できたかをノートにまとめて下さい。

質問：講義の疑問点が解決できない場合は、気軽に質問に来て下さい。

履修のポイント

自分だけの学習では正しい知識の理解が難しいので、講義に出席することが大切です。
講義では話を聞くことに集中して下さい。

オフィス・アワー

研究室在室中は、いつでも対応します。

講義コード	10470001
講義名	臨床心理学
(副題)	
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	木曜日
代表時限	3 時限
区分	専門基礎科目
必修/選択	必修
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 亀岡 聖朗	指定なし

授業の概要

臨床心理学は、心理学で蓄積された理論や技法を用いた応用的・実践的な学問領域である。人のこころの安定をはかるための臨床心理援助活動の実際について理解を深めることが求められるが、その基本はこころの疾患の特徴を理解し、その理解のもとに対象者を看る視点を養うことにある。本講義では、こころの疾患に関すること、発達上の障がいに関すること、心理アセスメントの実際、カウンセリングの理論、という4つのテーマに沿って、臨床心理学に関連する内容を取り上げる。授業は講義形式だが、テーマによってVTR視聴や実習を取り入れることもある。

教育目標

心理臨床の現場で用いられる考え方や技法は、看護の場面でも応用可能なものがある。一方で、通常の心理臨床で用いられる対象者に対するアプローチが、看護場面では適用しにくいこともある。心理臨床の基本的な考え方や技法の学習を通して、それらが看護場面でどのように生かすことができるのかについての視点を獲得する。

到達目標

1. 心理的な疾患の種類、特徴について理解する。
2. 臨床心理学で用いられる専門用語について理解する。
3. こころの疾患、疾患を抱える患者・家族の状態を理解する視点を養う。
4. 対人場面におけるコミュニケーションの特徴について理解する。

授業計画

	主題	授業内容	備考
第1回	ガイダンス 臨床心理学 で扱う 問題	授業の進め方、成績評価のしかたなどについて 臨床心理学・心理臨床学・カウンセリング・心理 療法など類似する概念の整理、臨床心理学の起 り、日本の臨床心理学	
第2回	こころの疾 患の理解①	こころの疾患を概観する① ～こころの疾患の基本的な見方・考え方、病因論 と症候論	1 年次「心理 学」 “臨床の心理 学”参照
第3回	こころの疾 患の理解②	こころの疾患を概観する② ～精神病圏に属するもの（統合失調症と気分障 がいの特徴と対処）	1 年次「心理 学」 “臨床の心理

			学”参照
第4回	こころの疾患の理解③	こころの疾患を概観する③ ～神経症圏に属するもの（不安障がい、その特徴と対処）	1年次「心理学」 “臨床の心理学”参照
第5回	こころの疾患の理解④	こころの疾患を概観する④ ～境界例圏に属するもの（パーソナリティ障がい、その特徴と対処）	1年次「心理学」 “個人差の心理学”参照 ※小テスト①実施予定
第6回	発達上の障がいの理解①	発達障がいの基本的な理解① ～自閉症スペクトラム障がいを中心にして	
第7回	発達上の障がいの理解②	発達障がいの基本的な理解② ～注意欠如・多動性障がい（ADHD）、学習障がい	
第8回	発達上の障がいの理解③	その他の発達上の障がいの基本的な理解 摂食障がいの特徴と対処、依存症（アルコール、薬物等）や虐待の特徴と対処	※小テスト②実施予定
第9回	心理アセスメントの実際①	病院で心理アセスメントが生じる場合、精神的な疾患による「入院」の取り扱い	
第10回	心理アセスメントの実際②	心理検査の種類、心理検査の実践	1年次「心理学」 “個人差の心理学”参照 ※実習を含む予定
第11回	心理アセスメントの実際③	心理検査を解釈する際の背景理論（発達、パーソナリティ）	1年次「心理学」“発達の心理学”“個人差の心理学” 1年次「人間発達学」参照 ※小テスト③実施予定
第12回	カウンセリングの理論①	カウンセリングの起こりと心理療法の起こり（カウンセリングと心理療法の相違）、看護場面でのカウンセリングの実際（その過程と心構え）	1年次「心理学」 “臨床の心理学”参照 ※実習を含む予定
第13回	カウンセリングの理論②	催眠と精神分析療法	1年次「心理学」 “臨床の心理学”参照
第14回	カウンセリングの理論③	来談者中心療法	1年次「心理学」 “臨床の心理学”参照
	カウンセリ		1年次「心理学」

第15回	ングの理論 ④ まとめ	認知行動療法	“臨床の心理学”参照 ※小テスト④実施予定
教科書			
特に指定しない。			
参考書			
適宜紹介する。			
成績評価			
単位認定60点以上。筆記試験70%、小テスト（レポート・課題を含める）30%			
授業時間外の学習			
各回の主題に該当する1年次科目の「心理学」や「人間発達学」の講義資料の見直しを予習として勧める。本講義の配布資料・ノートまとめと小テストの見直しを復習として勧める。			
履修のポイント			
授業への積極的な取り組みを期待します。			
オフィス・アワー			
毎週水曜もしくは木曜の昼休み（12：30～13：20）、11号館第8研究室。 あるいは、講義終了前後などに、適宜受け付けます。			

講義コード	10490001
講義名	疾病の回復促進Ⅰ
(副題)	【教職必修】
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	火曜日
代表時限	4時限
区分	
必修/選択	
学年	

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 今関 信夫	指定なし
教員	岡田 克之	指定なし

授業の概要

疾病の回復促進は、全ての疾患の原因から症状検査、治療までを扱う学問分野で、医療・看護の根幹をなすものである。疾病の成り立ちでは病気を数種類に大別して学ぶのに対し、疾病の回復促進では各器官のそれぞれの疾患についてその原因、症状、経過、検査、治療を学ぶもので、看護の理解を深める上でも不可欠な学問である。

教育目標

代表的な頻度の高い疾患の原因、症状などを理解し、看護に展開できる様な理解をさせる。

到達目標

各種疾患の原因から、必要な検査法、代表的な症状そして治療方法などについて理解することが出来て、それぞれの疾患ごとに看護の視点を取り入れる事ができる。

授業計画

	主題	授業内容
第1回	内分泌・代謝異常1	糖尿病
第2回	内分泌・代謝異常2	脂質異常症、痛風、骨粗鬆症
第3回	生殖器疾患	女性生殖器疾患（月経異常、感染症、腫瘍） 男性生殖器疾患
第4回	脳・神経疾患、筋疾患1	脳血管障害、髄膜・髄液の障害
第5回	脳・神経疾患、筋疾患2	睡眠障害、意識障害、認知症
第6回	脳・神経疾患、筋疾患3	運動麻痺、筋疾患
第7回	皮膚疾患1	アレルギー性皮膚炎、炎症性皮膚炎、水胞症など
第8回	皮膚疾患2	皮膚腫瘍（皮膚線維腫、メラノーマー、扁平上皮癌、皮膚T細胞リンパ腫など）

教科書

系統看護学講座、病態生理学、疾病の成り立ちと回復の促進2 医学書院

参考書

レビューブック、岡庭 豊編集、メディクメディア発行

成績評価

単位認定 60 点以上

授業内確認テスト40%、学期末試験60%を総合して評価

授業時間外の学習

授業時間だけで、理解するのは難しいので、予習復習が大切です。特に、毎回状業の内容を理解できるまで復習することで、次の授業内容のスムーズな理解につながります。

予習：教科書を読み、理解できない用語を調べる。

復習：24時間以内にノートでの復習をしてください。

履修のポイント

自分で教科書を読むだけでは、なかなか正しい理解が得られないので、毎回授業に出席することが大切です。

- ・多くの医学・医療用語（漢字の読みと意味、カタカナ）の意味や使い方を理解する。
- ・教員の板書・説明のストーリーをノートに残す。

オフィス・アワー

月曜、火曜の昼休み時間。 11号館 3 階第7研究室にて対応します。

講義コード	10500001
講義名	疾病の回復促進Ⅱ
(副題)	
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	2時限
区分	専門基礎科目
必修/選択	必修
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 今関 信夫	指定なし

授業の概要

疾病の回復促進は、全ての疾患の原因から症状検査、治療までを扱う学問分野で、医療・看護の根幹をなすものである。疾病の成り立ちでは病気を数種類に大別して学ぶのに対し、疾病の回復促進では各器官のそれぞれの疾患についてその原因、症状、経過、検査、治療を学ぶもので、看護の理解を深める上でも不可欠な学問である。

教育目標

代表的な頻度の高い疾患の原因、症状などを理解し、看護に展開できる様な理解をさせる。

到達目標

各種疾患の原因から、必要な検査法、代表的な症状そして治療方法などについて理解することが出来て、それぞれの疾患ごとに看護の視点を取り入れる事ができる。

授業計画

	主題	授業内容
第1回	血液のはたらきとその異常-1	貧血、白血病・悪性リンパ腫、GVHD
第2回	血液のはたらきとその異常-2	多発性骨髄腫、血小板減少性紫斑病、DIC
第3回	循環のしくみとその異常-1	狭心症、心筋梗塞、不整脈、先天性心疾患
第4回	循環のしくみとその異常-2	心弁膜症、心不全、高血圧症
第5回	循環のしくみとその異常-3	動脈硬化症（大動脈解離、大動脈瘤、閉塞性動脈硬化症）、肺塞栓症
第6回	呼吸のしくみとその異常1	気管支喘息、COPD（肺気腫、慢性気管支炎）
第7回	呼吸のしくみとその異常2	肺炎、肺結核、気胸、肺腫瘍
第8回	消化・吸収のしくみとその異常-1	嚥下障害、逆流性食道炎、食道静脈瘤、胃・十二指腸潰瘍、クローン病、潰瘍性大腸炎

第9回	消化・吸収のしくみとその異常-2	腸閉塞、過敏性腸症候群、イレウス、肝炎、肝硬変
第10回	消化・吸収のしくみとその異常-3	胆石症、膵炎、消化器の腫瘍
第11回	腎・泌尿器のはたらきとその異常1	糸球体の疾患（原発性と続発性）
第12回	腎・泌尿器のはたらきとその異常2	急性腎不全と慢性腎臓病（慢性腎不全）、排尿障害
第13回	内分泌・代謝のしくみとその異常-1	クッシング症候群、原発性アルドステロン症、褐色細胞腫、アジソン病、尿崩症、副甲状腺機能亢進症
第14回	内分泌・代謝のしくみとその異常-2	高血圧、糖尿病
第15回	内分泌・代謝のしくみとその異常-3	脂質異常症、痛風、肥満、メタボリック症候群

教科書

系統看護学講座、病態生理学、疾病の成り立ちと回復の促進Ⅱ。医学書院

参考書

レビューブック、岡庭 豊編集、メディクメディア発行

成績評価

単位認定 60 点以上

授業内確認テスト40%、学期末試験60%を総合して評価

授業時間外の学習

授業時間だけで、理解するのは難しいので、予習復習が大切です。特に、毎回授業の内容を理解できるまで復習することで、次の授業内容のスムーズな理解につながります。

予習：教科書を読み、理解できない用語を調べる。

復習：24時間以内にノートでの復習をしてください。

履修のポイント

自分で教科書を読むだけでは、なかなか正しい理解が得られないので、毎回授業に出席することが大切です。

- ・多くの医学・医療用語（漢字の読みと意味、カタカナ）の意味や使い方を理解する。
- ・教員の板書・説明のストーリーをノートに残す。（ノートコーネル式ノート術をすすめる。）

オフィス・アワー

随時可能。 11号館 3 階第7研究室にて対応します。

講義コード	10560001
講義名	社会保障論（2年生）
(副題)	
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	木曜日
代表時限	1 時限
区分	専門基礎科目
必修/選択	必修
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 松原 直樹	指定なし

授業の概要

看護学科教育課程において「健康支援と社会保障制度」の中でも「社会保障の理念と基本的な制度の考え方」を理解するのがこのコースである。ここでは、疾病・老齢・要介護・失業などの危機に対応する医療保険・年金保険・介護保険・雇用保険などの公的保険制度と理念、さらには生活保護、障害者福祉、児童福祉、老人福祉などの社会福祉諸法の制度と理念が、福祉・医療制度の中で、また私たちの生活の中でどのような機能を果たしているかを考えていく。このコースでは、医療保健職として不可欠な知識を得るだけでなく、生活者として知っておくべきことからについても学習していく。

教育目標

医療保健職として必要な社会保障の理念と社会保障の基本的制度の考え方等を学修・理解させる。

到達目標

現在の社会保障制度の枠組み、現実の社会保障に関するしくみを理解する。社会保障制度に対する、医療保健職としての役割・責務・倫理等を理解する。

授業計画

	主題	授業内容
第1回	社会保障制度と社会福祉 社会保障・社会福祉の動向	社会保障の概念・目的について理解した後、社会保障の概要・法制度について学習する。さらに、現代の社会保障を取り巻く環境の変化と、それに対する社会福祉政策の近年の動向と社会福祉の現状について学習する。
第2回	医療保険(1)	わが国の医療制度の沿革・特徴について学習し、また医療保険の種類を正しく理解する。
第3回	医療保険(2)	それぞれの医療保険の特徴・内容を知り、また高齢者医療制度について学習する。
第4回	介護保険(1)	介護保険制度が創設された背景と現在までの沿革を学習する。また、介護保険制度の概要やしくみについて、学習する。

第5回	介護保 障(2)	具体的な介護保険のしくみについて学習する。また、近年の介護保険改 革とその内容について、学習する。
第6回	所得保 障	所得保障制度の概要について学習する。具体的な所得保障制度の中 心である年金保険制度について沿革・具体的内容及び課題を学習した 後、各種社会手当、労働保険制度のしくみ・内容について概観する。
第7回	公的扶 助	社会保障制度における公的扶助の位置づけを理解し、生活保護制度を中 心にその概要と具体的内容を学習する。公的扶助の現代の課題と生活保 護以外の低所得層対策について学習する。
第8回	社会福 祉の分 野と サービ ス	対象者別の社会福祉サービスについて学習する。高齢者・障害者・児童 家庭に対する福祉の概要と具体的内容について理解し、またそれらの福 祉分野において、近年特に問題となっている課題について学習する。

教科書

福田素生・他著『<<系統看護学講座 専門基礎分野>> 健康支援と社会保障制度③社会保障・社会福祉』（医学書院）

参考書

厚生労働省編『厚生労働白書 平成28年度版』（ぎょうせい）

成績評価

平常点(授業時間内のチェックテスト等)20%、定期テスト80%を総合して評価。総合点60点以上で単位認定する。

授業時間外の学習

次回の授業について、教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業終了後は、チェックテストの解答をよく読み、間違った問題に関する該当部分を教科書・ハンドアウト等で復習しておく。

履修のポイント

社会保障・社会福祉関連の資料を多数配布するので、整理しておくこと。

オフィス・アワー

月・火・木曜日，11時～15時（授業時間以外），11号館3階第11研究室

講義コード	10560002
講義名	社会保障論（4年生）
(副題)	
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	火曜日
代表時限	1 時限
区分	専門基礎科目
必修/選択	必修
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 松原 直樹	指定なし

授業の概要

看護学科教育課程において「健康支援と社会保障制度」の中でも「社会保障の理念と基本的な制度の考え方」を理解するのがこのコースである。ここでは、疾病・老齢・要介護・失業などの危機に対応する医療保険・年金保険・介護保険・雇用保険などの公的保険制度と理念、さらには生活保護、障害者福祉、児童福祉、老人福祉などの社会福祉諸法の制度と理念が、福祉・医療制度の中で、また私たちの生活の中でどのような機能を果たしているかを考えていく。このコースでは、医療保健職として不可欠な知識を得るだけでなく、生活者として知っておくべきことがらについても学習していく。

教育目標

医療保健職として必要な社会保障の理念と社会保障の基本的制度の考え方等を学修・理解させる。

到達目標

現在の社会保障制度の枠組み、現実の社会保障に関するしくみを理解する。社会保障制度に対する、医療保健職としての役割・責務・倫理等を理解する。

授業計画

	主題	授業内容
第1回	社会保障制度と社会福祉 社会保障・社会福祉の動向	社会保障の概念・目的について理解した後、社会保障の概要・法制度について学習する。さらに、現代の社会保障を取り巻く環境の変化と、それに対する社会福祉政策の近年の動向と社会福祉の現状について学習する。
第2回	医療保険(1)	わが国の医療制度の沿革・特徴について学習し、また医療保険の種類を正しく理解する。
第3回	医療保険(2)	それぞれの医療保険の特徴・内容を知り、また高齢者医療制度について学習する。
第4回	介護保険(1)	介護保険制度が創設された背景と現在までの沿革を学習する。また、介護保険制度の概要やしくみについて、学習する。

第5回	介護保 障(2)	具体的な介護保険のしくみについて学習する。また、近年の介護保険改 革とその内容について、学習する。
第6回	所得保 障	所得保障制度の概要について学習する。具体的な所得保障制度の中 心である年金保険制度について沿革・具体的内容及び課題を学習した 後、各種社会手当、労働保険制度のしくみ・内容について概観する。
第7回	公的扶 助	社会保障制度における公的扶助の位置づけを理解し、生活保護制度を中 心にその概要と具体的内容を学習する。公的扶助の現代の課題と生活保 護以外の低所得層対策について学習する。
第8回	社会福 祉の分 野と サービ ス	対象者別の社会福祉サービスについて学習する。高齢者・障害者・児童 家庭に対する福祉の概要と具体的内容について理解し、またそれらの福 祉分野において、近年特に問題となっている課題について学習する。

教科書

福田素生・他著『<<系統看護学講座 専門基礎分野>> 健康支援と社会保障制度③社会保障・社会
福祉』（医学書院）

参考書

厚生労働省編『厚生労働白書 平成28年度版』（ぎょうせい）

成績評価

平常点(授業時間内の課題・チェックテスト等)20%、定期テスト80%を総合して評価。総合
点60点以上で単位認定する。

授業時間外の学習

次回の授業について、教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業終了後は、チェックテストの解
答をよく読み、間違った問題に関する該当部分を教科書・ハンドアウト等で復習しておく。

履修のポイント

社会保障・社会福祉関連の資料を多数配布するので、整理しておくこと。

オフィス・アワー

月・火・木曜日，11時～15時（授業時間以外），11号館3階第11研究室

講義コード	10570001
講義名	医療関係法規
(副題)	
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	木曜日
代表時限	2 時限
区分	専門基礎科目
必修/選択	必修
学年	4学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 松原 直樹	指定なし

授業の概要

本講座は、「健康支援と社会保障制度」の一分野として位置づけられる「関係法規」に関する講座である。医療に関する法規としては、すでにさまざまなものが存在しているが、毎年さらに多くの法規が誕生し、また改廃されている。医療従事者にとっては、それらの法規に従い、医療を提供する義務を有するものであるから、関係法規への知識は、医療従事者にとって、不可欠な要素である。

本講座では、医療、保健衛生、社会福祉などに関連する具体的な法規について学習するだけでなく、患者の人権や医療過誤等に関する現代的問題についても、学習していく予定である。

教育目標

医療を提供する基本理念、医療提供体制の基礎について、実体的に理解できるように、体系的に教育する。

到達目標

医療従事者として知っておくべき基本的ルールや、保健医療の各分野の制度について、基本原則を理解した上で、それと関連づけて具体的なルールを理解する。

授業計画

	主題	授業内容
第1回	法規の概念、厚生行政のしくみ	授業の進め方、看護師国家試験におけるこの教科目の位置づけについて説明した後、法規とその種類について、法学の基礎的知識を学習する。そして、衛生法規とは具体的に何を指すのか、それに基づく厚生行政はどのように実施されているかを学習する。
第2回	医事法規(1)	医療を行う人に関する法規のうち、看護業務に関わりの深い医療従事者に関する法規について、その目的と主な規定内容について、学習する。具体的には、保健師助産師看護師法、医師法、看護師人材確保法等を学習する。
第3回	医事法規(2)	主に医療を行う場・環境に関して規定している医療法について、その目的、具体的内容を学習する。特に、医療の目的、医療者の責務、医療機関、医療計画等、重要なことから中心に学習する。また、医療に関して規定しているその他の法規(臓器移植法、他)についても学習する。
		薬務法規と薬剤等を扱う人に関する法を学習する。医薬品等に関する一般

第4回	薬事法規	法である薬事法について学習し、さらに薬剤を主に扱う医療専門職に関する薬剤師法を学習する。また、さらに取り扱いに注意すべき薬剤・毒物等に関する法令を取り上げ、医療従事者の役割と規制内容について学習する。
第5回	保健衛生法規(1)	保健に関する全般的な行政施策・担当組織等を規定している地域保健法と健康増進法について、その目的・主な内容等を学習した後、個別分野の保健方針・行政施策等を規定している各種保健法のうち、精神保健福祉法について学習する。
第6回	保健衛生法規(2)	保健に関して個別分野ごとに保健方針・行政施策等を規定している各種保健法のうち、母子保健法・母体保護法、学校保健安全法について、その目的、主な行政施策の内容等を学習する。さらに具体的な保健対策法のうち、近年の大きな課税となっているがん対策基本法、自殺対策基本法等について、学習する。
第7回	保健衛生法規(3)	保健衛生に関する法の中でも、感染症に関する法について学習する。具体的には、感染症予防法・予防接種法・検疫法について、その目的・沿革・とりうる行政施策等について学習する。また、食品に関する法のうち、代表的な食品安全基本法と食品衛生法について、概観する。
第8回	環境衛生法規、環境保全法規	日常生活を取り巻く環境に関する法令について、特に水とゴミに関する法令を中心に学習する。さらに環境保全に関する法令について、環境基本法をはじめ、個別の公害防止法、さらには環境に関する主な条約についても学習する。
第9回	労働関係法規	労働者に関する法規である労働法のうち、働く人たちの健康を守る立場である医療従事者として知っておく必要のある法令の内容について学習する。労働基準法、労働安全衛生法に加えて、特に働く女性の保護を規定している男女雇用機会均等法、育児休業・介護休業法について学習する。
第10回	社会保険法(1)	前期の「社会保障論」の授業で学習した「医療保障」「所得保障」に係る社会保険法について、再度重要な部分を確認し、また補足説明をする。医療保険に関するいくつかの法規と年金に関する法規等を中心に学習する。
第11回	社会保険法(2)	前期の「社会保障論」の授業で学習した「介護保障」に係る社会保険法について、再度重要な部分を確認し、また補足説明をする。介護保険に関する規定を中心に学習する。
第12回	福祉法	前期の「社会保障論」の授業で学習した「公的扶助」「社会福祉の分野とサービス」について、再度重要な部分を確認し、また補足説明をする。分野ごとに学習したことから法規別に学習していく。
第13回	患者・高齢者の人権保障 社会基盤整備等	患者や高齢者の権利を守るための各種制度について学習する。生命や健康に関する権利の基礎となる自己決定権を学習した後、権利擁護の具体的施策である成年後見制度や地域福祉権利擁護事業、各虐待防止法等について学習する。また、少子・高齢化対策に関する法、情報保護に関する法についても学習する。
第14回	医療保健福祉行政課題への対策	近年の医療保健福祉行政に関する課題への行政対応について、学習する。具体的には、難病対策、少子化対策、高齢化対策、生活習慣病対策のための具体的な施策・計画について学習する。
第15回	全体のまとめ	これまで学習したことからについて、課題演習を行って、理解度を確認し、不足している部分について、補足説明をする。

教科書

森山幹夫『《系統看護学講座 専門基礎分野》健康支援と社会保障制度④ 看護関係法令』(医学書院)

参考書
『医療六法〈平成29年版〉』（中央法規出版） 手嶋豊・他、編『別冊ジュリスト・医事法判例百選（第2版）』（有斐閣）
成績評価
平常点(授業時間内の課題・チェックテスト等)20%、定期テスト80%を総合して評価。総合点60点以上で単位認定する。
授業時間外の学習
次回の授業について、教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業終了後は、チェックテストの解答をよく読み、間違った問題に関する該当部分を教科書・ハンドアウト等で復習しておく。
履修のポイント
医療行政に関する法令、社会保障・社会福祉関連の資料を多数配布するので、整理しておくこと。
オフィス・アワー
月・火・木曜日， 11時～15時（授業時間以外）， 11号館 3 階第11研究室

講義コード	10580001
講義名	看護学原論Ⅰ
(副題)	【教職必修】
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	金曜日
代表時限	1 時限
区分	専門科目
必修/選択	必修
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 三木 園生	指定なし
教員	齊藤 敦子	指定なし

授業の概要

看護における対象理解の中で個別的な価値観、信条や生活背景をもつ人について理解する。また、看護の対象としての人間の健康に関する定義を学ぶことで、実際の看護についての理解を深める。

教育目標

看護の歴史的発展や看護の基本概念である人間・健康・社会・看護について学習し、看護とは何か、看護学とは何か、について自己の考えを深められるようにする。

到達目標

1. 看護の歴史的発展を通して、看護概念の変遷を理解し、知識として修得することができる
2. 看護職の目標・対象・役割と機能について学び、今後の学習に関連付けることができる
3. 看護の対象である人間・健康のとらえ方について理解し、看護について考えることができる

授業計画

	主題	授業内容
第1回	看護とはなにか	科目ガイダンス、看護とは、看護学とは
第2回	看護の歴史的変遷	看護の起源、職業としての看護の誕生からナイチンゲールまで
第3回	現代における看護	近代アメリカにおける看護の発展と日本の看護の発展
第4回	看護の対象、人間のとらえ方	人間のさまざまなとらえ方
第5回	看護における家族	人間にとっての家族の意味
第6回	健康と病気	健康のとらえ方の変遷と健康の指標
第7回	看護の概念	看護の諸定義
第8回	看護活動の場と看護実践	①保健医療システム、②保健医療福祉サービスの場合、③医療施設における看護、④医療施設以外の看護の場と役割

教科書
ライダー島崎玲子著『看護学概論 看護追求へのアプローチ 第3版』医歯薬出版 F.ナイチンゲール著、湯槇ます・薄井坦子・小玉香津子他訳『看護覚え書 改訂第7版』現代社 V.ヘンダーソン著、湯槇ます・小玉香津子訳『看護の基本となるもの』日本看護協会出版会
参考書
授業時に提示します
成績評価
単位認定は60点以上とする
授業時間外の学習
自分の周囲の先輩や友人と自分はなぜ看護職を選んだのか話し合い、「看護」について視野を広げ、4年後の自分を想像してみましょう
履修のポイント
看護とは何かを先駆者の活動の歴史や関連学問から考え学ぶ授業です
オフィス・アワー
在室中で時間があれば対応します。10号館2階 研究室7

講義コード	10600001
講義名	看護技術学概論
(副題)	
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	火曜日
代表時限	4 時限
区分	専門科目
必修/選択	必修
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 三木 園生	指定なし
教員	伊藤 美鈴	指定なし

授業の概要

看護技術という概念や看護技術を構成する要素は何か、その対象を学習し、看護技術の修得が、より効果的な看護を展開するためにいかに重要であるか理解する。また、看護技術の提供に共通する安全・安楽の技術、対象を自立に向けて支援する技術など看護技術学Ⅰ～Ⅳの特徴をオムニバス方式で講義・演習を通して学習する。

教育目標

1. 看護技術の概念、看護技術を構成する要素および、その対象を理解する
2. 看護技術の提供に共通する、安全・安楽・自立に向けた教育的支援について理解する

到達目標

1. 看護技術とはなにか、構成要素・対象・用語について説明する
2. 看護技術における安楽の意義、安楽確保の技術について説明する
3. 看護技術における安全の意義、安全管理の技術について説明する
4. 看護技術における自立に向けた教育的支援の意義、教育支援技術について説明する
5. 看護過程の基本について説明する

授業計画

	主題	授業内容
第1回	看護技術学概説	看護技術とはなにか？看護技術はどのように構成されているか？看護技術の対象とは？看護技術の用語について
第2回	安楽確保の技術	安楽の意義、安楽な体位の基本
第3回	安楽確保の技術	ボディメカニクスの基本
第4回	安全管理の技術	安全の意義、療養環境における危険防止
第5回	安全管理の技術	感染予防の技術、日常的手洗い
第6回	教育支援技術	自立に向けた教育的支援の意義

第7回	看護過程の基本	クリティカルシンキングとはなにか？
第8回	看護過程の基本	看護過程とはなにか？看護過程の5つの段階について

教科書

深井喜代子編『新体系 看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ』メヂカルフレンド社

参考書

医療情報科学研究所編『看護技術がみえる vol.1 基礎看護技術』メディックメディア

医療情報科学研究所編『看護技術がみえる vol.2 臨床看護技術』メディックメディア

成績評価

筆記試験で評価する。総合得点が60点以上で単位認定とする

授業時間外の学習

次回の授業範囲について教科書を事前に読んでおくこと

履修のポイント

主体的に学習することを望む

オフィス・アワー

在室中であればいつでも対応します。10号館2階 研究室7

講義コード	10610001
講義名	看護技術学Ⅰ（Aクラス）
(副題)	【教職必修】
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	木曜日
代表時限	3 時限
区分	専門科目
必修/選択	必修
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 三木 園生	指定なし
教員	伊藤 美鈴	指定なし
教員	小池 正美	指定なし

授業の概要

様々な健康レベルや環境下で生活している人々の生活環境を整え、自然治癒力を高めるための支援技術を学習する。その支援技術は、環境を調整する、清潔を保持する、安楽な体位を保持する、栄養状態を保つ、排泄の支援と調整、衣類の選択と更衣など、対象の生活に必要な支援技術である。その技術は対象の生活機能を維持・促進し自立に向けて支援するための技術で、科学的根拠をもとに学習する。

教育目標

1. 自力で日常生活行動が行えない患者に、安全・安楽な日常生活行動の援助を提供する意義を理解する
2. 自力で日常生活行動が行えない患者に、安全・安楽な日常生活行動の援助を提供するための技術を実施する
3. 日常生活行動の援助の技術修得に向けた自己の課題を明確にする

到達目標

1. 自力で日常生活行動が行えない患者に、安全・安楽な日常生活行動の援助を提供するための技術を行う方法を根拠とともに説明する
2. 自力で日常生活行動が行えない患者に、自立に向けた教育的支援を考慮した日常生活行動の援助を提供するための技術を行う方法を説明する
3. 自力で日常生活行動が行えない患者に、個別性を考慮した日常生活行動の援助を提供するための技術を行う方法を説明する
4. 決められた手順に則って日常生活行動の援助技術を実施する
5. 日常生活行動の援助の技術修得に向けた自己の課題を明らかにする

授業計画

	主題	授業内容	備考
第1回	環境を整える技術	入院患者を取り巻く生活環境 病床環境の調整に必要な基礎知識 環境調整における看護の役割と看護技術 実習室の使用方法について	講義
		入院患者を取り巻く生活環境	

第2回	環境を整える技術	病床環境の調整に必要な基礎知識 環境調整における看護の役割と看護技術 実習室の使用方法について	講義
第3回	ベッドメイキング	ベッドメイキング (課題レポート)	演習
第4回	ベッドメイキング	ベッドメイキング (課題レポート)	演習
第5回	活動・休息の援助技術	運動の意義と援助 休息の意義と援助 睡眠とその援助 移動の援助	講義
第6回	活動・休息の援助技術	運動の意義と援助 休息の意義と援助 睡眠とその援助 移動の援助	講義
第7回	体位変換 移動	体位変換 車椅子・ストレッチャーでの移動 (課題レポート)	演習
第8回	体位変換 移動	体位変換 車椅子・ストレッチャーでの移動 (課題レポート)	演習
第9回	環境整備 臥床患者のシーツ交換	病床の環境整備 臥床患者のシーツ交換 (課題レポート)	演習
第10回	環境整備 臥床患者のシーツ交換	病床の環境整備 臥床患者のシーツ交換 (課題レポート)	演習
第11回	衣生活の援助技術	衣生活の意義と援助方法	講義
第12回	寝衣交換	寝衣交換 (課題レポート)	演習
第13回	清潔の援助技術	皮膚の清潔・粘膜の清潔 清潔の意義と援助方法	講義
第14回	清潔の援助技術	皮膚の清潔・粘膜の清潔 清潔の意義と援助方法	講義
第15回	全身清拭	全身清拭 (課題レポート)	演習
第16回	全身清拭	全身清拭 (課題レポート)	演習
第17回	洗髪	洗髪 (課題レポート)	演習
第18回	洗髪	洗髪 (課題レポート)	演習
第19回	食生活の援助技術	食事の意義 食生活の基本的援助	講義
第20回	食事介助	食事の援助方法 (課題レポート)	演習
第21回	排泄の援助技術	人間にとっての排泄の意義 排泄のメカニズム 基本的援助	講義
22		人間にとっての排泄の意義	

第 回	排泄の援助技術	排泄のメカニズム 基本的援助	講義
第23回	排泄の援助 陰部洗浄	便器・尿器の当て方 陰部洗浄 (課題レポート)	演習
第24回	排泄の援助 陰部洗浄	便器・尿器の当て方 陰部洗浄 (課題レポート)	演習
第25回	感染予防の技術	感染予防とは 感染予防の意義・重要性 スタンダードプリコーション	講義
第26回	感染予防の技術	感染予防とは 感染予防の意義・重要性 スタンダードプリコーション	講義
第27回	感染予防の技術	日常的手洗い 無菌操作 ガウンテクニック 滅菌手袋の着脱 (課題レポート)	演習
第28回	感染予防の技術	日常的手洗い 無菌操作 ガウンテクニック 滅菌手袋の着脱 (課題レポート)	演習
第29回	実技試験	技術テスト	試験
第30回	実技試験	技術テスト	試験

教科書

新体系 看護学全書 専門分野Ⅰ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ 深井喜代子編集 メヂカルフレンド社

新体系 看護学全書 専門分野Ⅰ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ 深井喜代子編集 メヂカルフレンド社

参考書

看護技術がみえる vol.1 基礎看護技術 医療情報科学研究所編集 メディックメディア

看護技術がみえる vol.2 臨床看護技術 医療情報科学研究所編集 メディックメディア

成績評価

単位認定60点以上。筆記試験60%、実技試験30%、課題レポート10%を総合して評価。

授業時間外の学習

次回の授業範囲について教科書を事前に読んでおくこと
演習終了時に配布する課題レポートに記述すること
実習室で技術の練習をすること

履修のポイント

主体的・積極的な学習への取り組みがのぞまれる

オフィス・アワー

在室時、随時対応します。10号館2階 研究室7

講義コード	10610002
講義名	看護技術学Ⅰ（Bクラス）
(副題)	【教職必修】
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	3 時限
区分	専門科目
必修/選択	必修
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 三木 園生	指定なし
教員	伊藤 美鈴	指定なし
教員	小池 正美	指定なし

授業の概要

様々な健康レベルや環境下で生活している人々の生活環境を整え、自然治癒力を高めるための支援技術を学習する。その支援技術は、環境を調整する、清潔を保持する、安楽な体位を保持する、栄養状態を保つ、排泄の支援と調整、衣類の選択と更衣など、対象の生活に必要な支援技術である。その技術は対象の生活機能を維持・促進し自立に向けて支援するための技術で、科学的根拠をもとに学習する。

教育目標

1. 自力で日常生活行動が行えない患者に、安全・安楽な日常生活行動の援助を提供する意義を理解する
2. 自力で日常生活行動が行えない患者に、安全・安楽な日常生活行動の援助を提供するための技術を実施する
3. 日常生活行動の援助の技術修得に向けた自己の課題を明確にする

到達目標

1. 自力で日常生活行動が行えない患者に、安全・安楽な日常生活行動の援助を提供するための技術を行う方法を根拠とともに説明する
2. 自力で日常生活行動が行えない患者に、自立に向けた教育的支援を考慮した日常生活行動の援助を提供するための技術を行う方法を説明する
3. 自力で日常生活行動が行えない患者に、個別性を考慮した日常生活行動の援助を提供するための技術を行う方法を説明する
4. 決められた手順に則って日常生活行動の援助技術を実施する
5. 日常生活行動の援助の技術修得に向けた自己の課題を明らかにする

授業計画

	主題	授業内容	備考
第1回	環境を整える技術	入院患者を取り巻く生活環境 病床環境の調整に必要な基礎知識 環境調整における看護の役割と看護技術 実習室の使用方法について	講義
		入院患者を取り巻く生活環境	

第2回	環境を整える技術	病床環境の調整に必要な基礎知識 環境調整における看護の役割と看護技術 実習室的使用方法について	講義
第3回	ベッドメイキング	ベッドメイキング (課題レポート)	演習
第4回	ベッドメイキング	ベッドメイキング (課題レポート)	演習
第5回	活動・休息の援助技術	運動の意義と援助 休息の意義と援助 睡眠とその援助 移動の援助	講義
第6回	活動・休息の援助技術	運動の意義と援助 休息の意義と援助 睡眠とその援助 移動の援助	講義
第7回	体位変換 移動	体位変換 車椅子・ストレッチャーでの移動 (課題レポート)	演習
第8回	体位変換 移動	体位変換 車椅子・ストレッチャーでの移動 (課題レポート)	演習
第9回	環境整備 臥床患者のシーツ交換	病床の環境整備 臥床患者のシーツ交換 (課題レポート)	演習
第10回	環境整備 臥床患者のシーツ交換	病床の環境整備 臥床患者のシーツ交換 (課題レポート)	演習
第11回	衣生活の援助技術	衣生活の意義と援助方法	講義
第12回	寝衣交換	寝衣交換 (課題レポート)	演習
第13回	清潔の援助技術	皮膚の清潔・粘膜の清潔 清潔の意義と援助方法	講義
第14回	清潔の援助技術	皮膚の清潔・粘膜の清潔 清潔の意義と援助方法	講義
第15回	全身清拭	全身清拭 (課題レポート)	演習
第16回	全身清拭	全身清拭 (課題レポート)	演習
第17回	洗髪	洗髪 (課題レポート)	演習
第18回	洗髪	洗髪 (課題レポート)	演習
第19回	食生活の援助技術	食事の意義 食生活の基本的援助	講義
第20回	食事介助	食事の援助方法 (課題レポート)	演習
第21回	排泄の援助技術	人間にとっての排泄の意義 排泄のメカニズム 基本的援助	講義
22		人間にとっての排泄の意義	

第 回	排泄の援助技術	排泄のメカニズム 基本的援助	講義
第23回	排泄の援助 陰部洗浄	便器・尿器の当て方 陰部洗浄 (課題レポート)	演習
第24回	排泄の援助 陰部洗浄	便器・尿器の当て方 陰部洗浄 (課題レポート)	演習
第25回	感染予防の技術	感染予防とは 感染予防の意義・重要性 スタンダードプリコーション	講義
第26回	感染予防の技術	感染予防とは 感染予防の意義・重要性 スタンダードプリコーション	講義
第27回	感染予防の技術	日常的手洗い 無菌操作 ガウンテクニック 滅菌手袋の着脱 (課題レポート)	演習
第28回	感染予防の技術	日常的手洗い 無菌操作 ガウンテクニック 滅菌手袋の着脱 (課題レポート)	演習
第29回	実技試験	技術テスト	試験
第30回	実技試験	技術テスト	試験

教科書

新体系 看護学全書 専門分野Ⅰ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ 深井喜代子編集 メヂカルフレンド社

新体系 看護学全書 専門分野Ⅰ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ 深井喜代子編集 メヂカルフレンド社

参考書

看護技術がみえる vol.1 基礎看護技術 医療情報科学研究所編集 メディックメディア

看護技術がみえる vol.2 臨床看護技術 医療情報科学研究所編集 メディックメディア

成績評価

単位認定60点以上。筆記試験60%、実技試験30%、課題レポート10%を総合して評価。

授業時間外の学習

次回の授業範囲について教科書を事前に読んでおくこと
演習終了時に配布する課題レポートに記述すること
実習室で技術の練習をすること

履修のポイント

主体的・積極的な学習への取り組みがのぞまれる

オフィス・アワー

在室時、随時対応します。10号館2階 研究室7

講義コード	10620001
講義名	看護技術学Ⅱ（Aクラス）
(副題)	
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	3 時限
区分	専門科目
必修/選択	必修
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 三木 園生	指定なし
教員	伊藤 美鈴	指定なし
教員	小池 正美	指定なし

授業の概要

看護師は、医師の治療目標に向かって他の医療チームと協働で治療効果を上げる責任がある。治療過程を支援する技術は、特に安全に配慮した確実な技術や倫理的配慮が求められる。様々な症状、疼痛、発熱、呼吸困難、排泄障害などについて、看護の視点で症状緩和方法について学習する。

教育目標

1. 治療過程の支援に必要な看護技術の基本を理解し、安全・安楽な治療過程支援技術を提供する意義を理解する
2. 症状緩和に必要な看護技術の基本を理解し、安全・安楽な症状緩和技術を提供する意義を理解する
3. 安全・安楽な治療過程支援技術および、症状緩和技術を提供するための技術を実施する
4. 治療過程支援技術および、症状緩和技術の修得に向けた自己の課題を明確にする

到達目標

1. 治療過程支援技術および、症状緩和技術の目的・方法を説明する
2. 安全・安楽に治療過程支援技術および、症状緩和技術を行うための環境調整を実施する
3. 決められた手順に則って治療過程支援技術および、症状緩和技術を実施する
4. 治療過程支援技術および、症状緩和技術の修得に向けた自己の課題を明らかにする

授業計画

	主題	授業内容	備考
第1回	バイタルサイン	バイタルサインとは？ バイタルサインの観察方法 記録・報告	講義
第2回	バイタルサイン	バイタルサインとは？ バイタルサインの観察方法 記録・報告	講義
第3回	バイタルサインの測定	バイタルサインの測定・記録・報告 (課題レポート)	演習

第4回	バイタルサインの測定	バイタルサインの測定・記録・報告 (課題レポート)	演習
第5回	呼吸・循環を整える技術	呼吸の意義 酸素吸入療法 吸引(一時的・持続的) 人工呼吸	講義
第6回	呼吸・循環を整える技術	呼吸の意義 酸素吸入療法 吸引(一時的・持続的) 人工呼吸	講義
第7回	酸素吸入療法 吸引	酸素吸入療法 一時的吸引法 (課題レポート)	演習
第8回	酸素吸入療法 吸引	酸素吸入療法 一時的吸引法 (課題レポート)	演習
第9回	食生活と栄養摂取の援助 技術	経腸栄養法と静脈栄養法	講義
第10回	経管栄養法	経管栄養法 (課題レポート)	演習
第11回	排泄の援助技術	排便障害と援助方法 排尿障害と援助方法	講義
第12回	排泄の援助技術	排便障害と援助方法 排尿障害と援助方法	講義
第13回	浣腸、導尿	グリセリン浣腸 一時的導尿 (課題レポート)	演習
第14回	浣腸、導尿	グリセリン浣腸 一時的導尿 (課題レポート)	演習
第15回	与薬の技術	薬物療法の意義・目的、看護師の役割 与薬に関する基本知識	講義
第16回	与薬の技術	薬物療法の意義・目的、看護師の役割 与薬に関する基本知識	講義
第17回	与薬の技術 検査に伴う看護技術	与薬の援助に関する共通事項、各種与薬の援助方法 検査に伴う看護と検査の種類、血液検査(静脈血採血法)	講義
第18回	与薬の技術 検査に伴う看護技術	与薬の援助に関する共通事項、各種与薬の援助方法 検査に伴う看護と検査の種類、血液検査(静脈血採血法)	講義
第19回	静脈血採血法	静脈血採血の方法 感染性廃棄物の取扱い (課題レポート)	演習
第20回	静脈血採血法	静脈血採血の方法 感染性廃棄物の取扱い (課題レポート)	演習
第21回	各種注射法	筋肉内注射法 点滴静脈内注射法 (課題レポート)	演習

第22回	各種注射法	筋肉内注射法 点滴静脈内注射法 (課題レポート)	演習
第23回	症状緩和技術	症状緩和技術とは 代替療法とは 看護の視点からみた症状緩和方法	講義
第24回	症状緩和技術	症状緩和技術とは 代替療法とは 看護の視点からみた症状緩和方法	講義
第25回	足浴・マッサージ 電法	足浴・マッサージ 冷電法・温電法 (課題レポート)	演習
第26回	足浴・マッサージ 電法	足浴・マッサージ 冷電法・温電法 (課題レポート)	演習
第27回	実技試験	技術テスト	試験
第28回	実技試験	技術テスト	試験
第29回	総合演習	総合演習 (課題レポート)	演習
第30回	総合演習	総合演習 (課題レポート)	演習

教科書

新体系 看護学全書 専門分野Ⅰ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ 深井喜代子編集 メヂカルフレンド社
 新体系 看護学全書 専門分野Ⅰ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ 深井喜代子編集 メヂカルフレンド社

参考書

看護技術がみえる vol.1 基礎看護技術 医療情報科学研究所編集 メディックメディア
 看護技術がみえる vol.2 臨床看護技術 医療情報科学研究所編集 メディックメディア

成績評価

単位認定60点以上。筆記試験60%、実技試験30%、課題レポート10%を総合して評価。

授業時間外の学習

次回の授業範囲について教科書を事前に読んでおくこと
 演習終了後に配布する課題レポートに記述すること
 実習室で技術の練習をすること

履修のポイント

主体的・積極的な学習への取り組みがのぞまれる

オフィス・アワー

在室時、随時対応します。10号館2階 研究室7

講義コード	10620002
講義名	看護技術学Ⅱ（Bクラス）
(副題)	
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	木曜日
代表時限	3時限
区分	専門科目
必修/選択	必修
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 三木 園生	指定なし
教員	伊藤 美鈴	指定なし
教員	小池 正美	指定なし

授業の概要

看護師は、医師の治療目標に向かって他の医療チームと協働で治療効果を上げる責任がある。治療過程を支援する技術は、特に安全に配慮した確実な技術や倫理的配慮が求められる。様々な症状、疼痛、発熱、呼吸困難、排泄障害などについて、看護の視点で症状緩和方法について学習する。

教育目標

1. 治療過程の支援に必要な看護技術の基本を理解し、安全・安楽な治療過程支援技術を提供する意義を理解する
2. 症状緩和に必要な看護技術の基本を理解し、安全・安楽な症状緩和技術を提供する意義を理解する
3. 安全・安楽な治療過程支援技術および、症状緩和技術を提供するための技術を実施する
4. 治療過程支援技術および、症状緩和技術の修得に向けた自己の課題を明確にする

到達目標

1. 治療過程支援技術および、症状緩和技術の目的・方法を説明する
2. 安全・安楽に治療過程支援技術および、症状緩和技術を行うための環境調整を実施する
3. 決められた手順に則って治療過程支援技術および、症状緩和技術を実施する
4. 治療過程支援技術および、症状緩和技術の修得に向けた自己の課題を明らかにする

授業計画

	主題	授業内容	備考
第1回	バイタルサイン	バイタルサインとは？ バイタルサインの観察方法 記録・報告	講義
第2回	バイタルサイン	バイタルサインとは？ バイタルサインの観察方法 記録・報告	講義
第3回	バイタルサインの測定	バイタルサインの測定・記録・報告 (課題レポート)	演習

第4回	バイタルサインの測定	バイタルサインの測定・記録・報告 (課題レポート)	演習
第5回	呼吸・循環を整える技術	呼吸の意義 酸素吸入療法 吸引(一時的・持続的) 人工呼吸	講義
第6回	呼吸・循環を整える技術	呼吸の意義 酸素吸入療法 吸引(一時的・持続的) 人工呼吸	講義
第7回	酸素吸入療法 吸引	酸素吸入療法 一時的吸引法 (課題レポート)	演習
第8回	酸素吸入療法 吸引	酸素吸入療法 一時的吸引法 (課題レポート)	演習
第9回	食生活と栄養摂取の援助 技術	経腸栄養法と静脈栄養法	講義
第10回	経管栄養法	経管栄養法 (課題レポート)	演習
第11回	排泄の援助技術	排便障害と援助方法 排尿障害と援助方法	講義
第12回	排泄の援助技術	排便障害と援助方法 排尿障害と援助方法	講義
第13回	浣腸、導尿	グリセリン浣腸 一時的導尿 (課題レポート)	演習
第14回	浣腸、導尿	グリセリン浣腸 一時的導尿 (課題レポート)	演習
第15回	与薬の技術	薬物療法の意義・目的、看護師の役割 与薬に関する基本知識	講義
第16回	与薬の技術	薬物療法の意義・目的、看護師の役割 与薬に関する基本知識	講義
第17回	与薬の技術 検査に伴う看護技術	与薬の援助に関する共通事項、各種与薬の援助方法 検査に伴う看護と検査の種類、血液検査(静脈血採血法)	講義
第18回	与薬の技術 検査に伴う看護技術	与薬の援助に関する共通事項、各種与薬の援助方法 検査に伴う看護と検査の種類、血液検査(静脈血採血法)	講義
第19回	静脈血採血法	静脈血採血の方法 感染性廃棄物の取扱い (課題レポート)	演習
第20回	静脈血採血法	静脈血採血の方法 感染性廃棄物の取扱い (課題レポート)	演習
第21回	各種注射法	筋肉内注射法 点滴静脈内注射法 (課題レポート)	演習

第22回	各種注射法	筋肉内注射法 点滴静脈内注射法 (課題レポート)	演習
第23回	症状緩和技術	症状緩和技術とは 代替療法とは 看護の視点からみた症状緩和方法	講義
第24回	症状緩和技術	症状緩和技術とは 代替療法とは 看護の視点からみた症状緩和方法	講義
第25回	足浴・マッサージ 電法	足浴・マッサージ 冷電法・温電法 (課題レポート)	演習
第26回	足浴・マッサージ 電法	足浴・マッサージ 冷電法・温電法 (課題レポート)	演習
第27回	実技試験	技術テスト	試験
第28回	実技試験	技術テスト	試験
第29回	総合演習	総合演習 (課題レポート)	演習
第30回	総合演習	総合演習 (課題レポート)	演習

教科書

新体系 看護学全書 専門分野Ⅰ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ 深井喜代子編集 メヂカルフレンド社
 新体系 看護学全書 専門分野Ⅰ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ 深井喜代子編集 メヂカルフレンド社

参考書

看護技術がみえる vol.1 基礎看護技術 医療情報科学研究所編集 メディックメディア
 看護技術がみえる vol.2 臨床看護技術 医療情報科学研究所編集 メディックメディア

成績評価

単位認定60点以上。筆記試験60%、実技試験30%、課題レポート10%を総合して評価。

授業時間外の学習

次回の授業範囲について教科書を事前に読んでおくこと
 演習終了後に配布する課題レポートに記述すること
 実習室で技術の練習をすること

履修のポイント

主体的・積極的な学習への取り組みがのぞまれる

オフィス・アワー

在室時、随時対応します。10号館2階 研究室7

講義コード	10630001
講義名	看護技術学Ⅲ
(副題)	
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	金曜日
代表時限	3 時限
区分	医療保健学部：専門科目
必修/選択	必修
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 伊藤 美鈴	指定なし

授業の概要

看護におけるヘルスアセスメントの目的・意義を理解し、対象者の健康状態を身体的・心理的・社会的側面から統合的にアセスメントするための知識と基本的技術を学ぶ。特に身体的アセスメントについては、看護実践の基盤となる観察技術を中心に正確な身体情報を把握する。さらにその情報から対象者の健康レベルや正常・異常を理解できるまでの一連のアセスメント技術と看護者として望ましい基本的態度を修得する。

教育目標

看護におけるヘルスアセスメントの目的・意義を理解し、あらゆる健康レベルにある人々の身体構造と機能の系統的観察・測定技術の必要性和方法を学べるようにする。さらに対象者の健康状態を実際にアセスメントできる基本的技術と看護者としての基本的態度を修得できるようにする。

到達目標

1. ヘルスアセスメントの意義および必要性を述べる。
2. 人間を身体的・心理・社会的存在としてとらえる必要性を述べる。
3. 対象者を総合的にアセスメントするために、ヘルスアセスメントの基本的技術を実施する。
4. ヘルスアセスメント時の看護者としての基本的態度について考える。

授業計画

	主題	授業内容	備考
第1回	ヘルスアセスメントの概要	ヘルスアセスメントの目的・意義と基本的技法	講義
第2回	系統的アセスメント	看護面接の進め方	講義
第3回	演習	看護面接の実際：クラス別	演習
第4回	系統的アセスメント	皮膚・頭頸部のフィジカルアセスメントの進め方	講義
第5回	演習	皮膚・頭頸部のフィジカルアセスメントと身体各部の計測の実際：クラス別	演習

第6回	系統的アセスメント	呼吸器系のフィジカルアセスメントの進め方	講義
第7回	演習	呼吸器系のフィジカルアセスメントの実際：クラス別	演習
第8回	系統的アセスメント	循環器系のフィジカルアセスメントの進め方	講義
第9回	演習	循環器系のフィジカルアセスメントの実際：クラス別	演習
第10回	系統的アセスメント	消化器系のフィジカルアセスメントの進め方	講義
第11回	演習	消化器系のフィジカルアセスメントの実際：クラス別	演習
第12回	系統的アセスメント	感覚器系・運動器系・中枢神経系のフィジカルアセスメントの進め方	講義
第13回	演習	感覚器系・運動器系・中枢神経系のフィジカルアセスメントの実際：クラス別	演習
第14回	事例を用いたアセスメント	情報収集および解釈・分析：ゴードンの機能的健康パターンを用いて	演習
第15回	事例を用いたアセスメント	情報収集および解釈分析の発表と修正	演習

教科書

岡庭豊：フィジカルアセスメントがみえる,メディックメディア,2016.

参考書

松尾ミヨ子編：ナースングラフィカ 基礎カンゴガク② ヘルスアセスメント,2017.
 山内豊明：フィジカルアセスメントガイドブックー目と手と耳でここまでわかる,医学書院,2015.

成績評価

講義・演習参加状況・演習レポート30%、事例レポート20%、筆記試験50%を総合して評価する。
 総合得点が60点以上で単位認定とする。ただし、事例レポートが合格することを必須とする。

授業時間外の学習

系統別アセスメントの演習を効果的に行うために人体の構造のレポートを作成する。演習前にフィジカルアセスメントのDVDを視聴する。

履修のポイント

事前事後の学習課題を行い、主体的・積極的に参加すること。記録類の提出は、時間厳守すること。

オフィス・アワー

在室中で時間があればいつでも対応します。10号館2階11研究室です。

講義コード	10640001
講義名	看護技術学Ⅳ
(副題)	
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	金曜日
代表時限	4 時限
区分	専門科目
必修/選択	必修
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 三木 園生	指定なし

授業の概要

看護過程の展開は看護理論をもとに、対象にどのような問題点があるか、どのような看護ケアが必要か、どのような事象が展開されるかを予測的に説明することができる方法である。この科目は専門基礎で学んだ知識と看護学を統合する学習であり、既修学習した様々な知識を想起して、これから始まる看護学各論の科目、特に臨地実習と関連させる方法論を学ぶ。

教育目標

科学的な根拠に基づく、個別性のある看護を実践するための方法論を理解できるようにする

到達目標

1. 看護過程とはなにか説明する
2. 看護過程の各段階とその機能を説明する
3. 看護過程の展開方法について説明する
 - ①「アセスメント」を展開する方法
 - ②「看護診断（問題の明確化）」を展開する方法
 - ③「計画」を展開する方法
 - ④「実施」を展開する方法
 - ⑤「評価」を展開する方法

授業計画

	主題	授業内容	備考
第1回	看護過程概説 看護過程の各段階と機能	看護過程とは 看護過程の各段階と機能とは	講義
第2回	アセスメント	情報収集	講義
第3回	アセスメント	情報の解釈・分析	講義
第4回	診断	関連図を用いた問題の明確化	講義
第5回	計画	看護診断（問題の明確化）	講義
第6回	計画	期待される成果、具体策	講義
第7回	実施	実施、記録	講義
第8回	評価	目標達成の評価、看護計画の修正、結果の伝達 事例展開に向けた学習（病態・治療、発達段階）	講義

第9回	アセスメント	事例をもとに情報整理（課題レポート）	演習
第10回	アセスメント	情報の修正、情報の解釈・分析（課題レポート）	演習
第11回	診断	関連図作成（課題レポート）	演習
第12回	診断	関連図修正、診断リスト作成（課題レポート）	演習
第13回	計画	診断リスト修正、患者目標立案（課題レポート）	演習
第14回	計画	患者目標修正、具体策立案（課題レポート）	演習
第15回	まとめ	具体策修正 看護過程のまとめ	演習

教科書

江川隆子編『ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断 第4版』ヌーヴェルヒロカワ
L.J.カルペニート著、新道幸恵監訳『看護診断ハンドブック 第10版』医学書院

参考書

授業時に提示します

成績評価

事例展開（課題レポート）50%、筆記試験50%を総合して評価する。どちらも60点以上取れることを必須とする

授業時間外の学習

次回の授業範囲について教科書を事前に読んでおくこと。示された課題について記録用紙に記述すること

履修のポイント

主体的・積極的な学習への取組が望まれる

オフィス・アワー

在室中で時間があればいつでも対応します。10号館2階 研究室7

講義コード	10660001
講義名	看護技術学Ⅵ
(副題)	
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	火曜日
代表時限	1 時限
区分	医療保健学部：専門科目
必修/選択	必修
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 伊藤 美鈴	指定なし

授業の概要

看護学科は、医療保健の高度化・専門化・複雑化・多様化に伴い、社会が求める看護に生涯にわたって対応し、活躍できる人材の基盤を養うために、看護技術学Ⅵ（対人援助方法）を提供する。

本科目は既習のコミュニケーション論、看護技術学Ⅰ・Ⅱ・Ⅳおよび基礎看護学実習Ⅰでの学習経験を基盤とする。看護としての対人援助技術（対人コミュニケーション、治療的コミュニケーション）を修得していく。具体的には、効果的なコミュニケーションの方法および看護におけるコミュニケーションについて看護理論を踏まえて学習する。さらに、実際にコミュニケーション技術を実施し、その内容を学んでいく。

教育目標

患者支援に向けて看護職者が対人援助技術を発揮する意義と方法を学習する。

到達目標

1. 言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーションの特徴について学ぶ。
2. 人間のコミュニケーションは相互作用であることを理解する。
3. 対人関係における効果的コミュニケーションについて学ぶ。
4. コミュニケーションを促進し、よい人間関係を築くためには、自己理解を深める必要があることを学ぶ。
5. 看護師がコミュニケーション技術を用いて、看護の目的を達成していくことの重要性について理解する。
6. 看護理論家がコミュニケーションをどのようにとらえているかについて関心を持ち、学習を深める。
7. コミュニケーションは所属している文化に強く影響されていることを理解する。
8. ケアリングは、効果的なコミュニケーションによる対人関係をとおして実践できることを理解する。

授業計画

	主題	授業内容	備考
第1回	Ⅰ. コミュニケーションとは	・ コミュニケーションの双方向性 ・ コミュニケーション技術獲得の難しさ	講義
		・ 看護師と患者の関係	講

第2回	II. 対人関係プロセスとしての看護	・対人関係の成立に不可欠な条件	義
第3回	III. 看護におけるケアリングとコミュニケーション	・他者との関係における2つの儀式 ・ケアリングの概念の今日的意味	講義
第4回	IV. 看護理論とコミュニケーション	・ペプロウ ・オーランド ・トラベルビー	講義
第5回	V. 看護とコミュニケーション	・コミュニケーションの要素 ・コミュニケーションの送り手と受け手との関係による分類 ・コミュニケーションの特性による分類 ・コミュニケーションプロセス	講義
第6回	VI. コミュニケーションのプロセスに影響する要因	・文化とコミュニケーション ・医療文化とコミュニケーション ・人間関係と空間	講義
第7回	VII. 医療における信頼関係とコミュニケーション	・信頼関係の基本であるコミュニケーション ・看護師－患者関係	講義
第8回	VIII. 疾患に伴ったコミュニケーション障害がある人への対応 コミュニケーション演習	・言語的コミュニケーション機能とは ・言語的コミュニケーション障害のある人への対応 ・コミュニケーション演習	講義

教科書

◆深井喜代子編：新体系 看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ，メヂカルフレンド社，2017.

参考書

◆渡辺富栄：対人コミュニケーション入門 看護のパワーアップにつながる理論と技術，ライフサポート社，2014.

◆平井さよ子：改訂版 看護職のキャリア開発，日本看護協会出版会，2009.

◆平田オリザ：わかりあえないことから－コミュニケーション能力とは何か，講談社.

◆シラバス

◆配布資料

成績評価

筆記試験（100%）

授業時間外の学習

授業を効果的にするためにコミュニケーション論の授業を復習することを勧める。自身が日常経験している身近な人々とのコミュニケーション内容を内省する。

履修のポイント

授業事後の復習を行い、主体的・積極的に授業に参加すること。

オフィス・アワー

在室中で時間があればいつでも対応します。10号館2階11研究室です。

講義コード	10670001
講義名	基礎看護学実習Ⅰ
(副題)	【教職必修】
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	後期
講義区分	実験・実習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
区分	専門科目
必修/選択	必修
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 三木 園生	指定なし
教員	伊藤 美鈴	指定なし

授業の概要

看護の対象である患者および患者を取り巻く生活の場を理解し、実際に観察、コミュニケーションの技術を活用しながら、対象者の基本的ニーズを満たすための援助の必要性を考え、日常生活行動の援助を実践する。また、看護の主要な対象である患者がどのような健康上の問題をもって生活しているかを理解し、看護が担う役割と責任について理解する。

教育目標

看護者の立場から、コミュニケーションや観察を通して患者がどのような健康上の問題をもって生活しているかを理解する。また、患者の基本的ニーズを満たすための援助の必要性を考え、日常生活行動の援助を実践する。本実習を通して看護の役割と責任について理解を深める。

到達目標

1. 患者に必要な日常生活行動の援助について、原理・原則に基づき実施方法を計画する
2. 患者に必要な日常生活行動の援助を実施する
3. 患者とより良い援助関係を築くよう努力する
4. 患者に質の高い技術を提供するための看護師のあり方について考える

授業計画

	主題	授業内容
第1回	臨地実習	病棟オリエンテーション、日常生活行動の観察 カンファレンス
第2回	臨地実習	日常生活行動および援助の観察、健康状態の観察 必要な援助の抽出、日常生活行動の援助計画立案
第3回	臨地実習	日常生活行動の援助の実施 カンファレンス
第4回	臨地実習	日常生活行動の援助の実施 カンファレンス
第5回	臨地実習	日常生活行動の援助の実施 カンファレンス

教科書

使用せず
参考書
看護技術学概論、看護技術学Ⅰ、Ⅱで使用した教科書および授業プリント 看護学原論Ⅰ、Ⅱで使用した教科書および授業プリント
成績評価
行動目標の達成状況により評価し60点以上を合格とする。
授業時間外の学習
既修学習をもとに、示された課題について記録用紙に記述する 事前に技術練習・学習を十分行う
履修のポイント
主体的・積極的な学習への取り組みを期待します
オフィス・アワー
在室時、随時対応します。10号館2階 研究室7（三木）

講義コード	10680001
講義名	基礎看護学実習Ⅱ
(副題)	
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	後期
講義区分	実験・実習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
区分	専門科目
必修/選択	必修
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 三木 園生	指定なし
教員	伊藤 美鈴	指定なし

授業の概要

健康障害を体験している一人の患者を受け持ち、患者を全人的にとらえ、ニーズの充足を目指して科学的根拠に基づく日常生活行動の援助を計画・実施・評価するプロセスを学習する。実施においては修得した技術の提供を通し、看護技術の個別化の意義を学ぶ。さらに、看護者としてふさわしい態度を考え、自己を振り返り、看護への理解と関心を深める。

教育目標

健康障害を体験している一人の患者を受け持ち、患者を全人的にとらえ、ニーズの充足を目指して科学的根拠に基づく日常生活行動の援助を計画・実施・評価するプロセスを学ぶ。

到達目標

1. 一人の患者を受け持ち、アセスメント、診断、計画、実施、評価の一連の過程を経験する。
2. 看護理論に基づいて個別性のある看護を行うための方法を理解する。
3. 患者との援助関係を発展させるよう努力する。
4. 質の高い看護を提供するために、倫理観や科学的根拠に基づき、看護を展開することの看護師の責任を確認する。
5. 目標1～4を通し、看護学学習上の自己の課題を明らかにする。

授業計画

	主題	授業内容
第1回	臨地実習	病棟オリエンテーション、患者紹介、情報収集 カンファレンス
第2回	臨地実習	情報収集、情報の解釈・分析 カンファレンス
第3回	学内実習	情報の解釈・分析、関連図作成
第4回	臨地実習	情報の解釈・分析、関連図修正、問題の明確化 カンファレンス
第5回	臨地実習	問題の明確化、看護診断の選択、目標設定、計画立案 カンファレンス
第6回	臨地実習	問題の明確化、看護診断の選択、目標設定、計画立案 カンファレンス

第7回	臨地実習	目標設定 計画立案：観察計画・直接ケア計画・教育計画 カンファレンス
第8回	臨地実習	計画の実施・評価、修正 カンファレンス
第9回	臨地実習	計画の実施・評価、修正 カンファレンス
第10回	臨地実習	計画の実施・評価、修正、まとめ カンファレンス

教科書

使用せず

参考書

看護技術学Ⅰ～Ⅳで使用した教科書および授業プリント
看護学原論Ⅰ・Ⅱで使用した教科書および授業プリント
関連する領域の資料

成績評価

行動目標の達成可否により評価し、60点以上を合格とする

授業時間外の学習

既習学習をもとに、示された課題について記録用紙に記述する
事前に技術練習・学習を十分行う

履修のポイント

主体的・積極的な学習への取り組みを期待します
根拠をもって判断し行動することを求めます

オフィス・アワー

在室時、随時対応します。10号館2階 研究室7（三木）

講義コード	10710001
講義名	母性看護学実習
(副題)	
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	通年
講義区分	実験・実習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
区分	専門科目
必修/選択	必修
学年	3学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 森島 知子	指定なし

授業の概要

妊娠・分娩・産褥・新生児期にある対象者の特徴を理解し、ウェルネスの視点に基づく看護を学習する。

教育目標

周産期にある対象者の身体・心理・社会的変化を理解したうえで、母児を受け持ち、看護過程を展開する。看護計画・実施・評価するプロセスを通し、周産期にある対象のニーズの充足や役割獲得への看護実践を学ぶ。

到達目標

「知識について」①周産期にある対象者の身体・心理・社会的変化の基礎知識に基づいた情報収集ができる。②周産期にある対象者を個別性に応じてアセスメントする内容が理解できる。③周産期にある対象者の健康維持・増進、正常からの逸脱のための援助ができる。④母子関係を促進し、母親役割獲得への援助について理解できる。⑤周産期における看護の役割とチーム医療について説明できる。

「技術について」①周産期にある対象者への看護技術を安全・安楽に実施できる。②周産期にある対象者への保健指導へのフィードバックができる。

「態度について」①対象者の人権を尊重し擁護できる。プライバシーや看護倫理に配慮した看護ができる。②対象者とその家族、その他の医療者に対して適切なコミュニケーションをとることができる。③自主的に行動して学びを深めることができる。

授業計画

教科書

系統看護学講座 専門母性看護学2 医学書院

参考書

なし

成績評価

単位認定 60点以上

授業時間外の学習

実習前後に母性看護学概論・方法論におけるポイントを振り返り、学びを深めることで知識・技術の定着につながります。

履修のポイント

臨地実習にて対象者を理解（分析・解釈）するために、活用できる事前学習をお勧めします。

オフィス・アワー

在室時対応します。10号館2階 研究室6

講義コード	10730001
講義名	小児看護方法
(副題)	【教職必修】
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	1 時限
区分	専門科目
必修/選択	必修
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 丸本 真理	指定なし

授業の概要

成長・発達過程で抱える健康問題（疾病・障害）をもつ子どもを理解し、子どもの発達段階と健康段階にあった基本的援助方法を見出せるよう、学習する。

教育目標

小児看護学概論で学んだ知識を基に、成長・発達で抱えた健康問題（疾病・障害）を通して、子どもとその家族に及ぼす影響を理解する。
成長・発達段階と健康段階に応じた子どもと家族への基本的な援助を提供できるよう知識の習得をめざす。

到達目標

- 1.様々な発達段階、健康状態にある子どもについて理解できる。
- 2.子どもの健康問題の病態生理と治療、処置について理解し、記述することがきる。
- 3.様々な状況にある子どもとその家族への看護について考えることがきる。
- 4.病態生理を基に根拠を考え、看護を理解することができる。

授業計画

	主題	授業内容	備考
第1回	健康障害や入院が子どもに及ぼす影響とその看護	子どもと家族の影響、子どもと入院、病院での遊び	
第2回	遺伝・先天性疾患の看護	遺伝・先天性疾患と看護	
第3回	新生児の看護	新生児によくみられる症状、主な疾患と看護	
第4回	代謝性疾患と看護	小児の代謝性疾患、内分泌疾患の特徴と看護	
第5回	免疫性疾患、アレルギー性疾患・ リュウマチ性疾患と看護	小児の主要なアレルギー疾患、全身性自己免疫疾患と看護	
第6回	感染症と看護	小児の主な感染症疾患と看護	
第7回	呼吸器疾患と看護	小児の主な呼吸器疾患と看護	
第8回	循環器疾患と看護	小児期の主な循環器疾患と看護	

第9回	循環器疾患と看護	小児期の主な循環器疾患と看護	
第10回	消化器疾患と看護	小児期の主な消化器疾患と看護	
第11回	消化器疾患と看護	小児期の主な消化器疾患と看護	
第12回	血液・造血器疾患と看護	小児期の主要血液・造血器疾患と看護	
第13回	悪性新生物と看護	小児期に多い腫瘍性疾患と看護	
第14回	腎・泌尿器疾患と看護	小児の腎疾患、尿路疾患と看護	
第15回	腎・泌尿器疾患と看護	小児の腎疾患、尿路疾患と看護	
第16回	神経疾患と看護	小児の主要な神経疾患と看護	
第17回	運動器疾患と看護	小児の主要な運動器疾患と看護	
第18回	皮膚疾患と看護	主要な皮膚疾患と看護	
第19回	ハイリスク新生児の看護	N I C U看護：ハイリスク新生児の生涯発達を考慮した看護の実際	N I C U 認定看護師 中井さん
第20回	眼疾患と看護	主要な眼科疾患と看護	
第21回	耳鼻咽喉頭疾患と看護	主要な耳の疾患、鼻の疾患の看護	
第22回	事故・外傷と看護	小児期によくみられる事故、外傷の理解と看護	
第23回	精神疾患・心身医学的問題と看護	精神疾患・心身医学的問題を抱える児と治療	
第24回	精神疾患・心身医学的問題と看護	発達障害の概要と支援、特別支援教育について	渡良瀬特別支援学校 植木先生
第25回	重度心身障害をもつ児の看護と支援	肢体不自由児、発達障害児の概要と支援、特別支援教育について	ゲストスピーカー 依頼予定
第26回	子どもと家族の看護	子どもの状況に特徴づけられる看護 子どもにおける疾病の経過と家族の看護	
第27回	小児の基本的な看護技術	小児の基本的な看護技術	
第28回	小児の基本的な看護技術	小児の基本的な看護技術	
第29回	小児の事例の展開方法	小児期の特徴をふまえた情報収集の視点とアセスメント方法	
第30回	小児の事例の展開方法	関連図、看護計画立案	

教科書

系統看護学講座 小児看護学概論・小児臨床看護総論・小児臨床看護各論（医学書院）
写真で見る小児看護技術（インターメディカ）

参考書

子どもの病気の地図帳（講談社）
子どものフィジカルアセスメント（金原書店）

成績評価

単位認定60点以上：テスト80%、提出物20% 総合100%で評価します。

授業時間外の学習

毎回の授業をしっかりと聞いて下さい。配布資料と教科書で復習を心がけて下さい。

履修のポイント

毎回、直筆による「リアクション・ペーパー」の提出を求めます。

授業の内容、感想を記入して頂くことで、出席とみなします。
オフィス・アワー
在室時に研究室で対応します。

講義コード	10740001							
講義名	小児看護学実習							
(副題)	【教職必修】							
開講責任部署	看護学科							
講義開講時期	通年							
講義区分	実験・実習							
基準単位数	2							
代表曜日								
代表時限								
区分								
必修/選択								
学年								
担当教員								
<table border="1"> <tr> <td>職種</td> <td>氏名</td> <td>所属</td> </tr> <tr> <td>教員</td> <td>◎ 丸本 真理</td> <td>指定なし</td> </tr> </table>			職種	氏名	所属	教員	◎ 丸本 真理	指定なし
職種	氏名	所属						
教員	◎ 丸本 真理	指定なし						
授業の概要								
小児病棟・特別支援学校・保育園・幼稚園に実習に伺い、小児の成長・発達段階を理解する。病棟実習では、病態生理を理解し、必要な看護援助が導きだせるよう看護過程を展開する。特別支援学校では発達段階と教育を理解し、医療従事者となる自己の立場・役割を考え、自己の課題を明確にする。 保育園・幼稚園実習では、健康な小児の発達段階を理解する。								
教育目標								
・健全な育成をめざし、小児の成長発達を理解し、あらゆる健康段階にいる小児と家族に対して適切な看護が実践できる基礎能力を養う。 ・小児を個として尊重し、権利を有する存在であることを理解する。 ・障がいを理解し、医療従事者になる自己の立場・役割を考える。								
到達目標								
1. 児を個として尊重し、権利を有する存在であることを理解したうえで適切なコミュニケーションができる。 2. 患児の病態や発達段階の特徴にあわせた援助ができる。 3. 健康障害や入院が、患児と家族に与える影響について理解することができる。 4. 乳幼児の発達段階に応じた事故防止の必要性に気づくことができる。 5. 乳幼児の成長発達段階および個別性を理解できる。 6. 学生自身の小児に対するとらえ方やイメージを明らかにし、社会性を考慮した教育・支援について考えることができる。 7. 児の発達段階や個別性を通して、自己の課題を明確にすることができる。 8. 学生自身が持っている児に対するとらえ方やイメージを明らかにし、小児看護のあり方について考えることができる。 9. 学生自身が小児看護における課題を明確にし、主体的に学習できる。								
授業計画								
教科書								
医学書院 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院 小児臨床看護各論								

参考書
医学書院 小児看護技術 医学書院 小児看護過程
成績評価
臨地実習指導者、教員と相談させて頂き、評定を行います。
授業時間外の学習
日々の学習を行い、教員に適宜相談してください。
履修のポイント
実習目標を意識して実習に挑んでください。 適宜教員に相談してください。 課題が出た場合は、速やかに学習してください。
オフィス・アワー
臨地実習場所にて対応します。

講義コード	10750001
講義名	成人看護学概論
(副題)	
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	前期（重複②）
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	3 時限
区分	専門科目
必修/選択	必修
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 林 かおり	指定なし

授業の概要

成人期は幅広く、人口層が厚く社会的にも重要な役割を担っている人々である。この時期の人々の健康問題を健康レベルに沿ってヘルスプロモーションから治療を必要とする対象、健康の再構築を必要としている対象、ソーシャルサポート、ターミナルケアが必要な対象などにわけて理解を深める。

また、成人看護学に有効な看護理論・モデルを用いることで健康問題を客観的視点から考える視点を習慣化できるようにしていく。

対象への継続看護や家族との関わりおよび社会資源の活用についてまで理解を深める。

教育目標

成人期の対象とは何か、成人各期の特徴を習得する。

成人期の健康問題に対する援助論について習得をする。

健康増進または疾病予防を必要とする成人期の対象を知る。

成人期に有効な理論・モデルはどのようなときに使用されるかを考え、特徴をとらえた看護過程のたどり方を知る。

対象のみでなくその家族を含めた看護方法を知る。

現在活用できる社会資源について知る。

到達目標

成人にとっての健康保持増進の意義を理解する。

成人期の保健動向から成人看護の特徴を理解する。

成人の健康増進の必要性及び予防方法について理解をする。

対象に必要な看護展開の方法の理解をし、実習で応用できる。

対象だけではなく対象に関わる家族を含めた看護の方法を理解する。

ケースによる社会資源の種類や活用方法について理解をする。

授業計画

	主題	授業内容
第1回	成人看護学の概念	1. 看護理論の応用 2. 成人看護学の対象と援助
第2回	成人看護学の特性	1. 成人保健の動向 2. ライフサイクルの中での成人の位置づけと意義 3. 成人の発達段階（身体的・精神的・社会的等）

第3回	保健・医療・福祉における動向と課題	1. 成人期における健康障害の特徴 2. 疾病予防の現状と対応（ヘルスプロモーション）
第4回	成人看護における理論と看護者の役割	1. 成人期における倫理的課題 2. 看護者としての倫理 3. 倫理的問題の解決過程
第5回	成人期にある人の健康	1. 健康レベルの定義 2. ヘルスプロモーション 3. 治療が必要に対象への援助（生活習慣病・健康の再構築者・ターミナル期の患者等）
第6回	成人期にある人のへの看護援助1	1. 理論から成人看護を考える （ニード論・ケアリング・ストレスコーピング理論）
第7回	成人期にある人のへの看護援助2 成人におけるヘルスアセスメント	1. 理論から成人看護を考える （危機理論・家族看護理論・エンパワメント・健康モデル等） 2. 成人を対象としたヘルスアセスメント 3. 成人期をとらえた看護過程
第8回	継続看護と健康教育	1. 継続看護の重要性 2. 患者・家族への健康教育 3. 社会資源の活用

教科書

大西和子、岡部聡子編集『成人看護学概論』

参考書

厚生労働統計協会編（各年）『国民衛生の動向』

成績評価

筆記試験90% 課題・出席10%

授業時間外の学習

既習学習である『看護理論』を確認しておくこと。

履修のポイント

主体的に積極的に授業に参加をすること。2年次後期または3年次の実習時に必要になることを意識して授業に臨むこと。ニュース、新聞等で成人の健康についての記事に興味を持と問題意識を持つこと。

オフィス・アワー

在室時に対応をします。（臨地実習で不在が多いので連絡をしてから来室して下さい）

講義コード	10760001
講義名	成人看護方法Ⅰ
(副題)	
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	1 時限
区分	専門科目
必修/選択	必須
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 松沼 晶子	指定なし

授業の概要

慢性疾患のある人々、及びその家族の発達段階、発達課題、健康段階を理解し、対象者のセルフケアを高め、生活の再構築や、病と共に自分らしく生きるための支援、看護について知識、技術を学ぶ。

教育目標

慢性期疾患にある患者、家族の発達段階および、その人々の今までの暮らしや生き方を理解し、患者、家族のQOL（quality of life）の維持、向上を目指して、患者が治療を継続しながら病と共に生きること、新たな生活を再構築するための看護を実践する能力を身に付ける。

到達目標

1. 慢性期の特徴、慢性疾患の定義を述べることができる。成人期における発達課題を理解することがなぜ必要か、疾病がライフサイクルに及ぼす影響について疾患を通して述べるができる、身体的、心理的、社会的影響とどのように看護を提供したらよいか方針を述べるができる。

2. 慢性期、慢性疾患の原因となっている生活習慣病の様々な要因と防ぐための予防方法、日本の取り組みを述べるができる。慢性疾患の治療の特徴とそれを取り巻く社会環境について解釈し、慢性疾患のある患者への支援において大切なことを学生自ら考え、述べるができる。

3. 慢性期にある人の心理的社会的な特徴、患者理解（病の軌跡）、アドヒアランスについて知ることによって、病みの行路をillness courseを方向づけたり形作ったり、あるいは調整し、さらに病気に随伴する症状を適切にコントロールすることによって行路を延ばすことや安定を保つための支援方法を説明できる。

4. 慢性疾患のある人の疾病の受け入れ過程や自己のゆらぎというものを知り、患者を理解していく上での知識や考え方に活かし、学生自身が自己の患者理解という考え方を述べるができる。人は病気体験を通して成長できる可能性をもつ存在であり、疾病の受容過程を通して人間として豊かに成長するという視点を説明できる。

5・慢性期にある人、およびその家族を看護の対象として捉え、家族の機能、家族システムや家族機能を理解した上で、患者だけではなく、その家族もケアが必要な状況であるのかを判断し、

家族に必要な看護援助について述べることができる。

6. チーム医療が求められる理由、チームコミュニケーションが多職種連携の中で重要な点について述べるができる。また、意思決定支援の中でさまざまなバイアスの存在偏りや歪み、偏見や先入観について、患者の自らの人生を生き切る力を出すための支援について述べるができる。

7. 慢性疾患のある患者の生き方を知り、病との付き合い方について述べるができる。アドヒアランスを支援する方法と人生の編みなおしの方法を述べるができる。

8. QOLとは何か、どのようなものか解釈し、QOLを高めるための支援方法を述べるができる。また、セルフケアに関する諸理論、症状マネジメント方法、ストレスコーピングを促す方法について述べるができる。

9. 慢性疾患患者が病いと共に付き合うための行動変容を促す、自己効力感を高める、エンパワメントを促すための具体的な支援方法について述べるができる。ノールズの成人学習理論を解釈し、成人学習者への教育方法（患者教育）について述べるができる。

10. 療養生活を支える社会資源や介護者への支援、慢性疾患患者を支える医療支援体制、アドボカシーについて解釈し、支援方法を述べるができる。

11. 慢性疾患の病態と症状や治療を理解した上で、患者と家族の課題をアセスメントし、その人々らしく生きるためのセルフケア能力を高める支援や疾患と付き合いながら生活を再構築するために必要な支援を具体的に述べることができる。

12. 慢性疾患患者の事例を用いて、情報収集、アセスメント、看護診断、看護計画立案する。

13. 終末期ケア、緩和ケアの概念とトータルペインに対する支援、在宅療養に関する看護師の役割について具体的に述べるができる。

14. 慢性期疾患患者の看護において必要不可欠な多職種連携、チーム医療について説明し、医療機関と地域とのネットワーク、看護師の役割について述べるができる。

授業計画

	主題	授業内容	備考
第1回	慢性期看護の考え方①	1 慢性期とは 慢性期にある疾患の特徴 成人期の発達課題 自分らしさとは何か	
第2回	慢性期看護の考え方①	2 慢性疾患の治療の特徴 生活習慣病とその予防 ヘルスプロモーションの促進 慢性疾患を有する人を取り巻く療養環境	
第3回	慢性期看護の考え方②	3 慢性期にある人々の心理社会的特徴 患者理解（病みの軌跡）	
第4回	慢性期看護の考え方②	4 慢性疾患を有する人とその家族の理解	
第5回	慢性期看護の考え方③	5 演習 ライフヒストリー	
第6回	慢性期看護の考え方③	6 慢性疾患を有する人に対する看護の役割 チーム医療	
第7回	慢性期にある人への看	7 セルフケアマネジメントの基盤とな	

	護援助①	る主な理論、概念	
第8回	慢性期にある人への看護援助①	8セルフケアマネジメントの基盤となる主な理論、概念	
第9回	慢性期にある人への看護援助②	9セルフケア能力を高める方法	
第10回	慢性期にある人への看護援助②	10セルフケアマネジメントを促すための教育的支援（患者教育）	
第11回	慢性の代謝機能障害をもつ患者の看護	11代謝機能障害の病態生理とアセスメントおよび治療	
第12回	慢性の代謝機能障害をもつ患者の看護	12糖尿病患者への看護	外部から糖尿病の看護を専門に行う看護師等からの講義
第13回	慢性の内部環境調節障害をもつ患者の看護	13腎疾患の病態生理とアセスメントおよび治療	
第14回	慢性の内部環境調節障害をもつ患者の看護	14慢性腎不全の患者への看護	外部から透析看護を専門に行う看護師等からの講義
第15回	慢性の呼吸機能障害をもつ患者の看護	15呼吸機能障害の病態生理とアセスメントおよび治療	
第16回	慢性の呼吸機能障害をもつ患者の看護	16COPD慢性閉塞性肺疾患の患者への看護	
第17回	慢性の循環機能障害をもつ患者の看護	17循環機能障害の病態生理とアセスメントおよび治療	
第18回	慢性の循環機能障害をもつ患者の看護	18高血圧と慢性心不全の患者の看護	
第19回	慢性の脳・神経機能障害をもつ患者の看護	19脳・神経機能障害の病態生理とアセスメントおよび治療	
第20回	慢性の脳・神経機能障害をもつ患者の看護	20脳梗塞の患者への看護	
第21回	看護過程の展開：演習①	事例による看護展開、まとめ等	
第22回	看護過程の展開：演習②	事例による看護展開、まとめ等	
第23回	慢性の運動機能障害をもつ患者の看護	23運動機能障害の種類 関節リウマチの病態生理とアセスメントおよび治療	
第24回	慢性の運動機能障害をもつ患者の看護	24関節リウマチ患者への看護	
第25回	慢性の栄養摂取・消化機能障害、慢性の生体防衛機能障害をもつ患者の看護	25肺炎・肝炎・肝硬変の病態生理とアセスメントおよび治療、患者への看護、HIV感染症 HIV感染者AIDS患者への看護	
第26回	がんの動向とがん患者の心理とケア	26最新のがん統計 がんに対する政策・取り組み がん患者や家族の心理とそのケアについて	
第27回	がんの治療の知識と看護①	27がん治療の知識と看護（化学療法放射線治療）	

第28回	がんの治療の知識と看護②	28がん治療の知識と看護（化学療法放射線治療）	
第29回	緩和ケア①	29緩和ケアと看護師の役割	
第30回	緩和ケア②	30終末期ケアと在宅療養における看護師の役割	

教科書

成人看護学 慢性期看護論 NOUVELLE HIROKAWA

参考書

成人看護学 慢性期看護 病気とともに生活する人を支える 南江堂

成績評価

60以上を合格とします。
筆記試験80%、演習・レポートの課題内容20%

授業時間外の学習

既習学習である「成人看護学概論」を確認しておくこと。
3年生の実習で使用できるような自己学習ノートを作成するなど工夫してください。

履修のポイント

講義内容によって、課題を出しますので、授業内もしくは期限までに提出をお願いします。3年時の成人看護学Ⅰの実習で必要となる知識や考え方、患者家族を理解するための関わり方及び看護援助方法について具体的に演習ももりこみながら学習していきます。

オフィス・アワー

在室時に対応します。

講義コード	10780001
講義名	成人看護方法Ⅱ
(副題)	
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	3 時限
区分	専門科目
必修/選択	必修
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 林 かおり	指定なし

授業の概要

周手術期及び急性期にある対象の特徴について学ぶ。
手術が必要な対象に対しての看護援助の方法について理解を深める。
外科的治療を疾患別に学習し、その特徴や必要な看護の視点について学ぶ。

教育目標

周手術期及び急性期における対象の理解から看護方法の実践的知識を習得する。

到達目標

1. 周手術期及び急性期にある対象の看護上の問題を理解する。 2. 対象の健康の維持・増進及び健康障害からの回復に必要な看護方法について理解をする。

授業計画

	主題	授業内容	備考
第1回	周手術期看護論	周手術期の考え方 概念や理論から考える周手術期看護の援助方法	
第2回	周手術期に起こる生体の変化	外科的侵襲からの回復期の生体反応、外科的侵襲の種類	
第3回	手術過程に応じた看護支援①	手術前・中の看護、麻酔導入前後の看護	
第4回	手術過程に応じた看護支援②	手術後の全身管理の方法、術後合併症について及び発症時の看護	
第5回	手術過程に応じた看護支援	術後の継続看護、術後看護のポイント	
第6回	手術過程に応じた看護支援④	回復期の看護、身体機能変化と必要となるセルフケア能力 リハビリテーション看護	

第7回	手術過程に応じた看護支援⑤	術後合併症の機序、看護のポイント	
第8回	各手術時の看護支援①	消化代謝器官に障害のある人の手術（上部消化管）	
第9回	各手術時の看護支援②	消化代謝器官に障害のある人の手術（下部消化管）	
第10回	各手術時の看護支援③	その他の消化管手術を受ける人の看護	
第11回	各手術時の看護支援④	運動器に障害のある人の手術（大腿骨頸部骨折等）	
第12回	各手術時の看護支援⑤	運動器に障害のある人の手術（脊髄疾患等）	
第13回	各手術時の看護支援⑥	脳神経器官に障害のある人の手術	
第14回	各手術時の看護支援⑦	脳神経器官に障害のある人の手術	
第15回	各手術時の看護支援⑧	排泄器官に障害のある人の手術	
第16回	各手術時の看護支援⑨	排泄器官に障害のある人の手術	
第17回	各手術時の看護支援⑩	感覚器官に障害のある人の手術（眼・耳・鼻）	
第18回	各手術時の看護支援⑪	感覚器官に障害のある人の手術（皮膚・神経系各種）	
第19回	各手術時の看護支援⑫	性・生殖器に障害のある人の手術	
第20回	各手術時の看護支援⑬	内分泌器官に障害のある人の手術	
第21回	看護過程の展開：演習①	事例による看護展開・事例による看護展開、まとめ等	
第22回	看護過程の展開：演習②	事例による看護展開・事例による看護展開、まとめ等	
第23回	各手術時の看護支援⑭	呼吸器官に疾患のある人の手術	
第24回	各手術時の看護支援⑮	呼吸器官に疾患のある人の手術	
第25回	各手術時の看護支援⑯	内視鏡的手術の適応のある人の手術	
第26回	各手術時の看護支援⑰	内視鏡的手術の適応のある人の手術	
第27回	周手術期専門部門での看護①	救急時の看護、ICU入室患者の看護（非常勤講師による講義）	桐生厚生総合病院に在籍する専門・認定看護師等からの講義
第28回	周手術期専門部門での看護②	日帰り手術・外来での手術を必要とする人の看護	
	周手術期専		桐生厚生総合病院に在籍す

第29回	門部門での 看護③	手術室看護と専門性について（非常勤 講師による講義）	る専門・認定看護師等から の講義
第30回	周手術期看 護のまとめ	周手術期の考え方 周手術期看護の援助方法 外科系実習での応用の仕方	

教科書

「周手術期看護論」：ヌーベルヒロカワ、「急性期・周手術期Ⅰ」：中央法規

参考書

系統看護学講座 各科専門分野：医学書院、、竹内登美子「術中/術後の生体反応と急性期看護」
医歯薬出版株式会社

成績評価

60点以上を合格とします。
筆記試験80%、レポート・演習等の課題内容20%

授業時間外の学習

講義資料を活用し、臨地実習でも使用できるようなノートを作成することを工夫して下さい。

履修のポイント

既習学習をふまえ、主体的・積極的に参加をすること。

オフィス・アワー

在室時に対応をします。

講義コード	10790001
講義名	成人看護学実習Ⅱ
(副題)	
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	通年
講義区分	実験・実習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
区分	専門科目
必修/選択	必修
学年	3学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 林 かおり	指定なし

授業の概要

1. 外科領域の病棟・手術室・ICUで実習を行う。2. 周手術期または急性期にある患者を受け持ち、看護過程の展開、必要な援助を考え、実施及び評価をする。

教育目標

成人各期の健康のあらゆる段階における患者の健康上の問題を理解し、健康の維持・増進、健康障害からの回復と社会復帰に向けて必要な看護の実践能力を養う。

到達目標

1. 周手術期及び急性期にある患者の特徴をふまえて、対象の理解をする。2. 手術を受ける患者の看護について理解をする。3. 回復過程の段階をふまえ、患者に必要な援助を考案し実施できる。4. 患者が健康の維持及び増進を図るための社会資源の活用と援助について理解をする。5. 患者を支える家族の役割を理解し、その家族をも含めた援助の必要性について理解をする。6. 保健医療チームの一員としての看護師の役割について理解をする。

授業計画

	授業内容
第1回	周手術期患者の特徴を知り看護援助を考え実施・評価・修正をする
第2回	成人各期の特徴をふまえて対象を理解する
第3回	障害された健康段階と健康障害の状況にある対象の理解をする
第4回	健康の維持・増進のための社会資源活用と援助について理解をする
第5回	各健康段階にある対象に対して必要な援助がわかり、実践ができる
第6回	急性期にある患者の特徴が述べられる
第7回	急性期にある患者の特徴を踏まえた看護の理解ができる
第8回	手術患者の特徴を理解し手術前・中・後に必要な看護が理解できる
第9回	手術後、身体機能に障害を持ちながら生活する人への理解を深める
第10回	保健医療福祉チームの一員としての看護師の役割を認識できる
第11回	病棟以外での看護を学ぶ（手術室）
第12回	病棟以外での看護を学ぶ（ICU・回復室）
第13回	病棟以外での看護を学ぶ（リハビリ室）

第14回	退院後の健康増進と生活の再構築について考え、セルフケア行動が確立できる退院時指導を患者及び家族にすすめることができる
第15回	退院後社会的資源の活用について考えることができる

教科書

「周手術期看護論」：ヌーベルヒロカワ
「急性期・周手術期Ⅰ」：中央法規

参考書

各種疾病に関する看護の書籍
成人看護方法論Ⅱで使用した資料等

成績評価

単位認定：60点以上
実習目標の達成度、実習記録、事前学習の内容、提出期限の厳守等によって総合的に、臨床指導者とともに評価をする。

授業時間外の学習

記録物を実習終了後、その日のうちにまとめること、翌日の実習に備えての予習及び資料等をそろえて下さい。
臨床側または大学から指導や課題を出された場合はその日のうちに行い翌日には結果を示して下さい。

履修のポイント

既存学習をふまえ、主体的・積極的に実習にのぞむこと。
受け持ち患者の病態生理を把握し現状をアセスメントすること。
患者の立場に立ち必要な看護援助の優先順位を決定すること。

オフィス・アワー

実習病院及び学内で対応をします。

講義コード	10820001
講義名	精神看護学概論
(副題)	【教職必修】
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	前期（重複①）
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	火曜日
代表時限	3 時限
区分	専門科目
必修/選択	必修
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 永井 道子	指定なし

授業の概要

精神医療看護の歴史と現状、人権尊重と倫理的配慮の重要性、及び看護師の役割について学ぶ。体験学習を通して精神の健康を保持増進するための看護援助方法を理解する。精神障がい者を支える精神保健福祉対策の現状と課題について考える。

教育目標

精神看護の歴史・現状・援助方法を学ぶことにより、精神看護を実践するための基礎的能力を修得する。

到達目標

- 1.精神医療看護の歴史と現状を理解し、今後の課題について考えることができる。
- 2.精神看護を展開する上で基本となる様々な看護理論について理解できる。
- 3.精神看護において患者と看護師の人間関係が重要であると理解できる。
- 4.心の健康を保持増進させるための援助方法について理解できる。
- 5.精神障がいに関係する法制度について理解できる。

授業計画

	主題	授業内容
第1回	メンタルヘルスの現状と課題	精神/心の健康 世界と日本におけるメンタルヘルスの現状
第2回	精神医療看護の歴史	欧米における精神医療看護の歴史 日本における精神医療看護の歴史
第3回	精神看護における援助方法①	精神看護の主な理論 患者-看護師関係 信頼関係の確立
第4回	精神看護における援助方法②	危機の概念と危機介入 リエゾン精神看護 リラクセーション技法
第5回	看護カウンセリング①	心の健康と人間関係 自己理解と自己表現
第6回	看護カウンセリング②	傾聴、受容、共感
		地域精神保健活動

第7回	精神保健福祉の現状と看護活動	法制度
第8回	まとめ	精神看護学の展望
教科書		
武井麻子・他『《系統看護学講座 専門分野Ⅱ》精神看護学〔1〕精神看護の基礎』（医学書院）		
参考書		
授業中に紹介します。		
成績評価		
単位認定：60点以上 筆記試験（50％）、課題レポート（20％）、授業後の振り返りレポート（20％）、受講態度（10％）を合計して評価する。		
授業時間外の学習		
課題レポートを作成する。予習復習を行う。		
履修のポイント		
講義と体験学習により、心の健康と看護について深く考えることができるように授業を進めていきます。積極的に授業に参加してください。		
オフィス・アワー		
在室時、随時対応します。10号館2階研究室5		

講義コード	10840001
講義名	精神看護学実習
(副題)	
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	通年
講義区分	実験・実習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
区分	専門科目
必修/選択	必修
学年	3学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 田中 光子	指定なし

授業の概要

1. 精神看護学領域の病棟・地域活動支援センターにおいての実習を行う。
2. 精神疾患で入院中の患者を受け持ち、看護過程の展開・セルフケアを踏まえた援助を考え実施・評価する。

教育目標

精神に障がいを持つ人を、一人の生活者として捉える視点を養い、その人のセルフケア能力を高める看護の実際を学ぶ。さらに、地域で生活を営む上での必要な援助を理解する。

到達目標

1. 精神疾患・障害のある人（対象）の精神的・身体的・心理的・社会的側面から全体像をとらえ、対象を把握することができる。
2. 対象とのかかわりを通し、コミュニケーションスキルを高めることができる。
3. 対象の個別性を考慮し、援助を実践することができる。
4. 地域保健活動の重要性を理解し、対象が地域で暮らすための支援について学ぶことができる。

授業計画

	主題	授業内容
第1回	精神看護学領域実習を行う。	・ 事前学習を行い疾病等の知識をもつことができる。 ・ 対象のプロフィールを把握して、情報収集することができる。 ・ 薬物の作用・副作用を知り、注意事項や観察点を把握することができる。 ・ 対象の持てる力・問題点を知ることができる。 ・ 対象の個別性を考えた、看護の方向性を見出し立案・実施・評価ができる。 ・ 精神障がい者の対人関係の特徴を知り、基本的コミュニケーション技法をもとに関係を築くことができる。 ・ プロセスレコードから自分の言動を振り返ることができる。 ・ 対象の人権を尊重し、安全・安楽に考慮した援助をすることができる。 ・ 地域支援活動の必要性和、その実際を知ることができる。 ・ 精神に障害がある人が地域で生活することの意義を知ること

		ができる。
第2回	同上	同上
第3回	同上	同上
第4回	同上	同上
第5回	同上	同上
第6回	同上	同上
第7回	同上	同上
第8回	同上	同上
第9回	同上	同上
第10回	同上	同上
第11回	同上	同上
第12回	同上	同上
第13回	同上	同上
第14回	同上	同上
第15回	同上	同上
第16回	同上	同上
第17回	同上	同上
第18回	同上	同上
第19回	同上	同上
第20回	同上	同上
第21回	同上	同上
第22回	同上	同上
第23回	同上	同上
第24回	同上	同上
第25回	同上	同上
第26回	同上	同上
第27回	同上	同上
第28回	同上	同上
第29回	同上	同上
第30回	同上	同上

教科書

系統的看護学講座 精神看護の展開 精神看護学2：医学書院
全人的視点にもとづく精神看護過程 白石壽美子ほか：医歯薬出版会社

参考書

今日の治療薬 2016 南江堂（貸出あり）
多飲症・水中毒 ケアと治療の新機軸 医学書院（貸出あり）

成績評価

単位認定60点以上 実習目標の達成度、実習録記録、事前学習の内容などによって総合的に評価する。

授業時間外の学習

その日のうちに、臨地で学んだ内容や看護展開などの記録物は整理して、翌日の実習に備えてください。

履修のポイント

事前学習を活かして、主体的・積極的に臨地実習に参加してください。
オフィス・アワー
在室時・実習場所で随時対応します。

講義コード	10850001
講義名	高齢期看護学概論
(副題)	
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	火曜日
代表時限	5 時限
区分	専門科目
必修/選択	必修
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 林 圭子	指定なし

授業の概要

65歳以上の高齢者が増加し、医療、福祉に関する話題は社会的関心事になっている。本授業では、高齢者を理解するために必要な知識を学習する。さらに高齢者を取り巻く社会環境とその課題について学ぶ。

教育目標

高齢者の特徴を学び、高齢社会の現状を理解する。特に加齢にともなう生理的变化や高齢者看護の基本的考え方を理解する。

到達目標

1. 老いについて学び、高齢期の発達課題を理解できる
2. 高齢社会の現状を理解できる
3. 高齢者看護の基本的考え方を理解できる
4. 高齢者の加齢による変化を理解できる

授業計画

	主題	授業内容
第1回	高齢者とは？	1. 老いとは？ 2. 老年期とは？ 3. 老年期の発達課題
第2回	高齢者を取り巻く社会①	1. 高齢化の特徴 2. 高齢者医療
第3回	高齢者を取り巻く社会②	1. 高齢者の介護・福祉 2. 高齢社会における権利擁護
第4回	高齢者の特徴	1. からだ 2. こころ 3. 関わり 4. 暮らし 5. 生きがい 6. 歳月の積み重ね
第5回	高齢者看護の理念と目標	1. 高齢者看護の理念 2. 高齢者看護の目標 3. 理論・概念の活用
第6回	高齢期看護学における対象者理解①	1. 対象の特性 2. 対象理解 3. 対象理解に活用できる指標・アセスメント

第7回	高齢期看護学における対象者理解②	1. 加齢による身体機能の変化 2. 加齢による精神機能の変化
第8回	生活療養の支援と尊厳ある介護と看取り	1. 老年症候群 2. 廃用症候群 3. 尊厳ある介護 4. 尊厳ある看取り

教科書

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 北川公子他著 医学書院

参考書

ナーシンググラフィカ 老年看護学①高齢者の健康と障害 堀内ふき他著 メディカ出版

成績評価

単位認定60点以上。

授業時間外の学習

配布資料を整理し、本日の授業のまとめの項目について復習する。

履修のポイント

授業の復習が重要です。身近な高齢者に目を向けて考えてください。

オフィス・アワー

金曜日 12時30分～13時20分
在室時に対応します。

講義コード	10860001
講義名	高齢期看護方法
(副題)	
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	木曜日
代表時限	1 時限
区分	専門科目
必修/選択	必修
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 林 圭子	指定なし

授業の概要

高齢期を生きる人々の持つ多様な特性の理解を深める。高齢期の人々の正常な健康状態および正常から逸脱した健康状態とその回復過程に関する知識を学ぶ。さらに、高齢期にある人間の顕在する健康上の問題を解決・回避をめざした健全な発達を支援するための方法を学習する。この過程を通して効果的な看護を展開するための知識・技術を活用することの重要性を学習する。

教育目標

高齢期にある人々の健全な発達支援に向け、個別性に応じた看護を展開する方法を学習する

到達目標

1. 高齢期の人々の健康問題のアセスメントに必要な知識・技術を理解する 2. 高齢期の人々の健康問題の解決・緩和・回避に向けた支援方法を理解する 3. 高齢期の人々の健康問題を解決・緩和・回避するために必要な看護技術を修得する 4. 臨地実習で遭遇する頻度の高い事例を通して、個別に応じた看護過程の展開を修得する 5. 高齢期を生きる人々の健康状態と権利擁護について理解する

授業計画

	主題	授業内容
第1回	老年看護とは	1. 日本における高齢化 2. 高齢期看護の対象 3. 高齢者の生活機能の考え方 4. 高齢者ケアの特徴
第2回	看護過程 健康認識－健康管理	1. 看護過程の基本的な考え方 2. 情報収集とアセスメントの視点 3. 看護過程 4. 健康認識－健康管理パターン
第3回	高齢者の栄養－代謝①	1. 栄養－代謝パターンのアセスメント 2. 摂食嚥下障害
第4回	高齢者の栄養－代謝②	1. 脱水 2. 皮膚障害 3. 看護ケア
第5回	高齢者の排泄	1. 高齢者の排泄パターンのアセスメント 2. 排泄障害 3. 看護ケア
第6回	高齢者の活動－運動 高齢者の睡眠－休息	1. 高齢者の活動－運動パターンのアセスメント 2. 運動機能障害 3. 高齢者の睡眠－休息パターンのアセスメント 4. 睡眠障害

第7回	高齢者の認知－知覚	1. 高齢者の認知－知覚パターンのアセスメント 2. 認知障害 3. 看護ケア
第8回	高齢者の自己知覚－自己概念 高齢者の役割－関係	1. 高齢者の自己知覚－自己概念パターンのアセスメント 2. 高齢者の役割－関係パターンのアセスメント 3. 看護ケア
第9回	高齢者の性－生殖 高齢者のコーピング－ストレス耐性 高齢者の価値－信念	1. 高齢者の性－生殖パターンのアセスメント 2. 高齢者のコーピング－ストレス耐性パターンのアセスメント 3. 高齢者の価値－信念パターンのアセスメント 4. 看護ケア
第10回	高齢者の生活機能を支える看護	1. 基本動作と転倒予防 2. 清潔ケアと皮膚障害
第11回	疾患をもつ高齢者への看護ケア①	1. 脳血管疾患をもつ高齢者の看護ケア 2. 神経系疾患をもつ高齢者の看護ケア 3. 心疾患をもつ高齢者の看護ケア
第12回	疾患をもつ高齢者への看護ケア②	1. 運動器系疾患をもつ高齢者の看護ケア 2. 腎疾患をもつ高齢者の看護ケア
第13回	疾患をもつ高齢者への看護ケア③	1. 感染症をもつ高齢者の看護ケア 2. 認知症をもつ高齢者の看護ケア
第14回	検査・治療を受ける高齢者への看護ケア	1. 検査と看護ケア 2. 薬物療法と看護ケア 3. 手術療法と看護ケア
第15回	終末期の看護ケア	1. 高齢者における終末期ケア
第16回	在宅高齢者の看護ケア	1. 介護予防 2. 訪問看護 3. 保健医療福祉施設における看護
第17回	家族ケア	1. 介護家族の生活の健康 2. 家族アセスメント
第18回	看護過程の展開①	1. グループワークの進め方 2. 事例紹介
第19回	看護過程の展開②	情報整理
第20回	看護過程の展開③	アセスメント
第21回	看護過程の展開④	関連図作成
第22回	看護過程の展開⑤	関連図作成
第23回	看護過程の展開⑥	1. 看護上の問題の抽出 2. 優先順位の決定関連図作成
第24回	生活支援技術①	移乗・移動の援助方法
第25回	看護過程の展開⑦	看護計画作成
第26回	生活支援技術②	嚥下障害のある患者への援助方法
第27回	看護過程の展開⑧	1. 看護計画作成 2. 看護過程発表の準備
第28回	生活支援技術③	排泄障害のある患者への援助方法
第29回	看護過程の展開⑨	1. 看護過程の発表 1) 情報整理 2) アセスメント
第30回	看護過程の展開⑩	1. 看護過程の発表 1) 関連図 2) 看護計画

教科書

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 北川公子 医学書院
生活機能のアセスメントにもとづく老年看護過程 奥宮暁子他著 医歯薬出版株式会社

参考書

系統看護学講座 老年看護 病態・疾患論 佐々木英忠他編集 医学書院

成績評価

単位認定60点以上。学期末試験80% 課題レポート10% 看護過程10%

授業時間外の学習

講義後はノートを整理する。演習前に事前学習を行ない、演習後は事後レポートを提出する。看

護過程発表に向けて準備する。
履修のポイント
講義後は復習、演習前は事前学習が必要となります。グループワークでは協働作業が必要です。
オフィス・アワー
金曜日 12時30分～13時20分 在室時に対応します

講義コード	10870001
講義名	高齢期看護学実習Ⅰ
(副題)	
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	後期
講義区分	実験・実習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
区分	専門科目
必修/選択	必修
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 林 圭子	指定なし

授業の概要

地域で生活するいわゆる健康な高齢者と触れ合い、身体的状態・家庭・社会的状態など（客観的QOL）と高齢者の主観的満足感・生きがいなど（主観的QOL）の両面を把握する。また高齢者の生きがい、個別性、エンパワーメントを知ること、医療倫理の原則で最も重要な患者の自己決定権（個の尊厳、人権擁護）の必要性を理解する。

教育目標

地域で生活するいわゆる健康な高齢期にある対象の身体的・精神的・社会的特徴を理解し、生活習慣と健康との関連、さらに生活者としての高齢者支援を考えた個別性の看護の意義を学ぶ

到達目標

1. 高齢期にある人の生活史を理解する
2. 高齢期にある人の生活状態を理解する
3. 高齢期にある人の健康状態と健康増進への取り組みについて理解する
4. 高齢者への社会支援の役割を理解する
5. 高齢者の個別性を理解する

授業計画

	主題	授業内容	備考
第1回	学内実習	オリエンテーション・グループ別演習	
第2回	臨地実習	地域の高齢者の活動、コミュニケーションを通して高齢期にある人の生活史、生活状態、健康状態と健康増進への取り組みを理解する	老人クラブ連合会
第3回	臨地実習	1. デイサービス・デイケアを利用している高齢者の健康状態・生活状況を知る 2. デイサービス・デイケアの役割を理解し、利用している高齢者の通所目的を知る 3. アクティビティケアに参加観察する	通所介護施設・通所リハビリテーション施設等

第4回	臨地実習	1. デイサービス・デイケアを利用している高齢者の健康状態・生活状況を知る 2. デイサービス・デイケアの役割を理解し、利用している高齢者の通所目的を知る 3. アクティビティケアに参加観察する	通所介護施設・通所リハビリテーション施設等
第5回	学内実習	グループ別演習・実習のまとめ	

教科書

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 北川公子他著 医学書院

参考書

ナーシンググラフィカ 老年看護学① 高齢者の健康と障害 堀内ふき他著 メディカ出版

成績評価

単位認定60点以上。実習評価・実習態度・指導者評価を総合的に判断する。

授業時間外の学習

実習前の事前課題を十分学習することが必要である。実習時の記録を整理する。

履修のポイント

事前学習、グループワーク、臨地実習で構成されています。臨地実習前の事前学習やグループワークが重要です。積極的に各々参加してください

オフィス・アワー

金曜日：12時30分～13時20分
在室時是对应します。

講義コード	10880001
講義名	高齢期看護学実習Ⅱ
(副題)	
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	通年
講義区分	実験・実習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
区分	専門科目
必修/選択	必修
学年	3学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 林 圭子	指定なし

授業の概要

健康障害をもつ高齢者を受け持ち、看護過程を展開する。高齢者にとっての健康障害の状況や生活機能障害の状況を踏まえたうえで、個別性の看護計画を立案し、実施・評価・修正する。高齢者への看護実践を通して、高齢者の自己決定の尊重やその人らしい生き方、尊厳について考える。

教育目標

高齢期にある対象の発達課題と特徴、高齢者を取りまく環境に基づいて対象を理解する。また健康レベルに応じた自立への支援と、高齢者が人間としての尊厳を保ち、高齢者の生活の質を考慮した看護が提供できる

到達目標

- 1 高齢期にある対象の発達課題と特徴、高齢者を取り巻く環境にもとづいて対象を理解する
- 2 高齢期にある対象の顕在・潜在する看護問題を身体・心理・社会的側面からアセスメントする
- 3 高齢期にある対象の顕在・潜在する看護問題の解決にむけた個別的看護計画を立案・実施・評価する
- 4 看護実践を通して、看護の意義を理解する

授業計画

	主題	授業内容
第1回	学内実習・臨地実習	オリエンテーション・事前課題・情報収集
第2回	臨地実習	情報収集・アセスメント
第3回	臨地実習	情報収集・アセスメント
第4回	臨地実習	関連図・看護問題抽出
第5回	学内実習	看護計画立案・個別面接
第6回	臨地実習	看護計画実施・評価・修正
第7回	臨地実習	看護計画実施・評価・修正
第8回	臨地実習	看護計画実施・評価・修正
第9回	臨地実習	看護計画実施・評価・修正
第10回	学内実習	個人面接・記録・まとめ

教科書
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 北川公子他著 医学書院 生活機能のアセスメントにもとづく老年看護過程 奥宮暁子他著 医歯薬出版株式会社
参考書
看護実践のための根拠がわかる老年看護技術 泉キヨ子他著 メヂカルフレンド社 根拠と事故防止からみた老年看護技術 亀井智子編 医学書院
成績評価
単位認定60点以上 実習評価（教員・指導者）、実習態度、実習記録、面接に基づき総合的に評価する
授業時間外の学習
事前学習および毎日の実習記録を整理する。
履修のポイント
臨地実習でできなかったことは調べて自己の知識とする。
オフィス・アワー
金曜日 12時30分～13時20分 在室時に対応します

講義コード	10890001
講義名	在宅看護学概論
(副題)	【教職必修】
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	前期（重複②）
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	火曜日
代表時限	3 時限
区分	専門科目
必修/選択	必修
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 永井 道子	指定なし

授業の概要

現在わが国は少子・高齢社会、人口の減少、医療資源の有効活用など様々な課題を抱えています。医療制度改革においても病院から在宅への円滑な移行が進められています。また、療養者には、できる限り住み慣れた地域で家族や友人と暮らし続けたいというニーズがあります。これらの社会情勢や療養者のニーズに対応するため、在宅看護の必要性は高まっています。在宅看護の特徴、展開方法及び制度など、在宅で療養する人々を看護するうえで必要となる基本的な知識について学びます。

教育目標

在宅看護の特徴・制度・現状・看護展開方法を学ぶことにより、在宅看護を実践するための基礎的能力を修得する。

到達目標

1. 在宅看護が目指す方向性と看護師の役割について理解できる。
2. 在宅看護の対象者の特徴と看護の必要性について理解できる。
3. 在宅看護に関連する諸制度の内容について理解できる。
4. 在宅看護過程を展開するための情報収集とアセスメント方法について理解できる。
5. 在宅療養者と家族を支える社会資源の種類や関係職種を知り、連携の方法と必要性について理解できる。
6. 在宅看護の現状を学ぶことにより、在宅看護（訪問看護）が抱える問題と課題について考えることができる。

授業計画

	主題	授業内容
第1回	生活の場での療養	地域で生活しながら療養すること
第2回	在宅看護の目的と特徴	在宅看護の目的 看護師の役割と機能
第3回	在宅看護の対象者	在宅療養者 家族
第4回	在宅看護の制度	訪問看護制度 介護保険制度 地域包括ケアシステム
		在宅看護過程の特徴

第5回	在宅看護の展開①	在宅看護過程の展開方法
第6回	在宅看護の展開②	多職種との連携 安全性の確保
第7回	在宅看護の展開③	災害時の在宅看護 対象者の権利保障
第8回	まとめ	在宅看護学の展望

教科書

秋山正子・他『《系統看護学講座 統合分野》在宅看護論』(医学書院)

参考書

岡崎美智子『根拠がわかる在宅看護技術』(メヂカルフレンド社)

臺有桂・他編『ナースィング・グラフィカ 在宅看護論：地域療養を支えるケア』(メディカ出版)

成績評価

単位認定：60点以上

筆記試験（50％）、課題レポート（30％）、受講態度〔参加・貢献度〕（20％）を合計して評価する。

授業時間外の学習

教科書を読み予習復習を行う。課題レポートを作成する。

履修のポイント

在宅看護に関する基本的知識について学びます。積極的に授業に参加してください。日々の在宅療養に関するニュースや新聞記事に関心をもってください。

オフィス・アワー

在室時、随時対応します。10号館2階研究室5

講義コード	10900001
講義名	在宅看護方法
(副題)	
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	5 時限
区分	専門科目
必修/選択	必修
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 永井 道子	指定なし

授業の概要

在宅における看護展開方法と技術について学ぶ。療養者と家族を対象に、基礎看護学、成人看護学、老年看護学等で学んだ内容を応用して、在宅における看護援助を考える。演習では事例をもとに看護過程を展開する。グループで療養者と家族を対象にした看護援助方法について話し合い、看護計画を立案し発表する。

教育目標

在宅看護の技術について学び、事例をもとに看護過程を展開することにより、在宅看護を実践するための基礎的知識と技術を修得する。

到達目標

1. 療養者と家族の生活を尊重した在宅での援助が理解できる。
2. 家族の負担が軽減できるよう支援することの必要性が理解できる。
3. 在宅で求められる看護技術について理解できる。
4. 在宅における医療管理を必要とする看護について理解できる。
5. 事例をもとに在宅看護過程を考えることができる。

授業計画

	主題	授業内容
第1回	在宅看護の展開方法	信頼関係の構築 「生活」の視点 在宅療養者と家族のニーズ 在宅看護介入時期別の特徴
第2回	在宅看護の技術①	呼吸機能／食生活・嚥下／排泄
第3回	在宅看護の技術②	移動・移乗／清潔
第4回	在宅看護の技術③	認知機能／終末期看護
第5回	在宅における医療技術①	褥創／尿道留置カテーテル
第6回	在宅における医療技術②	ストーマ（人工肛門・人工膀胱）／経管栄養
第7回	在宅における医療技術③	在宅中心静脈栄養法（HPN）／非侵襲的陽圧換気療法（NPPV）

第8回	在宅における医療技術④	在宅酸素療法（HOT）／在宅人口呼吸療法（HMV）／疼痛コントロール
第9回	在宅看護技術のまとめ	在宅看護の実践
第10回	在宅看護過程	事例展開
第11回	在宅看護過程	事例展開
第12回	在宅看護過程	事例展開
第13回	在宅看護過程	在宅看護過程発表
第14回	在宅看護過程	在宅看護過程発表
第15回	在宅看護過程	在宅看護過程発表

教科書

秋山正子・他『＜＜系統看護学講座 統合分野＞＞在宅看護論』（医学書院）

参考書

岡崎美智子『根拠がわかる在宅看護技術』（メヂカルフレンド社）

臺有桂・他編『ナースング・グラフィカ 在宅看護論：地域療養を支えるケア』（メディカ出版）

成績評価

単位認定：60点以上

筆記試験（50％）、課題レポート（30％）、受講態度〔参加・貢献度〕（20％）を合計して評価する。

授業時間外の学習

教科書を読み予習復習を行う。課題レポートを作成する。

履修のポイント

在宅における看護技術と看護過程について学びます。グループワークを行いますので、積極的に参加してください。

オフィス・アワー

在室時、随時対応します。10号館2階研究室5

講義コード	10910001
講義名	在宅看護学実習
(副題)	
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	通年
講義区分	実験・実習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
区分	専門科目
必修/選択	必修
学年	3学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 永井 道子	指定なし

授業の概要

在宅看護の特徴は、対象となる人々の「生活」の場で看護を展開するという点にある。そのため、人々の生き方、生活、健康に対する価値観や主体性を尊重しながら、自立支援や自己決定という視点を持ち、療養生活の維持と質の向上を図ることが在宅看護の目的となる。在宅看護学実習では、在宅看護の対象者である療養者とその家族の特徴や援助方法、地域包括ケアシステムや社会資源の活用・調整方法、保健医療福祉の様々な職種との連携や協働の必要性、その中での看護の役割について学習する。

教育目標

在宅療養者及び家族における健康障害と生活への影響を総合的にとらえ、在宅看護の特徴を理解する。療養者と家族の特性に応じた看護を実践するための基礎的能力を修得する。

到達目標

1. 療養者の疾患・障害が、療養生活に及ぼしている影響を総合的に理解できる。
2. 療養者と家族の生活・健康に関する価値観や主体性を尊重することの重要性が理解できる。
3. 在宅療養における家族の状況と役割を知り、家族を対象とした看護の必要性が理解できる。
4. 療養者と家族のケアニーズと個別性を尊重した援助計画が立案できる。
5. 療養者と家族の意向を踏まえたマネジメントと療養生活の調整について理解できる。
6. 療養者と家族の生活を支援する社会保障制度及び社会資源の活用方法が理解できる。
7. 地域包括ケアシステムにおける関係機関との連携と、在宅ケアチームにおける看護職の役割・機能が理解できる。
8. 療養者の権利の擁護、人権の尊重の重要性について理解できる。
9. 看護学生として看護専門職の自覚を持ち、実習に積極的に取り組むことができる。

授業計画

	主題	授業内容
第1回	実習方法	桐生市地域包括支援センター1日、居宅介護支援事業所1日、介護サービス関連施設1日、訪問看護ステーション4日、学内で3日（オリエンテーション、最終まとめ含む）実習する。
第2回	（3日間）在宅関連施設での実	各施設の役割・事業・支援の実際を学び、地域包括ケアシステムにおける関係機関の連携・協働と、対象の特性に応じた援助方法について理解する。

	習	
第3回	(4日間)訪問看護ステーション	看護師と同行訪問し、事例の看護過程を展開することにより、在宅看護の実際と看護職の役割・機能について理解する。
第4回		実習初日にオリエンテーションを行う。 実習中のカンファレンス・報告会等を通して学習体験を共有する。 実習最終日には実習のまとめ及びカンファレンスを行う。 実習施設、実習スケジュール等については実習開始時期に説明する。

教科書

在宅看護論実習要項を配布する。
秋山正子・他『＜系統看護学講座 統合分野＞在宅看護論』（医学書院）

参考書

岡崎美智子『根拠がわかる在宅看護技術』（メヂカルフレンド社）
臺有桂・他編『ナースング・グラフィカ 在宅看護論：地域療養を支えるケア』（メディカ出版）

成績評価

単位認定：60点以上
到達目標の達成状況：100%

授業時間外の学習

事前学習課題は、実習初日に持参する。予習、記録の整理等を行う。また日常生活援助技術を経験することが多いため、練習を行っておく。

履修のポイント

在宅看護学実習の対象者は小児から高齢者まで幅広く、疾患もさまざまである。また、対象者の家族、取り巻く環境、地域も看護の対象となる。病院や施設における実習で学んだ知識・技術を最大限に活用し、在宅療養生活を援助する看護について学びを深める。

オフィス・アワー

在室時、随時対応します。10号館2階研究室5

講義コード	10920001
講義名	公衆衛生看護学概論
(副題)	【教職必修】 【保健師必修】
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	2 時限
区分	専門科目
必修/選択	必修
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 檀原 三七子	指定なし

授業の概要

公衆衛生看護学の理念、歴史的背景や地域保健活動の変遷等を踏まえ、地域住民の健康レベルやQOLの向上のために公衆衛生看護の果たす役割や期待される能力について理解する。また、諸外国の公衆衛生看護活動や国際協力のあり方および多国籍化する地域住民への取り組みについて学習する。

教育目標

地域を基盤とした公衆衛生看護の考え方に焦点を当て、対象の捉え方、住民の生活環境と健康課題、多様化する社会現象と健康課題に対応する保健師の役割について理解することが目的である。

到達目標

- 1) 個人・家族・集団・地域を対象とした看護領域であることを理解することができる。
- 2) 地域で生活する人々の健康課題について考えることができる。
- 3) 地域の健康課題と保健計画について理解することができる。
- 4) 公衆衛生看護活動における集団的支援・個別的支援について説明することができる。
- 5) 公衆衛生看護活動における現状の問題を踏まえて今後の課題について説明することができる。

授業計画

	主題	授業内容
第1回	授業ガイダンス 公衆衛生看護学の理念	・公衆衛生看護の定義 ・公衆衛生看護の理念
第2回	公衆衛生の理念	・健康の定義 ・疾病予防（一次、二次、三次予防）の概念 ・ヘルスプロモーション
第3回	公衆衛生の概念	・ソーシャルキャピタルとは ・健康日本21
第4回	公衆衛生看護の倫理	・保健師の活動と倫理的問題 ・情報社会における倫理と保護
第5回	公衆衛生看護の対象	・個人、家族、グループ・組織、地域を活動の対象とする捉え方
第6回	公衆衛生看護活動の場	・保健所、市町村、福祉分野における保健師の活動

		・医療施設と社会福祉施設における保健師
第7回	社会情勢の変化と健康課題(1)	・人口構成及び疾病構造の変化 ・経済や産業構造の変化と健康課題
第8回	社会情勢の変化と健康課題(2)	・地球環境、生活環境の変化と健康への影響 ・自然災害と健康 ・健康課題解決のための資源(中間テスト)
第9回	公衆衛生看護活動の展開(1)	・公衆衛生看護活動の展開の基本 ・地域診断に基づくP D C Aサイクル
第10回	公衆衛生看護活動の展開(2)	・保健計画の策定と実践、評価
第11回	公衆衛生看護活動の展開(3)	・健康危機管理とリスクマネジメント
第12回	公衆衛生看護の歴史(1)	・日本における公衆衛生看護活動の歴史
第13回	公衆衛生看護の歴史(2)	・外国の公衆衛生看護活動の歴史
第14回	公衆衛生看護の国際的視点	・国際協力と公衆衛生 ・多文化共生社会における健康課題
第15回	総括	・公衆衛生看護管理 ・まとめ(まとめテスト)

教科書

標美奈子・他『標準保健師講座 1 公衆衛生看護学概論(第4版)』(医学書院)

参考書

(1)国民衛生の動向(厚生労働統計協会)(2)保健師業務要覧(日本看護協会保健師職能委員会)(3)公衆衛生(MCメディカ出版)※教科書の補足資料として、使用します。

成績評価

単位認定:60点以上
定期試験(中間+まとめ)80% ミニテスト20%

授業時間外の学習

各回の主題に対しテキストをよく読み予習して講義に臨みましょう。講義終了後は配付資料等をよく読み復習しましょう。

履修のポイント

公衆衛生看護は法律に基づくものが多いので、関連づけて覚えるといいでしょう。理解状況の確認のためミニテストなどを行います。

オフィス・アワー

研究室に在室している時は対応しますが、アポを取っていただけると助かります。

講義コード	10930001
講義名	公衆衛生看護活動論Ⅰ
(副題)	【保健師必修】
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	1 時限
区分	専門科目
必修/選択	選択
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 檀原 三七子	指定なし

授業の概要

公衆衛生看護活動は、地域の健康問題や健康課題の改善・解決に向けた看護実践の中で、個人・家族、グループ、組織、地域への支援を行っている。公衆衛生看護活動の展開に必要な看護援助方法と基本的な技術を習得する。

教育目標

地域の人々の健康な生活を支援するために必要な看護援助方法を理解し、基本的な看護援助技術を習得する。

到達目標

- 1) 公衆衛生看護活動の実践のための基本的な技術、方法について理解する。
- 2) 公衆衛生看護の基盤となるさまざまな理論を理解する。
- 3) 地域診断の意義と方法について理解する。
- 4) 家庭訪問および健康教育の意義と方法について理解する。
- 5) グループ支援・地区組織育成支援の意義と方法について理解する。

授業計画

	主題	授業内容
第1回	公衆衛生看護活動論ガイダンス 個人・家族への支援①	・授業の進め方 ・家庭訪問について
第2回	個人・家族への支援②	・家庭訪問の法的根拠・家庭訪問による支援計画と方法、評価
第3回	個人・家族への支援③	・健康相談（保健指導）の目的、対象、支援、評価
第4回	個人・家族への支援④	・家庭訪問・相談で活用できる理論と技術
第5回	個人・家族への支援⑤	・健康診査の目的、対象、方法、評価
第6回	集団・組織への支援①	・地域組織活動の歴史
第7回	集団・組織への支援②	・地域組織活動の概念
第8回	集団・組織への支援③	・地域組織活動で活動できる理論
第9回	集団・組織への支援④	・グループ支援、評価

第10回	集団・組織への支援⑤	・地域組織活動の支援方法、評価
第11回	コミュニティへの支援①	・地域診断について
第12回	コミュニティへの支援②	・保健医療福祉関連の統計資料とその活用・地域把握の方法と実際
第13回	コミュニティへの支援③	・健康教育 ・ポピュレーションアプローチ
第14回	コミュニティへの支援④	・地域診断に基づく健康教育のテーマ設定①
第15回	コミュニティへの支援⑤	・地域診断に基づく健康教育のテーマ設定②
第16回	コミュニティへの支援⑥	・健康教育の企画書と指導案の作成①
第17回	コミュニティへの支援⑦	・健康教育の企画書と指導案の作成②
第18回	コミュニティへの支援⑧	・健康教育の企画書と指導案の作成③
第19回	コミュニティへの支援⑨	・健康教育の企画書と指導案の作成④
第20回	コミュニティへの支援⑩	・健康教育の企画書と指導案の作成⑤
第21回	コミュニティへの支援⑪	・健康教育の企画書と指導案の作成⑥
第22回	コミュニティへの支援⑫	・健康教育の企画書と指導案の作成⑦
第23回	コミュニティへの支援⑬	・健康教育の発表①
第24回	コミュニティへの支援⑭	・健康教育の発表②
第25回	コミュニティへの支援⑮	・健康教育の評価①
第26回	コミュニティへの支援⑯	・健康教育の評価②
第27回	地域ケアシステムの構築①	・地域ケアシステムの概念
第28回	地域ケアシステムの構築②	・ネットワークの形成とシステムづくり
第29回	地域ケアシステムの構築②	・地域ケアシステムの実際
第30回	公衆衛生看護活動論のまとめ	・まとめ

教科書

中村裕美子・他『標準保健師講座 2 公衆衛生看護技術』（医学書院）
 標美奈子・他『標準保健師講座 1 公衆衛生看護学概論(第4版)』（医学書院）

参考書

- ・『国民衛生の動向』（厚生労働統計協会）2016
- ・エリザベス T. アンダーソン他・編『コミュニティアズパートナー地域看護学の理論と実際（第2版）』（医学書院）2007
- ・守田孝恵編著 展開図でわかる「個」から「地域」へ広げる保健師活動 クオリティケア 2013

成績評価

単位認定：60点以上
 定期試験（50％） 記録（レポート含む）15％ 演習への参加態度20％ プレゼンテーション15％

授業時間外の学習

授業に必要な資料を事前に準備していただくことがあります。発表の準備等が間に合わない場合は、宿題にします。

履修のポイント

保健師課程の科目です。グループワークが多いので、欠席しないで協調性をもって臨んでください。授業内容に変更がある場合は、その都度連絡します。

講義コード	10940001
講義名	公衆衛生看護活動論Ⅱ
(副題)	【保健師必修】
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
区分	専門科目
必修/選択	選択
学年	3学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 高橋 美砂子	指定なし

授業の概要

あらゆる発達段階、健康状態に対応する保健活動として、地域の母子保健活動、成人・高齢者保健活動、障害者（児）保健活動、精神保健活動、難病保健活動、感染症保健活動等の実際を学ぶ。各種保健活動における関係機関と職種の協働と連携の重要性について理解をする。

教育目標

あらゆる発達段階、健康状態に対応する保健活動の対象者の特性と社会背景、活動の基盤となる法律や制度について学習し、保健師の具体的な活動について理解を深めることが目的である。

到達目標

1) 地域における母子保健活動について理解する。2) 地域における成人保健活動について理解する。3) 地域における高齢者保健活動について理解する。4) 難病保健活動について理解する。5) 精神保健福祉活動について理解する。6) 障害者（児）保健活動について理解する。7) 感染症保健活動について理解する。

授業計画

	主題	授業内容	備考
第1回	授業ガイダンス 地域の母子保健活動(1)	・授業の進め方、公衆衛生看護学実習に向けた事前学習の意義 ・統計と法律の活用方法 ・母子保健の基本統計	
第2回	地域の母子保健活動(2)	・母子保健活動の対象 ・健康課題と社会背景 ・活動の基盤となる法律と制度（健やか親子21）	
第3回	地域の母子保健活動(3)	・乳幼児健診、訪問指導における保健師役割 ・こども虐待の社会的背景と保健師対応	
第4回	地域の成人保健活動(1)	・健康日本21（第2次） ・成人保健活動の対象、健康課題、社会背景 ・活動の基盤となる法律と制度特	
第5回	地域の成人保健活動(2)	・メタボリックシンドロームとは ・生活習慣病予防対策 ・特定健診、特定保健指導 ・がん対策	
	地域の高齢期保健	・高齢者保健活動の対象 ・健康課題と社会背	

第6回	活動	景・介護保険制度・地域包括支援センターと保健師の役割	
第7回	地域における精神保健活動(1)	・統計からみた精神保健活動の現状と保健師の役割	
第8回	地域における精神保健活動(2)	・地域の中の自殺予防対策（ゲートキーパーの役割） 外部講師（保健所保健師）	外部講師の都合で、日程変更有り 【中間授業評価】
第9回	地域における難病保健活動	・難病とは・難病対策要綱・難病に対する保健医療福祉の支援について・ALSの地域ケアシステム	
第10回	地域における障害者（児）保健活動	・障害者（児）保健活動の対象・健康課題と社会背景・活動の基盤となる法律と制度・保健師の役割	
第11回	地域における感染症保健活動(1)	・感染症とは・感染症の予防対策と動向・活動の基盤となる法律と制度	
第12回	地域における感染症保健活動(2)	・結核管理、予防接種、HIV、AIDS、の動向と相談体制、医療機関との連携	
第13回	地域における歯科・口腔保健保健活動	・生涯を通じた歯科口腔保健・摂食嚥下機能低下予防対策・自己管理（セルフケア）	
第14回	地域の健康課題と在宅看護	・介護者を抱える家族への支援・訪問看護との連携協働 ・地域ケアシステムとは	
第15回	地域保健活動を支える人材の育成と今後の展望	・地域保健活動において連携協働する専門職と機関・まとめテスト	【最終授業評価】

教科書

(1) 標準保健師講座3 対象別公衆衛生看護活動論第3版（医学書院）(2) 国民衛生の動向2017/2018（厚生統計協会）必要時資料を配布します。

参考書

必要時、紹介します。

成績評価

単位認定は60点以上です。提出物40% まとめテスト60%を基本とする。

授業時間外の学習

ワークノートを用いて、授業を進めます。授業時間内にできない場合は、宿題とします。

履修のポイント

公衆衛生看護学実習に行くために必要な知識を確認し、自分でノートに整理する学習を行います。学習単元毎に国家試験対策を見据えた確認テストを行ないますので、欠席しないように心がけてください。【保健師課程の必修科目】

オフィス・アワー

研究室に在室時は対応します。

講義コード	10970001
講義名	公衆衛生看護学実習
(副題)	【保健師必修】
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	後期
講義区分	実験・実習
基準単位数	5
代表曜日	
代表時限	
区分	専門科目
必修/選択	選択
学年	3学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 高橋 美砂子	指定なし
教員	檀原 三七子	指定なし

授業の概要

公衆衛生看護で学んだことが地域でどのように展開されているのか実際に学習する。またそのための事前演習を行う。保健所、市町村保健センター、事業所等の実習を通して、保健師の実際の活動を知り、その役割を理解する。地域住民に対して健康課題解決と健康増進の支援方法を体験する。

教育目標

地域の人々の健康な生活を支援するために、保健師の役割について理解する。また、保健師に必要な知識や技術について理解を深め、看護専門職としての態度を養うことを目的とする。

到達目標

1. 地域で生活する個人・家族・集団の健康を守るための地域保健活動の展開方法を学ぶ。
2. 主な公衆衛生看護活動における保健師の支援技術の特徴を学ぶ。
3. 地域での保健活動（健康危機管理含）における関係機関・職種との連携・協働の方法と保健師の役割を学ぶ。
4. 産業や学校における健康課題とそれに対応する専門職の役割を理解する。
5. 専門職として、また組織の一員としての責任と態度を学ぶ。

授業計画

	主題	授業内容	備考
第1回	1週目： 実習事前学習	・ 地域診断：各種統計資料の収集と分析、地区踏査 ・ 演習：家庭訪問、乳幼児健診のロールプレイ ・ 健康教育の準備、中間発表会実施	学内演習 実習地域での踏査
第2回	2～4週目： 保健所、保健	(1)臨地での実習オリエンテーション：地域の概要、実施されている保健事業について理解する。(2)保健師に同行し、各種保健事業に参加する。事後のカンファレンスの参加し、フォローアップの方法を知る。(3)家庭訪問に同行する。(4)健康教育を実施する。(5)年間保健計画の立案、実施、評価（PDCAサイクル）	実習地域内の移動あり。事前に行き先と時間を確認し

	センターにおける実習	ル) について説明を受ける。(6)事務室実習：窓口業務、事前準備、他の専門職との調整等、保健師が行う事務作業について理解する。	て、遅れず到着すること。
第3回	5 週目：事業所実習実習の総括	(1)事業所（健康管理センター、産業保健センター等）における保健師の役割について理解する。(2)学習成果の発表、実習報告書の作成、記録物の提出	1 日の見学実習ですので、事前学習をしっかりと臨む。期限に指定された形式に整えて、記録物を提出する。

教科書

平成28年度群馬県保健福祉統計CD-ROM版（県庁で一括購入します）

参考書

(1)国民衛生の動向2017/2018 厚生統計協会 (2)実習保健所・市町村からの資料 (3)市町村地図等

成績評価

単位認定は60点以上。実習中の態度、事前学習、サブノートの活用、記録物、事後報告書等を勘案し総合的に評価する。

授業時間外の学習

充実した実習内容にするために、事前準備はしっかりと臨むこと。実習記録は、毎日記載する。

履修のポイント

寒い時期なので、体調管理に留意し、欠席しないようにしましょう

オフィス・アワー

実習中は、指導担当教員といつでも連絡できよう連絡方法の確認をしておく。

講義コード	10980001
講義名	養護概論
(副題)	【教職必修】
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
区分	専門科目
必修/選択	選択
学年	3学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 黒岩 初美	指定なし

授業の概要

- ・教育職員免許法に示された「養護概説」の趣旨に基づき養護教諭の職務に関する事項を概説する。
- ・第1回目に、オリエンテーションを行なう。第2回目は、学校教育全体の構造、学校教育・学校保健の関係法令、教育行政の仕組み等学校教育の基本的事項を学ぶ。
- ・第3回目以降、「養護」の本質や概念、歴史的沿革、職務内容の変遷、養護教諭の職務内容などの養護教諭の『職』について学ぶ。

教育目標

学校保健を推進する中核的役割をもつ養護教諭の職務と機能、役割を理解させ、児童生徒の健康問題の解決方法と技術について、専門的・実践的に学ばせる。

到達目標

「養護」の本質や概念、沿革、職務内容の変遷を理解するとともに、児童生徒の健康・安全を守り、課題を解決するための、学校保健活動の在り方を理解することができる。

授業計画

	主題	授業内容
第1回	オリエンテーション 教育関係法令と教育行政 養護教諭養成	教育関係法令等、教育行政、教育改革の動向 免許取得と教育機関、免許取得に必要な科目
第2回	学校教育と学校保健 養護教諭の職務	教育の目的と目標、学校経営、教育課程と学習指導要領、学校保健 養護教諭の制度の変遷、養護教諭の職務
第3回	児童生徒の発育発達と健康課題	幼児期、児童期、青年前期・後期の発育発達と子どもの健康課題の推移 各発達段階に即した保健指導

第4回	保健管理 保健室経営 学校における 救急処置	学校における救急処置の目的、特質、学校事故の特徴、学校救急処置の範囲、救急体制の確立、教職員の指導監督責任、学校管理下における事故発生時の対応・ポイント
第5回	健康診断 職員健康診断 健康診断 の実際	健康診断の法的根拠、定期の健康診断、臨時の健康診断、就学時の健康診断
第6回	健康診断の 実際	演習（身体測定・聴力、視力検査・内科検診・歯科検診等）
第7回	健康観察	健康観察の重要性と目的、法的根拠、機会と内容 疾病管理の目的と内容及び留意点
第8回	疾病管理	疾病管理の目的、内容と留意点、学校における感染症の予防と管理
第9回	精神保健 健康相談 学校における 教育相談	健康観察や見立てとの連続性、基本的な考え方、カウンセリングの必要性、養護教諭の役割
第10回	学校環境衛生	学校環境衛生の目的、養護役割教諭の関係法令 日常点検と措置、演習（水質検査、照度検査、二酸化炭素測定）
第11回	安全管理と 危機管理 保健室経営	学校安全とは、安全教育と安全管理の進め方、日本スポーツ振興センター保健室経営の重要性 保健室経営の重要性、保健室経営計画の作成について
第12回	学校における 健康教育	教科保健（保健学習）と特別活動における保健指導、啓発活動における保健教育のねらい、内容、進め方、教材の活用
第13回	保健教育	保健教育効果的な教材の活用、保健だより、掲示物の作成
第14回	保健指導の 構想	保健指導の授業構想、指導案作成と発表
第15回	保健指導の 構想とまとめ	保健指導の授業構想、指導案作成と発表、評価とまとめ

教科書

「新養護概説〈第9版〉」采女智津江 少年写真新聞社、2016

参考書

「養護学概論」理論と実践 岡田加奈子・河田子宝、東山書房、2016

成績評価

単位認定60点以上、筆記試験（40％）小テスト、レポート（50％）授業への参加度・学習態度等（10％）

授業時間外の学習

グループ学習を取り入れるので、各自が自学自習に励み互いに学びあいができるよう準備をすること。

履修のポイント

授業は学び方のヒントである。養護教諭の根本となる基礎基本であるので、復習予習をして授業に臨むこと。

オフィス・アワー

事前にアポイントを取ること。

講義コード	10990001
講義名	学校保健Ⅰ
(副題)	【教職必修】 【保健師必修】
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
区分	専門科目
必修/選択	選択
学年	3学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 黒岩 初美	指定なし

授業の概要

学校保健は、児童生徒の健康と安全の基礎を培い生涯の健康増進の基盤を作ることを目指している。学校保健の中核的役割を担う養護教諭の基礎教養となる。はじめに学校保健の目的と意義、変遷と沿革、学校教育における使命と目的を明らかにする。さらに、保健管理、保健教育、組織活動、ヘルスプロモーションの理念に基づいた学校保健の推進等についての理論と学校現場で実践する方法技術について、法的根拠を踏まえながら実践的に学習する。

教育目標

児童生徒の実態から健康課題を把握させ、健康課題の解決や健康の保持増進を図るための学校保健の組織活動と運営について理解させる。

到達目標

- ①学校保健の目的・意義と変遷を理解する。
- ②ヘルスプロモーションの理念を理解し、学校経営のもとに学校保健経営が運営されていることを学び、学校保健計画の試案を考えることができる。
- ③児童生徒の心身の健康実態を捉え健康の保持増進を図るための健康観察や健康診断、健康相談、組織活動について理解する。
- ④児童生徒の発育発達段階に即したニーズと学習指導要領に基づいた保健教育について理解することができる。

授業計画

	主題	授業内容
第1回	学校保健とは	学校教育と学校保健、関連する法律、概念と構造、学校経営と学校保健、これからの学校保健、地域保健と学校保健、学校保健経営と人権
第2回	学校保健経営 ヘルスプロモーション	学校保健経営、学校保健計画の作成、実施・評価 ヘルスプロモーションの概念と健康日本21、日本の学校教育におけるヘルスプロモーションの活動について
第3回	子ども発育発達と学校保健 健康観察	発育発達の考え方、発育発達の現状と課題、発育発達と個別指導の必要性 健康観察
		児童・生徒の健康診断（意義と目的、種類と実施

第4回	健康診断	者) 職員の健康診断
第5回	健康管理、健康相談と健康相談活動 健康（心身）・発達・行動上の課題を有する子への支援	健康相談、健康相談活動、精神保健 健康（心身）・発達・行動上の課題を有する子への支援 特別支援教育について
第6回	感染予防 危機管理及び学校安全	感染症の種類と予防、発生時の対応と出席停止等の措置 学教科・保健学習教科・保健指導、保健教育の評価 校安全の概要、安全教育と安全管理、組織活動、危機管理
第7回	学校環境衛生 健康教育	学校環境衛生活動について 学校における健康教育（必要性、位置づけ、担当者と役割） 保健教育、各教科・保健学習
第8回	健康教育 まとめ	保健学習・保健指導について、保健教育の評価

教科書

徳山美智子編著他『学校保健』（東山書房）2016年

参考書

衛藤隆、岡田加奈子『学校保健マニュアル』改訂8版 衛藤隆、岡田加奈子（南山堂）

成績評価

単位認定60点以上、課題レポート（40点）、小テスト（40点）、グループワークへの貢献・発表力（20点）

授業時間外の学習

教科書を活用し、予習を必ず行うこと。配布された資料や文献により復習を行うこと。

履修のポイント

児童生徒の健康課題や教育に関する時事問題にクリティカルシンキング。

オフィス・アワー

授業の前後に質問に応じる。また、個別相談したい場合は事前にアポイントを取ること。

講義コード	11000001
講義名	学校保健Ⅱ
(副題)	【教職必修】
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	2時限
区分	専門科目
必修/選択	選択
学年	4学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 黒岩 初美	指定なし

授業の概要

学校保健は、児童生徒の健康と安全の基礎を培い生涯の健康増進の基盤を作る目的と意義がある。学校保健Ⅰの理解に立って、養護教諭として学校保健を推進していくために保健管理における支援の実践を演習する。また、保健学習と保健指導の違いを新学習指導要領等より理解し、その理論と実践を学習する。

教育目標

学校における児童・生徒等、教職員の保持増進を図るため、保健管理、安全管理、保健教育、安全教育、組織活動の進め方について、校種別・発達段階別にあった現代的課題を設定して実践的に解決できるようにPDCAサイクルにそって具体的に試みさせる。

到達目標

- ①児童生徒等の心身の健康実態及び環境アセスメントからの情報を収集して課題を明確にすることができる。
- ②現代的な健康課題について取り上げ、学校における保健教育の進め方を具体的に考えることができる。
- ③学校感染症への対応を理解することができる。

授業計画

	主題	授業内容
第1回	オリエンテーション 養護教諭と学校保健活動 学校保健の領域内容、健康観察・保健指導	保健教育、保健管理、組織活動と養護教諭の職務について 健康観察の意義、方法および問題への対応、健康管理の個別的保健指導
第2回	学校保健活動 児童生徒の健康実態の把握 学校保健計画と学校保健関係職員	健康情報の収集方法について、各種調査、各種統計に基づく実態把握、学校保健計画の作成と学校保健関係職員の職務、保健室のあり方
第3回	学校保健管理～健	健康診断の種類と方法、事前準備から実際、健康問題の把握と

	康診断	事後措置
第4回	保健管理～救急処置 学校事故と安全管理	学校における救急処置の意義、救急処置の実際と保健指導及び健康相談の展開 安全管理と安全教育、危機管理体制、災害給付制度
第5回	保健管理～学校感染症への対応 学校環境衛生活動	学校感染症の種類、日常の学校生活の予防対策、発生時の対応と事前・事後の対応 学校環境衛生の意義、法的根拠、活動の計画と展開、検査の実際その他のほかの精神・心理的問題
第6回	健康教育 模擬授業に向けた教材研究	保健学習と保健指導、養護教諭の行う集団的保健指導指導案の作成、細案・教材の検討研究授業に向けた教材研究
第7回	授業発表と評価	授業発表、ディスカッションによる自他評価
第8回	ヘルスプロモーションと学校保健活動 まとめ	ヘルスプロモーションの理念に基づく生きる力を育む健康教育の推進

教科書

「学校保健」徳山美智子、中桐佐智子、岡田加奈子編著（東山書房）

参考書

「学校保健マニュアル」改訂8版 衛藤隆他（南山堂）、「新養護概説〈第7版〉」采女智津江編著（少年写真新聞社）

成績評価

単位認定60点以上、指導案、教材（概ね50%）、小テスト、提出物、グループへの貢献（概ね40%）、授業態度（10%）

授業時間外の学習

各自が積極的に自学自習に励むことを期待している。配布資料や指定された文献等により予習復習を行うこと。

履修のポイント

児童生徒の健康課題や教育に関する時事問題にクリティカルシンキング。

オフィス・アワー

事前にアポイントを取ること。

講義コード	11010001
講義名	学校保健Ⅲ
(副題)	【教職必修】
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	火曜日
代表時限	3 時限
区分	専門科目
必修/選択	選択
学年	4学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 黒岩 初美	指定なし

授業の概要

保健室登校や発達障害等への支援をはじめ、日常の学校生活を通して保健室を訪れる児童・生徒の心の健康問題の増加は社会的にも関心を集めている。学校保健安全法の改訂で第8条に健康相談が定められた。養護教諭が校内・外の専門家や専門機関と連携・協働して児童生徒の心身の健康問題に関わることが期待されている。養護教諭の職務と保健室の機能を生かして、児童・生徒の心身両面の問題を早期発見し、アセスメントして早期支援に繋ぐ健康相談活動が求められる。養護教諭の専門知識・技術・幅広い学際的判断力・人間力等の諸能力を統合する実践的指導力を養う。

教育目標

健康相談の基礎的知識・技法を踏まえ、組織的に対応するためにコーディネート力について理解し、養護教諭の職務に保健室の機能を生かした健康相談活動に必要な実践力を身に付ける。

到達目標

- ①児童生徒の発達過程、特別な支援を必要とする子どもの発達過程と現代的健康課題を知る。
- ②毎日の健康観察や保健室利用等から、気がかりな児童生徒を捉え、アセスメントと対応の方法について科学的に理解できる。
- ③児童生徒の支援に際して、チーム支援、環境調整、教師や保護者及び関係係者との連携と協働、コーディネーターの力量形成等について理解できる。

授業計画

	主題	授業内容
第1回	養護教諭と健康相談、保健室で行う健康相談活動	学校における教育相談、保健室の利用実態から捉える課題と保健室の相談活動について
第2回	健康相談の過程	事例から見る健康相談の過程、対象理解と見立て、支援ための方法と協働について 日常の保健室(救急処置) 場面、学校生活その他の場面での見立て、具体例を通して見立ての実際を知る
第3回	場面や「問題」に応じ	日常の保健室(救急処置) 場面での対応、「問題」や個に応じた対

	た健康相談の進め方	応、プロセスに応じた支援の種類と方法
第4回	健康相談/健康相談活動の実際	健康相談/健康診断の事後措置指導や日常的な短期の訴えに対する心身の問題について、事例検討する。要因、問題解決のための支援方法について、討議しまとめてミニレポートを提出する。
第5回	健康相談/健康相談活動の実際	健康相談/健康相談活動の実際をロールプレイ技法を通して学び、継続支援の必要な事例について事例検討する。要因、問題解決のための支援方法について、討議しまとめてミニレポートを提出する。
第6回	健康相談/健康相談活動の実際	不登校・保健室登校について事例検討する。発達課題に即した要因、問題解決のための支援方法について、討議しまとめてミニレポートを提出する。保護者や教職員間の共通理解、校外の組織との連携や協働の重要性を理解する。
第7回	健康相談/健康相談活動の記録と事例研究	健康相談/健康相談活動の記録のとり方、情報の共有と保秘義務の扱い、事例研究会の進め方ー発表のまとめ方、発表方法、質疑・ディスカッション等々
第8回	健康相談/健康相談活動のまとめと評価	健康相談/教育実習で経験した事例をグループワークを通して事例検討する。校内教職員間の共通理解や意志の疎通、校外の組織との連携や協働、組織活動について振り返る。健康相談活動における評価及び養護教諭の倫理綱領、今後の課題を捉える。

教科書

大谷尚子編著「養護教諭の行う健康相談」大谷尚子編著 東山書房

参考書

生徒指導提要（平成22年文部科学省）
 三木とみ子他「養護教諭が行う健康相談・健康相談活動の理論と実際」ぎょうせい
 森田光子著「養護教諭の健康相談ハンドブック」東山書房

成績評価

60点以上、グループへの貢献・発表力・ミニレポート（概ね60%）、授業態度（10%）、課題レポート（概ね30%）とする。

授業時間外の学習

各自が積極的に自学自習に励むことを期待している。配布資料や指定された文献等により予習復習を行うこと。

履修のポイント

社会問題に関心を持ち新聞等子どもの問題に関する報道を読みとる。

オフィス・アワー

事前にアポイントを取る。

講義コード	11020001							
講義名	学校保健Ⅳ							
(副題)	【教職必修】							
開講責任部署	看護学科							
講義開講時期	後期							
講義区分	講義							
基準単位数	1							
代表曜日	水曜日							
代表時限	2 時限							
区分								
必修/選択								
学年	4							
担当教員								
<table border="1"> <tr> <td>職種</td> <td>氏名</td> <td>所属</td> </tr> <tr> <td>教員</td> <td>◎ 丸本 真理</td> <td>指定なし</td> </tr> </table>			職種	氏名	所属	教員	◎ 丸本 真理	指定なし
職種	氏名	所属						
教員	◎ 丸本 真理	指定なし						
授業の概要								
救命時の子どもの迅速な延命知識、小児における代表的は症状とアセスメント及び援助方法を学習する。 また、学校生活、家庭生活における子どもの対応と問題を考える。								
教育目標								
小児の救急医療について学ぶ。 小児をとりまく環境と問題について考える。								
到達目標								
小児救急における看護師および、養護教諭の役割、知識、技術の概要を理解することができる。								
授業計画								
	主題	授業内容						
第1回	小児救急医療の現状	救急外来を訪れる小児患者の家族の特徴、小児救急医療における 看護師の役割と課題、小児医療の特徴など						
第2回	子どもの看護と家族ケアの実際	発熱、嘔吐、下痢、呼吸困難、腹痛、けいれん、誤飲、誤嚥、子どものけがの看護						
第3回	小児救急の実際	救急時の対応						
第4回	子どもと学校生活	学校生活でおこるえる事故と対応						
第5回	様々な子どもへの対応	学習障害児について						
第6回	虐待について	虐待を疑った時、及びその対応についてなど						
第7回	ビデオの視聴							
第8回	まとめ							
教科書								
子どもの看護と家族ケア（編）白石裕子 中山書店 系統看護学講座 小児看護概論 医学書院								
成績評価								

単位認定60点以上
履修のポイント
配布資料、教科書で復習を心がけて下さい。
オフィス・アワー
在室時に研究室で対応します。

講義コード	11040001
講義名	機能看護学Ⅰ
(副題)	
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	火曜日
代表時限	3 時限
区分	医療保健学部：専門科目
必修/選択	必修
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 伊藤 美鈴	指定なし

授業の概要

看護教育学は、看護学各領域の教育に共通して普遍的に存在する要素を対象として研究を展開する学問であり、この研究成果を活用することにより、看護学生を含むすべての看護職者個々人の発達を支援する。また、それを通し、質の高い看護を提供することを目指す。この授業においては、機能看護学の特徴および看護継続教育における学習ニードや教育プログラムの特徴に関して学習する。

教育目標

看護職者および看護学生の発達支援に向けて看護職者が教育的機能を発揮する意義と方法を学習する。

到達目標

1. 看護教育学の特徴を理解する。
2. 看護師養成教育、看護学教育の現状と課題を理解する。
3. 看護専門職の教育における主体的学習の意義を確認する。
4. 看護専門職が教育的機能を発揮する必要性を認める。
5. 看護教育学を学ぶ意義を認める。

授業計画

	主題	授業内容
第1回	I. 看護教育学の特徴	・看護教育学の定義 ・看護学教育、看護教育の違い ・看護教育学を学習する意義
第2回	II. 看護師養成制度の現状と課題（1）	・看護教育制度の成り立ち ・看護教育制度の特徴
第3回	II. 看護師養成制度の現状と課題（2）	・日本の看護教育制度の沿革 ・緒外国の看護教育制度の現状
第4回	III. 看護学教育課程	・学校教育法第83条、第108条、第124条、第134条 ・看護基礎教育課程のカリキュラムの特徴 ・大学と専門学校のカリキュラムの相違

		・大学において看護学を学ぶ意義
第5回	IV. 看護専門職に必要な自律的態度	・専門職の条件 ・教育評価に関する基本的知識 ・評価の用具を用いた自己評価の実際
第6回	V. 看護教育学の基盤	・アイデンティティ ・クリティカルシンキング ・リフレクション ・キャリアマネジメント
第7回	VI. 看護専門職者のキャリア・ディベロップメントと看護継続教育	・看護職者のキャリア・ディベロップメントと自律的継続学習 ・看護職者のキャリア・ディベロップメントと看護継続教育
第8回	まとめ	・DVD視聴 ・レポート課題

教科書

◆グレッグ美鈴、池西悦子編：看護学テキストN i c e 看護教育学 看護を学ぶ自分と向き合う、南江堂、2009.

参考書

- ◆杉森みどり、舟島なをみ：看護教育学 第6版、医学書院、2016.
- ◆平井さよ子：改訂版 看護職のキャリア開発、日本看護協会出版会、2009.
- ◆シラバス
- ◆配布資料

成績評価

レポート課題（15%）、筆記試験（85%）

授業時間外の学習

関連する科目としては、「看護原論Ⅰ」、「機能看護学Ⅱ（看護管理）」、「機能看護学Ⅲ（看護研究）」などが考えられます。これらの科目との知識の統合を図りましょう。

履修のポイント

各授業開始時に、出席表をお配り致します。その日の授業内容に即した感想・質問・意見・要望などが書かれていることによって、授業に出席したことを認めます。
レポートも評価の一部になりますので忘れずに提出されることを望みます。提出は、時間厳守でお願い致します。

オフィス・アワー

在室中で時間があればいつでも対応させていただきます。10号館2階11研究室です。

講義コード	11060001
講義名	機能看護学Ⅲ
(副題)	
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
区分	専門科目
必修/選択	必修
学年	3学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 永井 道子	指定なし

授業の概要

看護実践の質を高め、発展させていくうえで看護研究は重要な役割を果たします。看護実践の中から疑問や課題を明確にし、問題解決に向けた効果的な看護を探求していく能力を養うために、看護研究方法について学びます。

教育目標

看護研究方法の基本的知識と問題解決に向けた研究的思考を修得する。

到達目標

1. 看護研究の概要と意義について理解できる。
2. 看護実践の中から研究疑問を明確にすることができる。
3. 看護研究論文を読み検討することができる。
4. 研究実施時の倫理的配慮について理解できる。
5. 研究目的を達成するための研究計画について考えることができる。

授業計画

	主題	授業内容
第1回	看護研究とは	看護研究の発展と意義 研究疑問の明確化
第2回	看護研究における 文献検索と文献検討	文献検索の方法 文献検討の手順
第3回	看護研究に伴う倫理的な問題	倫理的な問題とその対応方法
第4回	看護研究方法	研究デザイン 量的研究と質的研究の特徴
第5回	量的研究	量的研究におけるデータ収集と分析方法
第6回	質的研究	質的研究におけるデータ収集と分析方法
第7回	研究計画書の作成	研究計画書を作成する。
第8回	まとめ	看護研究の実際

教科書

黒田裕子『黒田裕子の看護研究 Step by Step』（医学書院）

参考書
授業中に紹介します。
成績評価
単位認定：60点以上 課題レポート①（30％）、課題レポート②（30％）、課題レポート③（20％）、受講態度〔参加・貢献度〕（20％）を合計して評価する。
授業時間外の学習
教科書を読み予習復習を行う。授業内容をもとに課題レポートを作成する。
履修のポイント
看護研究を行う上で重要な、基本的知識について学びます。積極的に授業に参加してください。
オフィス・アワー
在室時、随時対応します。10号館2階研究室5

講義コード	11110001
講義名	看護専門職論Ⅴ
(副題)	【保健師必修】
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	金曜日
代表時限	4時限
区分	専門科目
必修/選択	必修
学年	4学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 林 かおり	指定なし

授業の概要

1. 医療関連感染とは何か、現代の医療の中での状況及び予防対策について学習をする。2. 医療関連感染予防の具体的な方法について学び、実践できるようにする。3. 感染管理プログラム・教育及び研究成果から、看護師の担う感染防御の役割の理解を深める。4. 新興感染症について理解を深める。

教育目標

1. 看護師として感染管理を行う役割について理解をする。2. 実際の医療感染対策の方法について理解をし、実践的知識の習得をする。

到達目標

1. 感染管理・感染看護の概念と近年の動向について学ぶ。2. 医療施設及び地域での医療活動における感染予防の方法について学習をする。3. 医療者自身の感染予防対策の具体的な方法について実践できるように学習をする。4. 感染症患者または易感染患者に対する看護の具体的な方法とその根拠について学ぶ。

授業計画

	主題	授業内容
第1回	感染管理と感染看護の概念/医療関連感染サーベイランス	感染管理・感染看護の役割/感染管理に関する現状と研究成果 感染症に関わる倫理的問題/医療関連感染サーベイランスの定義
第2回	新興感染症とその対策・Zoonosis	デング熱、エボラ出血熱、ジカ熱など新興感染症、Zoonosisとは
第3回	医療施設における感染症の発生要因及び感染対策の基本	感染の成立と予防に関する考え方・医療関連感染の定義 スタンダードプレコーションの実際と方法
第4回	医療器具及び医療処置の伴う感染予防	滅菌操作時の感染予防
第5回	医療施設におけるファシリティ・マネジメント	感染性廃棄物の取り扱い/洗浄・消毒・滅菌
第6回	職業別感染防止対策	針刺し・切創・汚染/医療施設で問題となる流行性感染症と対策

第7回	医療機関での部署別感染対策	様々な医療施設における感染対策（手術室、ＩＣＵ、ＮＩＣＵ、透析室、リハビリ室、レントゲン文門、高齢者施設、在宅等）
第8回	感染症患者の治療と看護	感染症別対策の方法について

教科書

大野義一郎『感染対策マニュアル』医学書院

参考書

「わかりやすい微生物・感染症」ヌーベルヒロカワ
坂本史衣「基礎から学ぶ医療関連感染対策-標準予防策からサーベイランスまで-」

成績評価

期末試験で60点以上 筆記試験90%、課題・出席10%

授業時間外の学習

既習学習である「感染と防御」の復習をすること。
新聞、テレビなどで報道される感染症に関する話題に興味を持つこと。

履修のポイント

主体的に積極的に授業に参加をすること。
微生物の名称と代表的な疾患・治療薬をまとめることで理解しやすくなります。

オフィス・アワー

在室時に対応をします。（臨地実習で不在が多いので連絡をしてから来室をお願い致します）

講義コード	11120001
講義名	看護専門職論Ⅵ
(副題)	【保健師必修】
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	月曜日
代表時限	2 時限
区分	専門科目
必修/選択	選択
学年	4学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 小林 早苗	指定なし
教員	古澤 悟	指定なし

授業の概要

自然・人為を問わず、国内・外を問わず、災害は人々の生命と健康を危機に陥れる。人々の生命と健康を守る看護が災害時に果たすべき役割を考えるとともに、災害発生時急性期から復興期までの段階において必要な看護の理論と技術を教授する。

教育目標

災害医療や看護の基礎を学び、災害時の看護職の役割を理解する。

到達目標

1. 災害の定義および災害看護の概要を理解できる。
2. 災害サイクルにおける保健医療ニーズと看護の場に応じた看護を理解できる。
3. 災害時に必要な援助技術の基礎を習得できる。

授業計画

	主題	授業内容	備考
第1回	災害看護の概要	歴史、定義、災害の種類、災害サイクル	講義 VTR使用予定
第2回	災害看護の特徴	災害医療の特徴、災害関連法律 災害拠点病院とは、災害の種類と健康問題	講義 VTR使用予定
第3回	災害サイクルと看護活動(1)	災害急性期の看護 ・救命・救出と災害時トリアージ ・災害時救急医療と看護の概要 ・ライフラインの復旧to災害活動のロジスティックス	講義 VTR使用予定
第4回	災害サイクルと看護活動(2)	災害亜急性期の看護 ・被災地の病院、避難所、または救護所での医療と看護 ・ボランティアセンターの開設と看護	講義 VTR使用予定
第5回	災害サイクルと看護	災害中長期（復旧・復興期）の看護 ・仮設住宅と巡回看護（アウトリーチ）のポイント	講義 VTR使

	活動(3)	活動の場における看護 ・救護所に備える医療体制と備品 ・避難所における巡回医療・看護のポイント	用予定
第6回	災害時の要支援者の把握と援助	子ども、妊産婦、高齢者など 在宅ケアを受けている人々 障がいのある人々	講義 VTR使用予定
第7回	災害とこころのケア 災害への備え	災害後のこころのケア 災害による死とグリーフケア 救援者のストレス対策 病院での災害への備え ・役割認識、防災マニュアルの活用、定期的 シュミレーション等 地域における災害への備え ・防災マップの活用（要支援者リスト,避難広 場,避難所,避難経路等）	講義 VTR使用予定
第8回	まとめ	講義のまとめ	

教科書

日本赤十字社事業局看護部（編）：系統看護学講座 統合分野 災害看護学・国際看護学、医学書院、2016.

参考書

特になし。

成績評価

単位認定：60点以上
筆記試験（100％）60点未満で再試験予定

授業時間外の学習

教科書と配布資料を中心に講義の復習を行い、着実にミニ課題に取り組むことで記憶に残る学習とする。

履修のポイント

キーワードを1つ1つ整理し、わからないことや疑問点は早めに質問する。

オフィス・アワー

講義前後の10分程度であれば対応可能。

講義コード	11120002
講義名	災害看護論
(副題)	【保健師必修】
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
区分	専門科目
必修/選択	選択
学年	4学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 小林 早苗	指定なし

授業の概要

自然・人為を問わず、国内・外を問わず、災害は人々の生命と健康を危機に陥れる。人々の生命と健康を守る看護が災害時に果たすべき役割を考えるとともに、災害発生時急性期から復興期までの段階において必要な看護の理論と技術を教授する。

教育目標

災害医療や看護の基礎を学び、災害時の看護職の役割を理解する。

到達目標

1. 災害の定義および災害看護の概要を理解できる。
2. 災害サイクルにおける保健医療ニーズと看護の場に応じた看護を理解できる。
3. 災害時に必要な援助技術の基礎を習得できる。

授業計画

	主題	授業内容	備考
第1回	災害看護の概要	歴史、定義、災害の種類、災害サイクル	講義 VTR使用予定
第2回	災害看護の特徴	災害医療の特徴、災害関連法律 災害拠点病院とは、災害の種類と健康問題	講義 VTR使用予定
第3回	災害サイクルと看護活動(1)	災害急性期の看護 ・救命・救出と災害時トリアージ ・災害時救急医療と看護の概要 ・ライフラインの復旧to災害活動のロジスティックス	講義 VTR使用予定
第4回	災害サイクルと看護活動(2)	災害亜急性期の看護 ・被災地の病院、避難所、または救護所での医療と看護 ・ボランティアセンターの開設と看護	講義 VTR使用予定
第5回	災害サイクルと看護活動(3)	災害中長期（復旧・復興期）の看護 ・仮設住宅と巡回看護（アウトリーチ）のポイント 活動の場における看護 ・救護所に備える医療体制と備品	講義 VTR使用予定

		・避難所における巡回医療・看護のポイント	
第6回	災害時の要支援者の把握と援助	子ども、妊産婦、高齢者など 在宅ケアを受けている人々 障がいのある人々	講義 VTR使用予定
第7回	災害とこころのケア 災害への備え	災害後のこころのケア 災害による死とグリーフケア 救援者のストレス対策 病院での災害への備え ・役割認識、防災マニュアルの活用、定期的 シュミレーション等 地域における災害への備え ・防災マップの活用（要支援者リスト,避難広 場,避難所,避難経路等）	講義 VTR使用予定
第8回	まとめ	講義のまとめ	

教科書

日本赤十字社事業局看護部（編）：系統看護学講座 統合分野 災害看護学・国際看護学、医学書院、2016.

参考書

特になし。

成績評価

単位認定：60点以上
筆記試験（100％）60点未満で再試験予定

授業時間外の学習

教科書と配布資料を中心に講義の復習を行い、着実にミニ課題に取り組むことで記憶に残る学習とする。

履修のポイント

キーワードを1つ1つ整理し、わからないことや疑問点は早めに質問する。

オフィス・アワー

講義前後の10分程度であれば対応可能。

講義コード	11140001										
講義名	看護専門職論Ⅷ										
(副題)	【保健師必修】										
開講責任部署	看護学科										
講義開講時期	後期										
講義区分	講義										
基準単位数	2										
代表曜日	水曜日										
代表時限	3 時限										
区分											
必修/選択											
学年											
担当教員											
<table><tr><td>職種</td><td>氏名</td><td>所属</td></tr><tr><td>教員</td><td>◎ 檀原 三七子</td><td>指定なし</td></tr><tr><td>教員</td><td>新川 加奈子</td><td>指定なし</td></tr></table>			職種	氏名	所属	教員	◎ 檀原 三七子	指定なし	教員	新川 加奈子	指定なし
職種	氏名	所属									
教員	◎ 檀原 三七子	指定なし									
教員	新川 加奈子	指定なし									
授業計画											

講義コード	11150001
講義名	統合セミナー
(副題)	
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	火曜日
代表時限	3 時限
区分	専門科目
必修/選択	必修
学年	4学年

授業の概要

これまで学んできた教養系科目、専門基礎科目、看護専門科目を踏まえ、それらを統合した思考プロセスで、実際の看護を展開していくことが重要である。学生が対象者を全人的に理解を深めるために、各専門領域間で連携し、その重要性を享受する。

教育目標

各専門領域の特徴的な疾患ならびにその看護について、幅広い側面から考え、それらを統合して理解できる。

到達目標

看護職者として知らなければならない疾病の原因、検査、症状、治療法などの基本的知識を基盤に、社会的側面（法令、規則など）を加えた、看護の統合性が理解できる。看護師国家試験に対応できる知識を習得する。

授業計画

教科書

各領域で使用した教科書
レビューブック、岡庭 豊編集、メディクメディア発行

参考書

必要時、紹介する。また、授業時に必要な資料を配布する。

成績評価

最終試験で60点以上を合格とする。国家試験形式での試験を実施予定。
授業毎にミニテストを実施し、その結果も参考にします。

授業時間外の学習

国家試験にも直結する授業内容です。日頃の継続的な取り組みが不可欠である。

履修のポイント

授業に参加しその場で理解を深める事が大切。また疑問に思う事は積極的に質問し、その都度解決することが大切である。
欠席しないようにしてください。

オフィス・アワー

研究室に在室時はいつでも対応可。

講義コード	11160001
講義名	看護セミナー
(副題)	
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	通年
講義区分	演習
基準単位数	4
代表曜日	金曜日
代表時限	1 時限
区分	
必修/選択	
学年	

担当教員

職種	氏名	所属
教員	伊藤 美鈴	指定なし
教員	林 圭子	指定なし
教員	永井 道子	指定なし

授業の概要

看護活動の場（保健・医療等の実践の場）で、自ら選定した課題を探究又は解決するために、実施計画を立案する。計画に従って実施し、得られた結果を実習報告書（論文形式）にまとめる。

教育目標

課題を探究・解決する過程を通して、より質の高い看護を提供するために継続して学習を深めることの意義を理解する。生涯にわたって看護学及び看護研究を発展させていくための基礎的能力を習得する。

到達目標

1. これまでの学習及び先行文献により、自己の課題を明確にすることができる。
2. 課題を達成させるために、先行文献をもとに計画の立案及び調整をすることができる。
3. 課題を達成するために実施することができる。
4. 課題の結果について先行文献を用い考察することができる。
5. 課題に対する実践結果を研究論文の構成要素に従って論述し期限内に提出する。

授業計画

	主題	授業内容
第1回	看護セミナーの進め方	看護セミナー実習の概要を説明する。
第2回	各領域からのセミナーの紹介	各領域の教員からの説明 看護学領域：基礎、母性、小児、成人、精神、高齢期、在宅、公衆衛生
第3回	自己の課題の探究①	希望する領域の明確化
第4回	文献検討の方法①	文献検索の方法
第5回	自己の課題の探究②	セミナー領域の決定
第6回	文献検討の方法②	各領域に関連する文献を検索する。
第7回	各領域において看護セミナーの実施（19日間）	各領域の担当教員の指導を受け、看護セミナー実習を行う。

教科書
黒田裕子『黒田裕子の看護研究 Step by Step』（医学書院）
参考書
授業中に紹介します。
成績評価
単位認定：60点以上 到達目標の達成度を総合的に評価する。
授業時間外の学習
文献検討、予習、実習報告書の作成等を行う。
履修のポイント
主体的に行動し、時間を有効に活用して課題に取り組むこと。
オフィス・アワー
各担当教員と調整をする。

講義コード	11170001
講義名	現代教職論
(副題)	【教職必修】
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	1 時限
区分	教職科目
必修/選択	選択
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 山本 裕詞	指定なし

授業の概要

まず最初に、人間の成長に必要となる「教育」について思考を深め、その上で、公的な教育施設である学校や公的資格である教員免許状の意義について考えていきます。その際、具体的な制度、仕組み、役割を確認しながら、本来の意義に立ち返って批判的に理解を深めます。最後に、近年社会問題化している教育問題について、そこで期待されている教員の役割を確認し、それを「教育」や「学校」の本来的意義から批判的に検討します。

教育目標

教職の意義や役割、具体的な職務内容等について理解を深め、さらには、社会的使命に関する認識を通して、教職を目指す者としての意欲を高め、責任を自覚するとともに、教員としての自らの具体的な在り方について、目指すところを述べることができるようになるのが目標です。

到達目標

- ① 教化と教育と放任の違いについて、説明することができる。
- ② 学校教育の目的、組織と運営、機能についての基本的事項について、理解している。
- ③ 教諭の主な教育活動や服務に関する基本事項について、その概要を把握している。
- ④ 社会化した教育問題の概要を把握し、それに対する学校・教師の役割に関する思考を深めている。

授業計画

	主題	授業内容
第1回	○オリエンテーション ○二つの教育モデル	○授業計画および評価方法の案内 ○二つの教育モデルと教員のあり方を考える
第2回	学校教育の機能 1	○学校教育の目的 (1) 学校の種類 (2) 学校の設置者 (3) 教育行政と学校管理
第3回	学校教育の機能 2	○教職員とその職務 (1) 教職員の職務とその内容 (2) 事務職員の職務 (3) その他
第4回	教育の資質と教員観	○教員に求められる資質能力 (1) 教員に求められる資質

		(2) 専門職としての教員
第5回	学校の組織と運営 1	○校長および教頭、主任の職務と役割 (1) 校長 (2) 副校長、教頭 (3) 主任等
第6回	学校の組織と運営 2	○学校の組織運営 (1) 校務分掌による役割分担 (2) 新しい職による組織の変化
第7回	教諭の教育活動 1	○学級担任の職務と教科指導 (1) 学級担任の役割と学級経営 (2) 教科指導
第8回	教諭の教育活動 2	○道徳の指導と「総合的な学習の時間」 (1) 道徳教育の実際 (2) 総合的な学習の時間
第9回	教諭の教育活動 3	○生徒理解にもとづく指導 (1) 生徒指導の意義 (2) 進路指導の意義
第10回	教員の勤務と服務	○教員の一日と服務規程 (1) 勤務と休暇 (2) 服務規律
第11回	教員の研修	○教員の研修とその体系 (1) 教員研修の種類 (2) 教員研修の内容 (3) 免許更新制度
第12回	現代における教育の課題 1	○人権教育と学習権の保障 (1) 同和教育 (2) 特別支援教育の理念と「障がい」理解
第13回	現代における教育の課題 2	○いじめと不登校 (1) いじめの現状と自己の認識 (2) 不登校対策
第14回	現代における教育の課題 3	○学習指導要領の概要と課題 (1) 学習指導要領の歴史的経緯 (2) 新学習指導要領の目指すもの
第15回	学習のまとめとテスト	○講義のまとめとテストを行う。

教科書

テキストは使用しませんが、卒業年度に教員採用試験の受験を考えている学生は、最新版の教育小六法（例えば、『教育小六法2016年版』学陽書房など）を用意し、必要に応じて確認する習慣をつけておくことを推奨します。

参考書

- ・森下恭光編著『第2版 教師論 - 教職とその背景 - 』明星大学出版部 2009年
- ・奈良教育大学 次世代教員養成センター課題探究教育部門教師力サポートオフィス監修『教師力を鍛えるケースメソッド123 ～学校現場で生じる事例とその対応～』ミネルヴァ書房 2014年
- ・菱村幸彦編集『学校の危機管理マニュアル』教育開発研究所 2000年
- ・片山紀子編著 富永直也著『学校がみえる教職論』大学教育出版 2012年

成績評価

定期試験50%、レポート・小テスト等平常点50%の割合で総合評価し、60点以上の者を合格とします。欠席、遅刻、早退については減点対象とします。

授業時間外の学習

授業中の配布プリントを整理したり、ノートを見直したりする等、復習を中心にして、知識の定

着を図る必要があります。また、新聞等マスメディアにおける「教育」や「学校」、「教員」に関する報道記事を確認し、それらに対する自己の関心を高めるとともに、社会の関心の持ち方についても批判的に検討してもらいます。

履修のポイント

教育を受ける立場から、教育を行う立場に変わることを意識した主体的な学びを心がけてください。

オフィス・アワー

授業の前後で質問に応じますが、その他、必要に応じて互いの都合の良い時間を個別に設定します。相談してください。

講義コード	11180001
講義名	教育心理学
(副題)	【教職必修】
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	1 時限
区分	教職科目
必修/選択	選択
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 亀岡 聖朗	指定なし

授業の概要

教師が学校現場で児童・生徒と対応する際には、彼らが、今現在発達的にどのような状況におかれているのか、また、そのときの心の状態はいかなるものなのか、ということに配慮しながら接することが求められる。この科目では、人は環境と相互に作用しあう存在であることを踏まえて、人の発達過程、学習過程、教授過程について講義する。授業は講義形式で行うが、授業後半では実習も取り入れ、学生による「模擬授業」を実施する。

教育目標

青年期までの人の発達過程とその特徴、学習のしくみと学習を規定する要因と障がい、教授の類型について理解を深めることを目的とする。

到達目標

1. 教育心理学で使用されるさまざまな専門用語の意味を理解する。
2. 青年期までの人の発達過程とその特徴について理解する。
3. 学習のしくみと学習を規定する要因、および障がいについて理解する。
4. 「教える」ということを体験を通じて実感し、自ら「教える」立場をシュミレーションする。

授業計画

	主題	授業内容	備考
第1回	ガイダンス 教育心理学で 取り扱う問題	講義の進め方、成績評価のしかたなどについて 教育心理学で取り扱う内容について（発達・学習・教授）	1 章
第2回	人生初期の発達①	生涯発達（発達の理論）、人間発達の共通性、社会性 発達の芽生え	2 章・ 3 章・ 6 章
第3回	人生初期の発達②	認知の発達、発達の最近接領域	2 章・ 4 章
第4回	青年期の発達①	青年期の心理的特徴、道徳性の発達、適応と不適応、 適応機制	5 章・ 1 2 章
第5回	青年期の発達②	青年期の発達課題、アイデンティティの獲得について	5 章
第6回	障がいの理解	障がいの種類、障がい児・者の理解と対応	1 5 章

第7回	さまざまな学習理論①	連合説（刺激－反応の結びつき）による学習のしくみと認知説（認知の変容）による学習のしくみ	7 章
第8回	さまざまな学習理論②	授業における学習指導の理論、学習の個性化	8 章
第9回	学習の規定因①	動機づけの理論、動機づけを高めるためには	8 章
第10回	学習の規定因②	個性を反映するものとしての知能～知能の構造、知能検査、創造性	1 0 章
第11回	学習の規定因③	個性を反映するものとしての性格～性格理論、性格検査	9 章・11 章 ※実習を含む予定
第12回	学校教育相談	学級集団の理解、生徒指導と教育相談、教育相談のあり方とその方法	1 3 章・1 4 章
第13回	教育測定と教育評価	評価の意義と工夫、絶対評価と相対評価の違い、学力のとらえ方	1 1 章
第14回	教授技法①	教える技術、伝える技術、授業づくり 模擬授業体験①（模擬授業についての説明と計画）	※実習を含む予定。
第15回	教授技法②	模擬授業体験②（体験学習；発表）	※実習を含む予定。

教科書

藤田主一・齋藤雅英・宇部弘子編『新 発達と教育の心理学』福村出版

参考書

適宜紹介する。

成績評価

単位認定60点以上。筆記試験85%、レポート・課題15%。

授業時間外の学習

各回の主題に該当する教科書の章に目を通すことが予習となる。配布資料・ノートのまとめを復習として勧める。主題により、復習のためのレポート課題を課すことがある。

履修のポイント

授業への積極的な取り組みを期待します。

オフィス・アワー

毎週水曜もしくは木曜の昼休み（12：30～13：20）、11号館第8研究室。
あるいは、講義終了前後などに、適宜受け付けます。

講義コード	11190001
講義名	教育課程論
(副題)	【教職必修】
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	木曜日
代表時限	2 時限
区分	教職科目
必修/選択	選択
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 山本 裕詞	指定なし

授業の概要

教育課程は、教員の教育活動、児童生徒の学習活動を方向づけるもので、学校教育が組織的・系統的に行われるためには不可欠なものであり、児童生徒の発達と学校の環境条件にあわせて作られた教育計画です。

講義では、学校教育が所期の目的をより効果的に達成しようとする観点から、まず、教育課程の意義、構造、機能、歴史といった基本的な事項について説明し、次いで、その編成方法、編成に関する法規、評価の仕方等、実践的な事項について考察し、理解を深めていきます。

教育目標

学校教育における教育課程の意義と構造・機能を理解し、編成に関する基本的な事項についての知識を学ぶことを目的とします。その際、教育課程の編成と学習指導要領の関係について理解を深めることが重要となります。

到達目標

- ①学校における教育活動に、なぜ教育課程が必要となるのか、また、教育過程がどのような歴史的変遷を経て今日に至ったのかを理解する。
- ②教育課程の構造と機能がどのようなものなのかを把握する。
- ③教育課程の編成上、学習指導要領の持つ意味や、編成に制約を与える法規について理解する。
- ④教育課程の実施に伴う評価の重要性を理解する。

授業計画

	主題	授業内容
第1回	学校教育と教育課程	○オリエンテーション ○学校の性質と教育内容の組織化 ○教育課程の意義
第2回	教育課程の概念	○教育課程の定義 ○学習内容観と教育課程のタイプ ○文化の体系重視、経験・活動の重視、児童中心
第3回	教育課程の条件	○哲学的条件 ○社会的条件 ○心理学的条件 ○教育学的条件
		○社会の発展段階と教育課程の特徴

第4回	歴史のなかの教育課程	○教養重視の教科並列型 ○統合的教育課程論 ○経験主義的教育課程論
第5回	現代社会と教育課程	○知識基盤型社会と学問中心的教育課程 ○人間化への要請と「ゆとりの教育」 ○学力重視の政策と教育課程
第6回	人間の成長と教育内容	○発達段階への対応 ○可能性＝可塑性への働きかけと教育内容 ○社会化と教育内容 ○学力形成と教育内容
第7回	教育内容の構造	○教育内容の類別 ○教科の構成 ○教育内容の精選と構造化 ○教科以外の教育内容
第8回	単元の設定	○単元の意義 ○教材単元と経験単元 ○単元の構成と教材の準備
第9回	教育課程の編成	○全体的教育課程と個別的教育課程 ○教育課程編成に関する法規 ○教育課程編成の手順と特例
第10回	教育課程編成における定性化	○定性化とは何か ○教育課程編成上の基本的視点 ○指導内容の重点化と構造化
第11回	教育課程編成における定量化	○教育内容と教育時間における量的制約 ○教育・学習活動における定量化の必要性 ○指導内容の適量と時間配当の問題
第12回	教育課程の実施	○指導・行事計画、日課表、時間割の作成 ○教材のチェック ○施設整備の点検と活用
第13回	教育課程の評価	○教育課程の実施に対する評価の視点と方法 ○教育課程の接続と改善
第14回	学習指導要領と教育課程の改革	○学習指導要領の変遷（試案から告示へ） ○学習指導要領の構造と役割 ○現代社会に対する現行学習指導要領の戦略
第15回	授業のまとめとテスト	○現代社会における教育課程編成の課題 ○授業の総まとめとしての確認テスト

教科書

教科書は使用せず、必要に応じて授業中にプリントを配布します。

参考書

柴田義松著『教育課程 カリキュラム入門』有斐閣コンパクト 2000年

成績評価

定期試験50%、レポート・小テスト等平常点50%の割合で総合評価し、60点以上の者を合格とします。

授業時間外の学習

授業中に配布したプリントを整理したり、ノートを見直したりする等、復習を中心にして、知識の定着を図る必要があります。また、新聞等マスメディアにおける「教育」や「学校」、「教員」に関する報道記事を確認し、それらに対する自己の関心を高めるとともに、社会の関心の持ち方についても批判的に検討してもらいます。

履修のポイント

教育を受ける立場から、教育を行う立場に変わることを意識した主体的な学びを心がけてください。

オフィス・アワー

授業の前後で質問に応じますが、その他、必要に応じて互いの都合の良い時間を個別に設定します。相談してください。

講義コード	11210001
講義名	生徒指導論
(副題)	【教職必修】
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	5 時限
区分	教職科目
必修/選択	選択
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 田口 和人	指定なし

授業の概要

子どもたちを取り巻く状況は、社会の変化に呼応するかのように多様な問題を内包してきています。不登校・いじめ（いじめ自殺）・ネットトラブル・引きこもり・学級崩壊など、多くの学校でみられるような教育問題が存在しています。生徒指導はこれらに対処することが求められています。これらを前提として、①生徒指導とはなにか、②生徒指導が担うべき役割はなにか、③生徒指導において教師がそなえ持つべき要件はなにか、を基本的な柱として考えたいと思います。
※発言を求めます。

教育目標

子どもたちの背景にあるものを、広く・深く洞察できるような知識・観点・考え方の学習を目的とします。

到達目標

次の4つを学習目標とします。
①学校教育の現状について認識を深めること
②子どもたちを取り巻く状況についての認識を深めること
③子どもの背景にあるものへの各自の洞察力を育てること
④生徒指導への大胆なアイデアをもつように努力すること

授業計画

	主題	授業内容
第1回	生徒指導とは	学校教育・生徒指導の記憶・イメージをたどりながら、その共有化をはかる。
第2回	学校とは、学校教育とは	生徒指導の経験的イメージを踏まえながら、教育活動の二つの形態（教授と陶冶）について考える。
第3回	子どもの内面への接近①	視聴覚教材（楽曲）により、子どもの内面世界への洞察を試みる。その上で、感想・意見をレポートする。
第4回	子どもの内面への接近②	第3回での感想・意見をもとに、子どもの内面理解を掘り下げる。
第5回	学校教育の現状	視聴覚教材により、今日の学校教育の現状について考える。その上で、感想・意見をレポートする。
第6回	生徒指導の現状	第5回での感想・意見をもとに、生徒指導が必要とされる子ども

		もの現状についての理解を深める。
第7回	グループ・ディスカッション①	生徒指導に関わるテーマについて、グループでディスカッションを行い、報告の準備を行う。
第8回	グループ報告会①	第7回でのディスカッションをもとに、報告を行う。
第9回	体罰問題	学校教育、部活動でなくならない体罰について考える。
第10回	グループ・ディスカッション②	生徒指導に関わるテーマについて、グループでディスカッションを行い、報告の準備を行う。
第11回	グループ報告会②	第10回でのディスカッションをもとに、報告を行う。
第12回	いじめ問題	視聴覚教材により、いじめ（いじめ自殺）の現状について考える。その上で、感想・意見をレポートする。
第13回	いじめと生徒指導	生徒指導をとうして、いじめ問題にどのように対応すれば良いかを考える。
第14回	携帯（SNS）問題・学級崩壊	携帯（SNS）にまつわる問題、および学級が崩壊状態に陥る現状について考える。
第15回	まとめ	経験してきた生徒指導と授業を通して学んだ生徒指導を比較検討して考える。

教科書

適宜、資料を配付します。

成績評価

単位認定：60点以上 筆記試験80% レポート・発言20%で評価します。

オフィス・アワー

授業の前後の時間帯

講義コード	11220001
講義名	道德教育及び特別活動の研究
(副題)	【教職必修】
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	火曜日
代表時限	4 時限
区分	教職科目
必修/選択	選択
学年	4学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 田口 和人	指定なし

授業の概要

教育課程における道德教育・特別活動の位置について理解することを第一に行います。その上で、道德教育と特別活動を一応区分したうえで、それぞれについて「グループ討議」を行います。また視聴覚教材を見て道德の授業についての理解を深めます。

教育目標

教育課程における道德教育・特別活動の位置について理解すると同時に、今日の子どもたちが置かれた状況を考慮した場合に、どのような道德教育・特別活動が求められるのかについて考えることを学習の目的とします。

到達目標

日本の道德教育は1945年を境とする戦前・戦後では大きく変わりました。それは特別活動にも同様のことがいえます。何がどのように変わったのかについて理解することを一つの目標とします。その上で、今日の子どもたちが抱える様々な教育問題を想定しながら、求められる道德教育・特別活動はどのようなものであるのかについて、自分自身で考えることを二つ目の目標とします。

授業計画

	主題	授業内容
第1回	教育課程における道德教育／特別活動	道德教育とは、特別活動とは（教育課程についての説明）。日本の近代教育における道德教育と特別活動について考える。
第2回	学校教育について	教育活動の二つの形態（教授と陶冶）について学習する。
第3回	学習指導要領と道德教育／特別活動	今日の道德の教科化を念頭に、学習指導要領と道德教育・特別活動について学習する。
第4回	道德の授業	道德の授業の視聴覚教材を見て、批判的な検討・学習を行う。
第5回	特別活動の授業	学級活動、児童会活動及び生徒会活動、学校行事について学習する。
第6回	道德教育／特別活動についてのグループ討議①	テーマを設定してグループごとに討議を行う。

第7回	道徳教育／特別活動についてのグループ討議②	グループ討議した内容を整理して、発表する。
第8回	まとめ	道徳教育と特別活動の現状と展望についてのまとめを行う。

教科書

適宜、資料を配付します。

成績評価

単位認定：60点以上 筆記試験80%、授業中のレポート、発言20%で評価します。

オフィス・アワー

授業の前後の時間帯

講義コード	11230001
講義名	教育相談論
(副題)	【教職必修】
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	5 時限
区分	教職科目
必修/選択	選択
学年	4学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 山本 裕詞	指定なし

授業の概要

学校における教育相談について、その目的の理解から入り、徐々に具体的技法や現実の児童生徒を想定した教育相談の在り方を明らかにしていきます。カウンセリングやソーシャルワークの技法にも学びながら、教師の専門性として教育相談が展開されることの意義について理解を深めていきます。

教育目標

教育相談の必要性を理解し、基礎的知識を得るとともに、実践する際の基礎力を身に付けます。

到達目標

- 1.教育相談の必要性、学校教育上の位置付けについて理解する。
- 2.子どもの成長発達上の課題や、それに対する現代社会の影響を踏まえた対応を理解する。
- 3.教育相談の技法を支える人間観を理解する。
- 4.教育相談に係わる多様な専門職性を理解し、チームアプローチの基礎的知識を得る。
- 5.事例を通して、教育相談を実践する基礎を培う。

授業計画

	主題	授業内容
第1回	1.オリエンテーション 2.教育相談の目的	1.授業のねらい、方法、評価の在り方について 2.なぜ学校が必要で、なぜ学校で教育相談が必要とされるのか
第2回	教育相談の現在	1.広義の教育相談と狭義の教育相談 2.近年の学校教育相談の動向
第3回	教育相談の機能と学校内の位置付け	1.学校教育相談の4機能 2.学校内組織における教育相談の位置付け
第4回	教育相談の基本姿勢	1.心理的事実の受容・共感と客観的指導 2.教育相談の「心」
第5回	教育相談の理論と技法	1.理論と技法に関する基礎知識の必要性 2.主な理論と技法に学ぶ
第6回	児童生徒理解とは何か	1.意義と分類 2.児童生徒理解の基本姿勢と具体的方法
		1.一般的理解の必要性

第7回	児童生徒の一般的理解	2.心に関わる疾病・障害・行動特性・言動
第8回	発達段階の理解	1.「発達」という概念の特徴 2.発達課題の考え方
第9回	児童生徒理解の手法	1.「みる」「きく」ことによる理解 2.「探る」ための基礎知識
第10回	校内教育相談体制の構築	1.管理職の役割と可能性 2.校内教育相談体制と担任の役割
第11回	教育相談の組織的展開	1.異なる専門職との連携 2.専門機関との連携
第12回	教育相談に必要な法令解釈	1.教育相談と法令 2.専門団体の倫理規定と校内の申し合わせ
第13回	開発的・予防的教育相談	1.自尊感情を育て、共感力を高める支援 2.相互支援を進め、集団成長を促す
第14回	問題解決的教育相談	1.発達障害のある児童生徒への対応 2.多様化する問題への対応
第15回	これからの教育相談	1.授業のまとめ 2.試験

教科書

使用しません。授業中、必要に応じてプリント等を配布いたします。

参考書

文部科学省『生徒指導提要』2010年、文部科学省「児童生徒の教育相談の充実について（報告）」（以上の2点は、文科省HPから入手可能）、島崎政男『入門 学校教育相談』学事出版2014年。

成績評価

60点以上の評価で単位を認定します。評価の割合は、授業中に数回実施予定の確認テストで50%、授業最終回のまとめの後に実施する試験によって50%です。欠席、遅刻、早退、課題の未提出等は減点の対象とします。詳細は、初回授業オリエンテーションにおいて説明します。

授業時間外の学習

授業内容の復習を中心とした自主的な学習が必要となります。

履修のポイント

「教育相談」の原理的理解に努めながらも、同時に、児童生徒の多様な状況・生活背景等を推察することが重要です。

オフィス・アワー

授業の前後で質問に応じますが、その他、必要に応じて互いの都合の良い時間を個別に設定します。相談してください。

講義コード	11240001
講義名	教職実践演習（養護教諭）
(副題)	【教職必修】
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	木曜日
代表時限	3 時限
区分	教職科目
必修/選択	選択
学年	4学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 黒岩 初美	指定なし
教員	山本 裕詞	指定なし

授業の概要

第1回目に、養護担当教員と教職担当教員によるオリエンテーションを行う。また、各自の課題把握状況と授業に対する希望調査を行う。その後、希望調査の結果を踏まえた授業内容で課題を改善する。
後半では、各自の課題について調べ学習を行い、その成果を模擬授業形式で発表し、検討会をと
おして自他の評価を行い学習成果の共有を図る。

教育目標

- ・これまでの学びを通じて、養護教諭として最小限必要な資質能力として有機的に統合され形成されたかについて確認する。
- ・教師になる上で、自己にとって何が課題であるのかを自覚し、不足している知識や技能等を補う。

到達目標

- ①教育実習評価、実習日誌等により自己の課題を把握し、履修カルテにまとめる。
- ②把握した自己の課題を改善すべく、不足している事柄を学び、補完する。

授業計画

	主題	授業内容
第1回	オリエンテーション	教職実践演習の内容とスケジュールの確認。 自己の課題把握と学びの希望調査シートの作成。
第2回	希望調査を踏まえたテーマによる授業と討論	学校をテーマとした教材を視聴する。
第3回	希望調査を踏まえたテーマによる授業と討論会	学校をテーマとした教材を視聴し、課題についてグループ・ディスカッションを行う。
第4回	希望調査を踏まえたテーマによる	気になる子の対応について、養護教諭の職務「5領域」をもとに考察する。授業後、対応方法についてグループ・ディスカッションを行う。

	授業と討論会	ンを行う。
第5回	希望調査を踏 まえたテーマ による 授業と討論会	特別支援教育制度について指導後、課題をもとにグループ・ディスカッションを行う。
第6回	希望調査を踏 まえたテーマ による 授業と討論会	近年の公教育の変化についてについて指導後、課題をもとにグループ・ディスカッションを行う。。
第7回	模擬授業 グループワ ークとまとめ	学校で起こりやすい救急対応、フィジカルアセスメント救急処置
第8回	模擬授業 グループワ ークとまとめ	調べ学習を行いその成果を授業形式で発表する。 その後グループワークで検討した後にまとめをする。
第9回	模擬授業 グループワ ークとまとめ	調べ学習を行いその成果を授業形式で発表する。 その後グループワークで検討した後にまとめをする。
第10回	希望調査を踏 まえた授業内 容	保健室をテーマとした視聴教材を視聴し、課題についてグループ・ディスカッションを行う。
第11回	希望調査を踏 まえた授業内 容	保健室をテーマとした視聴教材を視聴し、課題についてグループ・ディスカッションを行う。
第12回	補足とまとめ 保健室と養護 教諭の職務	学生の希望調査を踏まえた授業内容を実施する。 その後グループワークで検討した後にまとめをする。
第13回	補足とまとめ 保健室と養護 教諭の職務	学生の希望調査を踏まえた授業内容を実施する。 その後グループワークで検討した後にまとめをする。
第14回	補足とまとめ	目指す養護教諭像について：題「教師、子ども、保護者が期待する養護教諭の姿とは」グループ・ディスカッションを行う。
第15回	補足とまとめ	履修カルテを用いて、教職課程の総合的な確認を行う。

教科書

必要に応じて、プリント等を配布する。

参考書

采女智津江編他『養護概説』（少年写真新聞社）2016年、岡田加奈子他編著『養護教諭のための現代の教育ニーズに対応した養護概論』（東山書房）2016年、徳山美智子他編著『学校保健』（東山書房）2016年、保坂亨他著『面接法』（北大路書房）2000年、『生徒指導提要』（文部科学省）2010年3月、教職員のための子どもの健康相談及び保健指導の手引』（文部科学省）2011年8月

成績評価

単位認定60点以上、グループへの貢献・個人研究発表・ミニレポート（70%）、課題レポート（30%）とする。

授業時間外の学習

各自の課題意識に基づいた自律的な学びを行なうこと。

履修のポイント

各自が自分の考えを積極的に発表し、共に学びあう場にすることを意識すること。

オフィス・アワー
授業の前後に質問に応じる。また、個別相談したい場合は事前にアポイントを取ること。

講義コード	11250001
講義名	養護実習
(副題)	【教職必修】
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	前期
講義区分	実験・実習
基準単位数	4
代表曜日	
代表時限	
区分	教職科目
必修/選択	選択
学年	4学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 黒岩 初美	指定なし
教員	山本 裕詞	指定なし

授業の概要

教育実習生として、これまで学習した学校保健や養護教諭の職務に関する知識や技術を講話・観察・参加・実習の形で実習する。学校における教育活動全般について理解するとともに、児童生徒の実態や課題を把握し、学校保健活動推進の仕方を学ぶ。指導養護教諭が専門的な立場から行う児童生徒に対しての適切な指導や助言の在り方等を学ぶ。さらに、教育職員・組織人としての責任と自覚、専門職としての向上意欲、使命感の醸成を図る。

教育目標

①これまで学習した知識・理論・技術を実践を通して習得する。②児童生徒の実態と学校、地域の現状を知り、学校教育目標に学校保健の機能を活かした健康推進活動が実践されていることを理解する。③養護教諭として必要とされる資質・能力についての学習課題を捉える。

到達目標

養護実習を通して、

- ①「養護」の対象である児童生徒の心身・生活の状況及び健康問題の特質を理解をできる。
- ②保健管理・保健教育・組織活動の実際に触れ、知識と実践を結びつけてより深く理解することができる。
- ③養護教諭と他教職員、保護者や地域等との連携や協働の実際を知ることができる。

授業計画

	主題	授業内容
第1回	第1週	・実習計画の細案の打ち合わせ（講義・観察・参加・実習別） 情報収集と実習目標に向けた取組 健康診断の準備、実施事後措置等 研究授業までの計画
第2回	第2週	積極的に課題意識をもつての実践
第3回	第3週	実習の成果を点検 ・各種の指導や実践のをまとめ評価する。 ・得られた成果を確認する。 ・実習をまとめ、大学へ提出する報告書を作成する。

教科書
大谷尚子 中桐佐智子 編著養護教諭必携シリーズNo4「養護実習ハンドブック」（東山書房）
参考書
徳山美智子他編著）「学校保健」（東山書房） 采女智津江編著「新養護概説（第7版）」（少年写真新聞社
成績評価
単位認定60点以上、実習校での評価、実習記録等をもとに大学教職課程委員会と協議し総合判定とする。再実習は実施しない。
授業時間外の学習
実習期間中、毎日実習内容の記録と振り返りを行い、自身の学びと課題を確認すること。
履修のポイント
実習校での積極的な体験及び反省評価を繰り返すことで成果が得られる。そのための事前準備が重要になる。
オフィス・アワー
事前にアポイントを取ること。

講義コード	11260001
講義名	教育実習事前事後指導
(副題)	【教職必修】
開講責任部署	看護学科
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	月曜日
代表時限	2 時限
区分	教職科目
必修/選択	選択
学年	4学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 黒岩 初美	指定なし
教員	山本 裕詞	指定なし

授業の概要

教育実習（養護実習）の意義と学校現場における学び方、教育実習生の責任と立場を理解する。既修した養護教諭の職務に関する知識や技術を実践できるようにする。学校における教育活動全般と学校保健について再確認しながら、実習期間中の観察の視点や記録の仕方を理解し、児童生徒の実態、学校保健活動の在り方、養護教諭の対応等現場で体験する事柄について予習する。専門職としての期待や信頼にこたえうる判断と態度、行動の在り方を自覚する。実習後は現場で体験した事柄について理解を深め、自己の課題解決に取り組む。

教育目標

- ①児童生徒等の実態、学校・地域の現状を知り、教育目標、学校保健目標の達成のために、どのような保健活動が行われているか理解する
- ②学校教育計画、校務分掌、学校運営、教育課程、特別活動、総合的な学習の時間等について知り、保健教育と保健管理、組織活動の実践を具体的に実習できるようにする。
- ③養護教諭として必要な資質・能力についての課題を発見できる。

到達目標

- ①児童生徒等の健康課題の背景要因を考えることができる。
- ②学校における教育活動全般と学校保健計画及び保健室経営との関連を理解し、実習校の特色や養護教諭の行う保健管理、保健教育、組織活動の例示ができる。
- ③「児童生徒の養護をつかさどる」活動に対する児童生徒・保護者・教職員のニーズを具体的に表現することができる。

授業計画

	主題	授業内容
第1回	教育実習・事前指導 オリエンテーション	学び方、授業の概要、学習目的 実習の意義、実習に臨む姿勢、実習校との事前打ち合わせの内容
第2回	養護実習の内容と方法	目標と実習の内容及び記録の書き方と評価
第3回	子どもの心身の健康管理のための活動	定期康診断の事前、実施、事後措置 実技・演習：歯科検診、聴力検査、歯垢染め出し及び歯科保健指導
		日常の学校教育活動と学校行事

第4回	子どもが過ごす学校生活と環境	感染症と学校環境衛生 実技・演習：吐物処理・水質検査・照度検査・空気検査
第5回	保健室来室者への対応	学校救急体制および学校救急 処置の演習 確かなアセスメントと救急処置・対応
第6回	保健教育	保健学習と集団的保健指導の実際 個別的保健指導との関連について
第7回	保健指導、健康相談活動	個別的保健指導について 健康相談活動と健康教育
第8回	養護実習報告会と養護実習の 自己評価	養護実習の成果と課題について各自でプレゼンテー ションする 養護実習の成果を評価、総括

教科書

養護教諭必携シリーズNo4「養護実習ハンドブック」大谷尚子 中桐佐智子 編著（東山書房）

参考書

「新養護概説〈第7版〉」采女智津江 少年写真新聞社

成績評価

単位認定60点以上、事前・事後指導の学習態度演習の評価、実習校における評価、実習報告会の成果を総合評価

授業時間外の学習

各自が課題をもって、積極的に予習や復習に励むこと。

履修のポイント

関心・意欲・課題意識をもち、積極的に学び誠実な態度で養護実習に臨めるようにする。

オフィス・アワー

事前にアポイントを取ること。